

「長崎伝習所」平成24年度研究成果報告書

始まり 始まり～



目 次

総長あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
運営委員からのメッセージ・・・・・・・・・・・・・・・・	3
長崎伝習所概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7
長崎伝習所の活動記録(運営委員会、塾長会議など)	10

塾研究成果報告

長崎の町ねこ調査隊塾	塾長 中島 由美子	17
孫文・梅屋庄吉と明治大正長崎事情塾	塾長 村崎 春樹	39
ながさきで物語をつくろう塾	塾長 重野 裕美	57
東京出島塾	塾長 大瀬良 亮	67
在京長崎・感・考・塾	塾長 田尾 正行	81

フォローアップ塾研究成果報告

ナガサキポルトガルシルシル塾	塾長 山口 克己	106
長崎ビューポイント探訪塾	塾長 村田 明久	108

つながり事業成果報告

まちづくり人材育成事業(ファシリテーター養成講座)	112
特別講座(自分新化講座)	122

資料編

塾卒業者数の変遷・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	128
フォローアップ塾の概要・・・・・・・・・・・・・・・・	138
九州創発塾の概要・・・・・・・・・・・・・・・・	140
長崎伝習所要綱、フォローアップ補助金交付要綱	144
平成24年度版 ポスター・チラシ・PRグッズ・・・・・・・・	148

内と外の視点で長崎を元気に

長崎伝習所は、昭和 61 年に人材のネットワークづくりと地域の活性化を目的として設立いたしました。その名称は、幕末に多くの人材を輩出した「海軍伝習所」「医学伝習所」などに由来し、長崎の活性化につながる人材育成の場となるようにとの願いが込められています。



これまでに、248 もの塾が、「ふるさと長崎のために」と様々な取り組みを行い、卒業した塾生の総数は延べ、8,799 人にも上ります。これらの塾生の中には、卒業後もそれぞれで活動を続け、「市民力」を発揮しながら、長崎のまちづくりに貢献していただいている方々が、多数いらっしゃいます。

平成 24 年度は、5 つの塾が、長崎の個性や特長を活かし、それぞれの目標に向かって、調査研究に励みました。そのうち 2 つの塾は、東京の「長崎人」によって運営され、外からの視点で長崎の魅力を高める様々な研究活動をしていただきました。

長崎伝習所は開所から 27 年を数えますが、塾活動はその根幹を成すもので、市民の自主的な発意と行動による協働の場となっています。昨年度からは、「塾事業」に「つながり事業」を加え、まちづくりリーダーの養成をめざす「ファシリテーター養成講座」や一般市民を対象にした「自分新化講座」を開催しています。今後、長崎が時代の変化に対応しつつ発展していくためには、長崎の外で起こっていることを学び、知恵を取り入れることも大切です。

「2013 自分新化講座」では、本市の名誉市民である さだまさし氏(歌手・作家)にプロデュースをお願いし、その交友関係の中からバラエティーに富んだ講師陣をご紹介いただき、「さだまさしの仲間たち」と題して好評のうちに全 6 回の講座を開催しました。

これからも長崎伝習所では、様々な視点から、まちづくりのための人材育成事業に取り組んでまいりますので、多くの市民の皆さまのご参加をお待ちしております。

最後に、塾長をはじめ塾生の皆さまのご努力と、お忙しいなかご指導いただきました運営委員の皆さま、並びに、長崎伝習所の活動にご協力をいただきましたすべての皆さまに対しまして、心から厚く御礼を申し上げます。

平成 25 年 3 月 長崎伝習所 総長 田 上 富 久

運営委員からのメッセージ



●運営委員 座長 安田 正次

伝習所運営委員も4年目を迎えました。

昨年より運営委員座長を仰せつかり、微力ながらも自分なりに努力してきたつもりです。

さて、現在長崎は人口減少、過疎化など大きな課題を背負っています。経済界では産・学・官のリーダーが連携して長崎の活性化のために「長崎サミット」を組織化して活動しており「ながさき海洋・環境産業拠点特区の指定獲得」や「九州新幹線九州ルート着工認可」など大きな成果を上げてきております。

私たち伝習所も市民レベルで長崎の活性化のために活動しており、相応の成果をあげてきております。このように長崎には郷土の活性化のために活動している組織や団体がたくさんあります。私もほぼ毎日長崎の活性化のために努力されている方々とお会いするたびに元気をいただいております。

平成25年度も塾の皆様や事務局の皆様方と一緒に郷土長崎の発展のために努力いたしたいと思っております。引き続き今年度も皆様と一緒に頑張りましょう！



●運営委員 大櫛 格

「長崎市の夜景が世界新三大夜景に選ばれそうだ」。

こんな情報が入ったのは「夜景サミット2012in長崎」開催日の昨年10月5日。同日夕刻の最終選考会議と同時進行で夜景撮影のため稲佐山山頂展望台に向かった。

「うわ、きれい」。闇が濃くなるにつれて輝きを増す街並みにしばしうっとり。過去数十年間に幾度も見てきたはずの光景だが、その日は新たな感動が押し寄せてきた。長崎の夜景は進化しているのだろうか。近くにいた若い女性観光客グループの間から「すごいね。ここは1人で来るところじゃないよ、今度は彼氏と来なきゃ」なんて会話が聞こえてくる。何だかうれしい。

<また長崎が好きになった>。こんなキャッチコピーはどうか、なんて考えていたら紙数が尽きてしまった。

皆さん、こんな素敵な宝物いっぱいの長崎を盛り上げましょう。



●運営委員 兵働 馨

長崎伝習所は、開所以来25年以上にわたって、市民がわが町のまちづくりや活性化のため240以上の塾を立ち上げ活動してきました。その成果は様々な形となって長崎市の活性化に貢献しています。

現在、厚生労働省は、仕事と家庭生活の調和のとれた生き方として「ワークライフバランス」を提唱しています。働く皆さんが、塾活動によって社会貢献に関わり、心豊かな人生を送ることができれば、それも長崎伝習所の役割の一つかもしれません。

私たちは、市民一人一人がそれぞれの思いを持って「塾」活動に参加し、その中から新しい自分づくりができることを願っています。



●運営委員 平川 友美

今年度から長崎伝習所の運営委員として関わらせていただき、たくさんのお会いや発見がありました。

特に印象深かったのは、「伝習所まつり」。過去の塾も始め14の塾の活動や成果を拝見し、塾生の皆様の「長崎のためになにかやりたい！」という情熱に触れることが出来ました。今後は、もう少し若い方を巻き込んだ塾の取り組みが出来ると、ますます元気な伝習所になりそうです。

長崎伝習所が市民の皆さんの自主的かつ創造的な場として発展し、長崎が元気になる活力のひとつとして、認知度がアップしていくように、私も運営委員の立場でお手伝いさせていただきたいと思います。



●運営委員 森永 春乃

先般の「塾」応募に若い方の応募がいつもより多かったように思い嬉しく感じました。

やや目的や方法には未熟さがあったものの何かしらフレッシュさと若者ならではの目新しいアプローチのスキルは今後見守り育てるのに価値があると思いました。そういう意味で既存概念から離れて「若者の感性を感じる力」が審査をする運営委員として必要だと痛感しています。

人と人が繋がっていくことは老若男女誰しも嬉しいことです。



●運営委員 吉田 隆

ローカルで完結できる

力のあるまちづくりの視点を

今日は今日とて仕事する。明日も明日とて仕事する。人はこんなに働かないと生きていけないんだろうかと思う。しかし今の日本で暮らすということは、そういうことなんだろうなとも思う。

仕事に生き甲斐や誇りをもつことは尊いことだと言いつけられてきたから、そう思い込んでいるだけであって、あらためて考

えるときほどの根拠はないのではないかと。

家族のためにしゃにむに働いてきた昭和のお父さんお母さんたち。そこで犠牲にしてきたものに気づかないで年老いたのかもしれない。労働者として煽られ、消費者として煽られ、ささやかな一家団欒に文句も言わずに甘んじてきた。

大きな歴史の中のひとつの時代としてみれば、昭和とは特殊な時代だったのかもしれないし、平成の今もさほど変わっていない。ただ生産と消費のあいだの情報の仕組みが格段に変わった。情報が化け物のように肥大化して襲ってくることに、私たちはもっと警戒しないといけないのではないだろうか。

そこに住む人々の目が行き届くローカルな関係で完結する社会。さかんに地域づくりとかまちおこしと言うけれど、これから地域に求められるのは、観光客を呼び寄せるための情報発信などではなく、ローカルで完結できる力のあるまちづくりだと思う。ローカルであり続けることの見直す時代であると思う。

これまで長崎伝習所は、新たな長崎のまちづくりへ向けて常に新鮮な風を送ってきたが、これからは性急な時代の変化に合わせるのではなく、あるべき長崎の姿をしっかりと見据えた視点を提供していくシステムとなってほしい。



●アドバイザー 山崎 加代子

でんでんでん でんでんでん♪

でんでりゅーば♪ いやー〈でん〉って

ついリズムカルに口ずさんでしまいますね。〈長崎でん習所〉は、私の中では、そのノリで大いに遊んで少し学ぶ所だと位置づけています。遊びをせんや・・・と詠んだ何とかさんに共感。遊びの精神の中で、人が気持ちよく集い、そこで出た何気ない言葉が更なる創造性と発展に繋がるのかなと。デザインもしかり。

みなさん、今後もどんどん〈dendenくん〉と遊びまくってくださいね☆





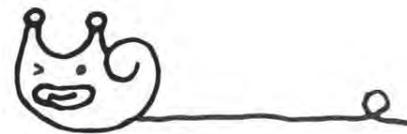
●監 事 佐藤 秀人

「長崎の価値をつたえていくこと」、
それが長崎伝習所です

「長崎伝習所」のマスコットキャラクター
「dendenくん」ってご存じですか。カタ
ツムリをデフォルメした、かわいく愛嬌十
分のキャラクターです。

今からちょうど5年前にその時の運営委員と事務局が「ワイワイガヤガヤ」と考えて作ったキャラクターで、当時の運営委員でデザイナーのYさんが形にしてくれました。「dendenくん」の「denden」は、当然カタツムリの愛称である「でんでん虫」から取った名前ですが、「den」は伝習所の「伝」でもあります。人材ネットワーク基地である伝習所を触媒として、みんなで出し合った「知恵」と長崎を良くしようという「思い」を、ずっと伝えつづけていくことが大切です。カタツムリのように歩みは遅いかもしれないけれども、一步一步着実に「前へ」向かって進んでいきましょう。「長崎の価値をつたえていくこと」、それが長崎伝習所です。

でんでん じゅく じゅく でんしゅうしょ ♪
あなたの 「みらい」は ここにある ♪
手つなぎ 「知恵」出し はばたこう ♪
(童謡「かたつむり」のメロディで)



長崎伝習所資料室ホームページ開設

ホームページアドレス : <http://www.denshusho.com/>

長崎伝習所の成果報告書及び各塾活動での成果品をデータとして整理しています。
成果報告書は、平成20年度からデータとして掲載しています。
それ以前の成果報告書は、長崎伝習所事務局で成果報告書の冊子を保存していますので、
ご利用ください。(貸し出しは行っておりませんが、閲覧できます。)

長崎伝習所 Nagasaki Denshusho



長崎には、「このまちをもっとよくしたい!」「大好きな長崎のために何かやりたい!」という熱い思いや、「こんなことをやったらいい!」というユニークな発想を持つ市民の方が大勢います。そのような市民の皆さんのエネルギーと自由な発想こそが、魅力的な長崎を創りあげる原動力となります。

長崎伝習所は、そのような熱意とアイデアを持つ人々や、それに共鳴する人々が集まり、協力して活動できる場となります。テーマごとに市民の皆さんが「塾」を設置し、塾生を募集して、塾長を中心に市民と行政が協働で「塾」事業を展開しています。

長崎伝習所の目的

長崎伝習所は、市民と行政が有機的に連携することにより、人材の育成・ネットワークづくりと政策を生み出す活動を行い、地域の活性化と発展に寄与することを目的としています。名称の由来は、幕末期に長崎に設置された「海軍伝習所」や「医学伝習所」などからきているもので、その輝かしい歴史に学ぼうという意味が込められています。

設立からの経緯

長崎伝習所は、昭和61年に人材のネットワークづくりと地域の活性化を目的に、異業種交流の場として、海洋開発、都市デザイン、バイオテクノロジーなどをテーマに「塾」が設置され、しだいに長崎の再生を模索する幅広い活動の場となってきました。

昭和63年の「ふるさと創生1億円」を基に、平成元年度に「長崎伝習所基金」を創設し、市民と行政が有機的連携を強化することにより、人材の育成と政策を生み出す活動を行い、もって長崎の再生と創造に寄与することを目的とする「長崎伝習所」の活動に充てています。

設立以来、長崎を魅力ある元気なまちにするために、市民と行政が力を合わせて研究活動を行い、平成24年度末までに248の塾が活動を展開し、塾卒業生は8,799名に達しています。

これまでに、歴史探訪路の提言、路上観察ウォークラリー、リサイクルイベントの開催、ゴミの減量化活動、国際交流、伝統工芸復興などの成果が生まれているほか、現在も積極的に活動を継続している塾もあります。

平成23年度からは「つながり事業」を実施。「まちづくりリーダー養成講座」「自分新化講座」「まちコツアカデミー」を開催し、市民と市民が「つながる」きっかけとして様々な事業を展開しています。

平成24年度は、「まちづくりリーダー養成講座」の2年目、「自分新化講座」を、さだまさし氏のプロデュースにより実施しています。

● 主な卒業塾の活動状況

長崎くんち塾…くんちデータベースの作成・くんち関係書籍の発行

国際交流塾…「地球館」の運営、外国人・留学生との交流事業

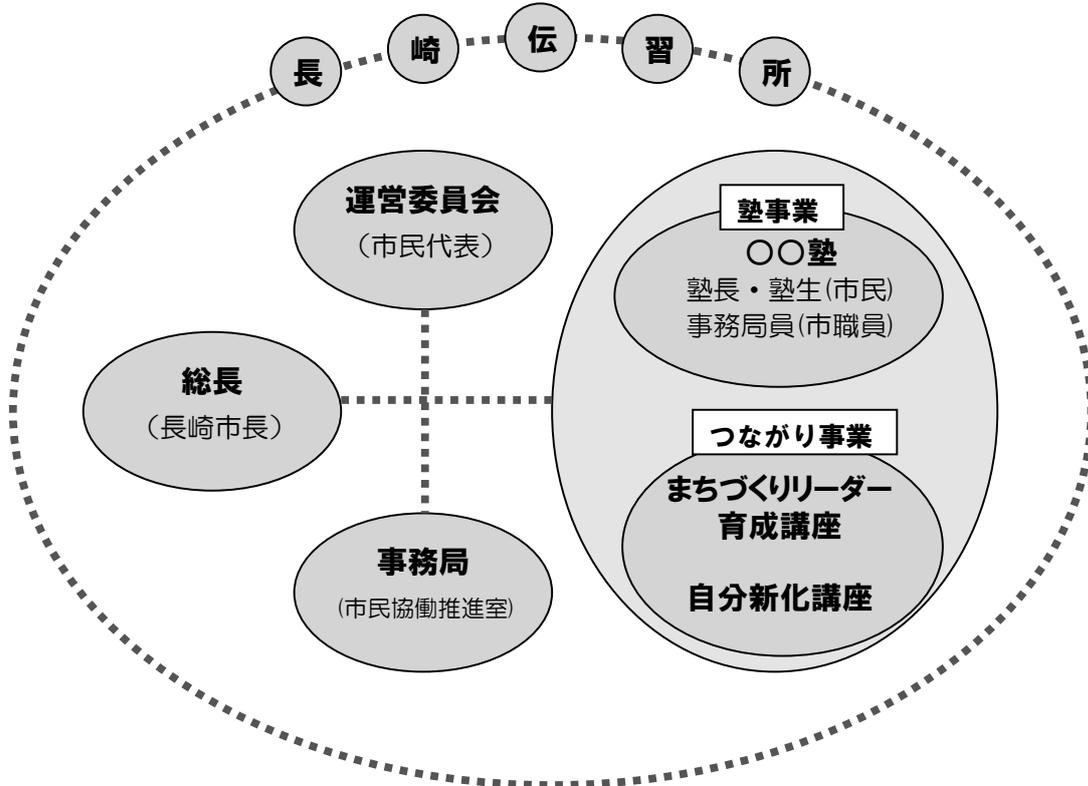
生ゴミシェイパーズ塾…生ゴミ堆肥化の普及活動

伝統工芸塾(銀細工、現川焼、長崎刺繍、長崎の染め、ステンドグラスの5塾)…歴史文化博物館の体験工房で活動



運営体制

塾テーマの選定から塾の運営まで、すべてを市民自らの手で行うのが、長崎伝習所「塾」の特色です。



「塾」とはこんな場所

「塾」といっても、誰かに教えてもらうところではありません。市民の皆さんから長崎のまちづくりにつながる企画や塾長を公募し、運営委員による審査会を経て、「塾」を設置。その趣旨に共感、共鳴する市民の皆さんが集まり、調査研究やイベント、実践活動など様々な活動を展開しながら、魅力的なまちづくりを進めていこうというものです。

- 塾 …………… 市民が主体となって、自主的、自律的に活動する場
- 塾長 …………… 塾運営の責任者
- 塾生 …………… 塾のテーマに基づき活動する参加者
- 塾事務局員 …… 塾と行政とのパイプ役になる市職員
- 運営委員会 …… 設置する塾の審査や塾の活動内容等についてのアドバイス等を行う機関





「塾」活動の流れ

12～1月

塾テーマ・塾長 募集

市民の皆さんから「塾」活動企画を募集

塾長候補者が応募用紙に設置目的、研究・活動内容、対象塾生、塾開催運営方法、成果品内容、連携したい部署、予算などを書いて応募。



2月中旬

審査会

運営委員による審査会で新年度活動塾を決定

塾長応募者からのプレゼンテーションで審査により決定。



継続申請(2年目)

塾活動は単年度事業が原則ですが、2年目の活動を継続する場合、継続申請し、運営委員会の審査を受け、継続を決定。

4月

塾生募集

広く市民に呼びかけ、塾生を募集

塾の趣旨に共鳴、共感し、一緒に活動する塾生を募集。4月下旬に塾生を確定。



5月

開所式

塾生が一堂に会し、塾活動をスタート

塾長と塾生の初顔合わせの開所式を開催。開所式後に第1回塾会議を行い、連絡体制や役割分担、定例会の日程や場所等を決め、塾活動開始。



11月

中間報告会

塾の活動状況を運営委員会に報告

塾活動の状況を運営委員会に報告し、以降の活動へのアドバイスを受ける。



3月

長崎伝習所まつり

各塾の活動の歩み・成果を広くアピール

塾活動の成果を広く市民の皆さんなどに知っていただくために「長崎伝習所まつり」(成果報告会)を開催。



3月

成果報告書作成

塾活動の成果・提言をまとめた成果報告書を作成

各塾の成果・提言をまとめた成果報告書を作成し配布。伝習所事務局(長崎市市民活動センター「ランタナ」)、市政資料コーナー、図書館・公民館等で閲覧できる。



卒業後

フォローアップ補助金

卒業塾の活動



卒業塾の活動支援

伝習所卒業後 2年間は塾の自立促進のために設けられている「長崎伝習所フォローアップ補助金」の申請が可能。運営委員による審査により決定交付される。



自立して活動する塾

平成 24 年度長崎伝習所活動記録

日 時	場 所	内 容
平成 24 年		
4 月 19 日(木) 18 : 30～	市民活動センター 「ランタナ」	第 1 回塾長・事務局員会議 「塾」の運営、開所式について ほか
4 月 21 日(土) 9 : 30～	長崎市社会福祉会館 4 階	ファシリテーター養成講座 第 1 回 ・前年度の振り返り
4 月 24 日(火) 19 : 00～	市民活動センター 「ランタナ」	フォローアップ補助金審査会(審査員：運営委員会) 2 塾の応募で 2 塾採択
4 月 30 日(祝)		平成 24 年度塾生募集締切 新規 1 塾、継続 2 塾、東京 2 塾
5 月 9 日(水) 19 : 00～	メルカつきまちホール	平成 24 年度開所式
6 月 2 日(土) 9 : 30～	長崎市社会福祉会館 4 階	ファシリテーター養成講座 第 2 回 ・自主研修
6 月 18 日(月) 18 : 30～	市民活動センター 「ランタナ」	第 2 回塾長・事務局員会議 意見交換、中間報告会、伝習所まつりについて ほか
7 月 1 日(日) 9 : 30～	長崎市社会福祉会館 4 階	ファシリテーター養成講座 第 3 回 ・自主研修
8 月 11 日(土) 9 : 30～	長崎市社会福祉会館 4 階	ファシリテーター養成講座 第 4 回 ・自主研修
8 月 17 日(金) 19 : 00～	長崎ブリックホール 国際会議場	自分新化講座 第 1 回 西高辻信良氏(太宰府天満宮 宮司) 「過去から未来へ ～1100 年のバトン～」
8 月 20 日(月) 18:30～	市民活動センター 「ランタナ」	第 3 回塾長・事務局員会議 意見交換、中間報告会について ほか
9 月 2 日(日) 9 : 30～	長崎市社会福祉会館 4 階	ファシリテーター養成講座 第 5 回 プログラムの発表とフィードバック
9 月 21 日(金) ～22 日(土)	シーガイアコンベンションセンターほか	九州創発塾 2012 第 6 回宮崎大会 テーマ：新・九州力 食が育む地域の魅力 塾からの参加者：6 人
10 月 2 日(火) 19 : 00～	長崎ブリックホール 国際会議場	自分新化講座 第 2 回 原田泰治氏(画家・グラフィックデザイナー) 「一本の道」
10 月 15 日(月) 18 : 30～	メルカつきまちホール	中間報告会 「塾」活動の進捗状況を運営委員会へ報告、交流

日 時	場 所	内 容
10月20日(土) 13:00~	メルカつきまちホール	ファシリテーター養成講座 第6回 ・ランタナワクワク大会議「市民活動表彰制度について」
11月11日(日) 9:30~	長崎市社会福祉会館4階	ファシリテーター養成講座 第7回 ・振り返り、職場・地域での実践に向けて
11月19日(月) 18:30~	市民活動センター 「ランタナ」	第1回伝習所まつり実行委員会 ・日程、会場、スケジュール、各塾企画、全体イベント
11月24日(土) 19:00~	長崎ブリックホール 国際会議場	自分新化講座 第3回 中嶋千尋氏(プロゴルファー) 「不可能を可能にする思考力」
12月1日(土) ~2日(日)	小値賀町	ファシリテーター養成講座先進地視察
12月17日(月) 18:30~	市民活動センター 「ランタナ」	第2回伝習所まつり実行委員会 ・各塾企画確認、チラシ、全体イベント
12月26日(水) 19:00~	長崎ブリックホール 国際会議場	自分新化講座 第4回 佐伯司朗氏(宮内庁文書専門員、現代書道研究所所長) 「宮内庁文書専門員として」 「今、私が考えている”書”について」
平成25年		
1月18日(金) 19:00~	長崎ブリックホール 国際会議場	自分新化講座 第5回 吉田潤喜氏(ヨシダソース創業者・ヨシダグループ会長) 「人生も商売も、出る杭うたれて何ぼやで。」 ~金儲けでなく人儲けや!~
1月21日(月) 18:30~	市民活動センター 「ランタナ」	第3回伝習所まつり実行委員会 ・必要備品、会場レイアウト、全体イベント、チラシ
1月29日(火) 19:00~	市民活動センター 「ランタナ」	ファシリテーター養成講座修了式 ・修了書の交付
2月2日(土) 13:00~	メルカ5階会議室	25年度「塾」審査会(審査員:運営委員会) 継続塾1塾、新規塾8塾の応募のうち、継続塾1塾、 新規塾2塾を採択
2月18日(月) 19:00~	長崎ブリックホール 国際会議場	自分新化講座 第6回 さだまさし氏(歌手・作家)「最終章」
2月25日(月) 18:30~	市民活動センター 「ランタナ」	第4回伝習所まつり実行委員会 ・会場レイアウト、必要備品、全体イベント、チラシ
3月		長崎伝習所資料室(成果報告書等の公開HP)稼働
3月11日(月) 18:30~	市民活動センター 「ランタナ」	第5回伝習所まつり実行委員会

日 時	場 所	内 容
3月20日 (祝・水) 11:00~16:00	ベルナード観光通り	長崎伝習所まつり(成果報告会) オープニング、成果品贈呈、各塾紹介、パネル展示、 各塾イベント開催、スタンプラリー
3月25日(月) 18:30~	市民活動センター 「ランタナ」	伝習所まつり反省会



フォローアップ塾審査会(4/26)



開所式(5/9) ①



開所式(5/9) ②



塾長・事務局会議(6/18)



塾活動中間報告会(10/15)①



塾活動中間報告会(10/15)②



九州創発塾(9/21 茂木健一郎氏と記念撮影)



自分新化講座第6回(2/18 さだまさし氏)



伝習所まつり実行委員会(8/1)



25年度「塾」企画審査会(2/2)



伝習所まつり①(3/20)



伝習所まつり②(3/20)



塾研究成果報告

長崎の町ねこ調査隊塾



©Nagasaki machi neko club

マスコットキャラクター小町ちゃん





塾長 中島 由美子

■ 塾長コメント ■

長崎の町ねこ調査隊塾は平成 23 年 5 月にスタート、2 年が過ぎました。この間ねこ調査のために歩いた町は 50 以上になります。坂道や階段、狭い路地が迷路のように入り組んだ長崎独特の町並みを、ひたすらねこを探して歩き回りました。そして、たくさんの「町ねこ」と出会いました。

「町ねこ」とは、まちなかで見かけるねこ、つまりノラネコと家の中外を行き来する飼いねこのことです。町ねこは、体の大きさ、シッポの長さ、目の色、毛の色や柄が 1 匹、1 匹違います。違うのは姿形だけではありません。警戒心が強く人を見るとさっと逃げ出すねこもいれば、ゴロニャーンと甘えるねこもいます。私たちは調査エリアに通い、町ねこを観察し、それぞれのねこの特徴をカルテに記録します。こうして確認したねこの数が、100 匹以上になったエリアもありました。

私たちが出会ったのは、ねこだけではなく、ねこが入って来ないようにネットを張りめぐらした庭、家の前にずらりと並べられたペットボトル、ねこがその上を歩くと痛そうなたぐとぐが置かれたプランタンや花壇など、どの町にも必ずねこ除け対策がありました。ねこ除けは、ねこの被害に困っている「ねこ困り」さんたちの精いっぱい防衛と

抵抗です。ねこ調査からはねこの数だけでなく、その地域の人々とねこの関係がしだいに明らかになってきました。

「やってみよう」という好奇心と続けていく根気さえあれば、だれでもねこ調査ができます。特別な道具や技術は必要ありません。しかし、そこから見えてくるものは、調査する人の意識によってさまざまに変化します。

2 年の間に塾生の意識はねこから人へ、人から地域へとしだいに広がって来ました。これからは調査によって蓄積したデータを基に、ねこ、人、地域のより良い関係をめざして活動していきたいと思います。

■ 塾の目的 ■

1. ねこ密度

「長崎はねこの多い街」と言われます。確かに町のあちらこちらでねこを見かけます。では、まちなかにいるねこの数はどれくらいでしょうか？ 私たちは長崎市内 3 力所のエリアで 1 ha あたりのねこ密度を出しました（詳細は後のページに記載）。その結果、かなり高いねこ密度であることがわかりました。ねこ密度が高いことは好ましいことではありません。が、高いねこ密度の街だからこそ、ねこ問題が少しでも改善できれば、全国から注目されるだろうと思います。

2. ねことねこ除け

ねこのいるところには必ずエサをあげる「えさやりさん（ねこ好き）」がいます。同時にねこの被害に困っている「ねこ困りさん（ねこ嫌い）」もいます。私たちは、ねこ、えさやりさん、ねこ困りさんの関係をマップにしてみました（詳細は後のページに記載）。目で見ると、これらの関係は明確にわかります。さらに、ねこが多ければねこ除け対策も

比例して増えそうですが、ねこがいるのにねこ除けのない場所もあり、ねこ問題の解決に向けてのヒントになるかもしれません。

3. 町ねこを知る

ねこ調査とあわせて、町ねこの魅力を知ってもらうために、さまざまなイベントを行いました(詳細は後のページに記載)。町ねこの暮らしは私たちが想像する以上に厳しく過酷です。しかし、その環境の中でたくましく生き、豊かな表情を垣間見せてくれる町ねこたち。彼らは目には見えない大きな贈り物をわたしたちに託してくれているように思えます。

■ 塾の研究・活動内容 ■

- ・町ねこ調査
長崎市内における町ねこの調査。
- ・子どものための町ねこ調査
2012年7月28日(土)
於・長崎大学文教キャンパス
- ・『岩合光昭写真展 ねこ』関連企画
長崎の「町ねこ」写真展
2012年8月14日(火)～9月2日(日)
於・長崎県美術館県民ギャラリー入り口
ワークショップ「町ねこ探し隊！」(長崎県美術館アートボランティアと共同)
2012年7月15日(日)
- ・長崎市動物愛護フェスタに参加
2012年9月22日(土・祝)
於・NBCメディアスリー
- ・ながさき町ねこの歌写真展
2012年10月17日(水)～12月2日(日)
於・カフェ豆ちゃん
- ・県民ボランティアフェスタに参加
2013年2月24日(日)
於・出島交流会館
- ・「ながさき町ねこハンドブック 2」発行

<報道一覧>

2012.3.21	長崎新聞 伝習所まつり
2012.3.22	長崎新聞 町ねこハンドブック
2012.4.6	毎日新聞 町ねこハンドブック
2012.4.20	西日本新聞 伝習所塾生募集
2012.5.11	長崎新聞 伝習所開所式
2012.6.19	読賣新聞 町ねこ調査
2012.8.15	朝日新聞 町ねこ調査
2012.8.27	西日本新聞 町ねこ調査
2012.9.3	NBC ラジオ 町ねこ調査
2012.9.13	KTN テレビ 町ねこ調査
2012.10.12	『猫生活』 町ねこ調査
2012.10.12	『ねこ』 町ねこ調査
2012.10.18	NBC テレビ ながさき町ねこの歌写真展
2012.10.22	NBC ラジオ ながさき町ねこの歌写真展
2012.10.25	長崎新聞 ながさき町ねこの歌写真展
2012.11.18	NCC テレビ ながさき町ねこの歌写真展

■ 塾活動の成果 ■

長崎の町ねこ調査は、2年をかけてやっと1歩を踏み出すことができました。信頼できるデータを蓄積するためには、さらに長い時間が必要です。ひたすらねこを探しながら、たくさんの町を歩き回る地味な作業はこれからも続きます。私たちの活動は、目の前のねこの命を救うこともできず、ねこ困りさんの悩みを今すぐに解決することもできません。けれど、ねこ調査を続けていけば、いつか必ず、ねこにも人にもやさしい平和な長崎の街になると信じて、これからも歩き続けます。

長崎の町ねこ調査隊塾 活動記録

日 時	場 所	内 容
平成 24 年		
5 月 9 日(水)	メルカつきまち 5 階ホール	長崎伝習所「塾」開所式、第 1 回定例会
5 月 26 日(土)	アマランス会議室 3 寺町	第 2 回定例会……町ねこ調査の方法（個体識別）を説明。寺町の町ねこ調査
6 月 10 日(日)	アマランス会議室 3 寺町	第 3 回定例会……寺町の町ねこ調査。前回（5 月 26 日）との比較、検討
6 月 23 日(土)	市立図書館研修室 1~2	第 4 回定例会……西坂公園の町ねこ調査報告。長崎県美術館アートボランティア事業企画「町ねこ探し隊！」に向けて、美術館スタッフやボランティアさんと協議
7 月 9 日(月)	アマランス会議室 3	第 5 回定例会……「子どものための町ねこ調査」について協議。「長崎の町ねこ写真展」展示写真の選考
7 月 15 日(日)	県美術館ホール 十人町、館内町、中新町	ワークショップ「町ねこ探し隊！」……中村副塾長によるねこの探し方や写真撮影についてのレクチャーの後、県美術館スタッフやアートボランティアさんと一緒に町ねこの写真を撮影
7 月 28 日(土)	長崎大学文教キャンパス	第 6 回定例会「子どものための町ねこ調査」……子どもとその保護者（定員 20 名）を対象。中村副塾長からの説明の後、キャンパス内のねこを調査
8 月 13 日(月)	県美術館県民ギャラリー入口	第 7 回定例会……「長崎の町ねこ写真展」セッティング
8 月 14 日(火) ~9 月 2 日(日)	県美術館県民ギャラリー入口	「岩合光昭写真展ねこ」の関連企画「長崎の町ねこ写真展」開催。塾生撮影の町ねこ写真（A4 サイズ）50 枚を 7 枚のパネルに展示
8 月 19 日(日)	片淵 1 丁目~新大工町~桜馬場 1 丁目	第 8 回定例会……左記エリアにて、ねこを見つけた場所を地図に記入し、その特徴を記録。22 匹を確認。調査後、報告会
9 月 9 日(日)	小菅町	第 9 回定例会……左記エリアのねこ調査。25 匹を確認。調査の後、報告会
9 月 22 日 (土・祝)	NBC ホール・メディアスリー	第 10 回定例会……長崎市動物愛護フェスタに参加。町ねこクイズ、カリカリのグレードあてクイズ、町ねこカルテやねこのぬり絵を描く、などを企画
10 月 8 日 (月・祝)	浜口町、岩川町とその周辺	第 11 回定例会……左記エリアのねこ調査。35 匹を確認。調査の後、報告会

日 時	場 所	内 容
10月15日(月)	メルカつきまちホール	長崎伝習所「塾」中間報告会
10月16日(火)	カフェ豆ちゃん	「ながさき町ねこの歌写真展」セッティング
10月17日(水) ～ 12月2日(日)	カフェ豆ちゃん	「ながさき町ねこの歌写真展」開催……塾生大庭三慶さんの短歌33首と塾生撮影の写真84枚(A4サイズ22枚・L版62枚)を展示
10月27日(土)	市立図書館研修室1～2	第12回定例会……これまでの町ねこ調査の報告と「ながさき町ねこハンドブック 2」について協議
11月3日 (土・祝)	曙町、江の浦、平戸小屋	第13回定例会……左記エリアのねこ調査。42匹を確認。調査の後、報告会
11月23日 (金・祝)	大浦小学校周辺	第14回定例会……左記エリアのねこ調査。21匹を確認。調査の後、報告会
12月9日(日)	ランタナ会議室	第15回定例会……町ねこ調査の報告。「ながさき町ねこハンドブック 2」について協議
12月22日(土)	市立図書館研修室1～2	第16回定例会……町ねこ調査のまとめ
平成25年		
1月13日(日)	市立図書館研修室1	第17回定例会……ハンドブック2の原稿について検討
1月26日(土)	アマランス会議室3	第18回定例会……ハンドブック2の原稿について検討
2月10日(日)	アマランス会議室4	第19回定例会……ハンドブック2校正
2月23日(土)	アマランス会議室4	第20回定例会……ハンドブック2校正
2月24日(日)	出島交流会館	県民ボランティアフェスティバル「くらしホッとフェスタ」に参加
3月10日(日)	アマランス会議室4	第21回定例会……平成24年度伝習所まつりについて協議
3月20日 (水・祝)	ベルナード観光通り	長崎伝習所まつり……調査内容パネルの展示、クイズなどを実施

町ねこ調査はどのように行なわれたのか

昨年度の塾活動を通じて、「町ねこカルテ」を使った個体識別のスキルを身につけ、またどのような地域に町ねこたちが多く暮らしているかについて市内でサーヴェイ調査を重ねた「長崎の町ねこ調査隊塾」。活動 2 年目の課題は、「どれくらい」の町ねこがまちなかには暮らしているのか、そして、「どのように」町ねこはまちなかでひとと暮らしているのか、という点であった。

一口に「ここにはたくさんのねこがいる」とか「ねこが好きな人がいれば嫌いな人もいる」とまとめるのはたやすい。しかし、せっかく「個体識別」というスキルを身につけたからには、「どんなねこが何匹いるのか」というところまで踏み込んで調べてみたいし、「ねこ好き～町ねこ～ねこ困り」が地理的に重なり合って毎日を過ごしている長崎のまちのようすをなんとか「視覚的に表現」したい、と考えた。その結果は『ながさき町ねこハンドブック 2』としてカラフルにまとめられているが、ここではその一端を紹介したい。

ねこ密度：どれくらいの町ねこがいるのか

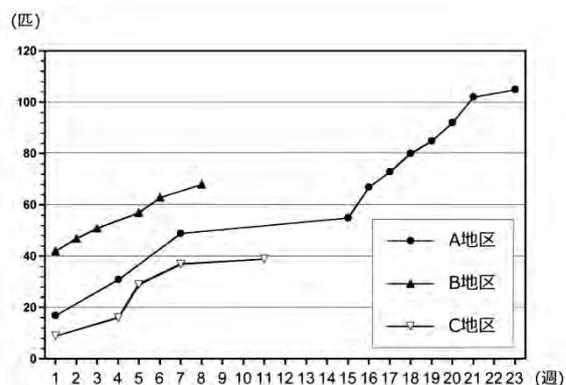
まちなかを日々動き回る町ねこの数を正確に数え上げるのは不可能に近い。けれども「ある一定のエリアにおいて、個体識別を行ないながら、見かけたねこのリストを定期的に更新していく」ことによって、およその近似値は推定できる。

1 回目の調査で確認できたねこが 20 匹、次の 2 回目の調査で確認できたのが 24 匹だったとする。個体識別ができていなければ、20 匹と 24 匹のうち、どれがダブっていて、どれがそうでないのかはわからない。しかし

個体識別ができていれば、たとえば 1 回目の 20 匹のうち 14 匹は 2 回目も見かけることができた(残り 6 匹は見かけられなかった)、とわかる。そして、新しく 10 匹のねこを見つけたので、連続出席 14 匹+新顔 10 匹の計 24 匹を見かけたということになる。2 回トータルでは 20 匹+10 匹の 30 匹の町ねこに出会った計算になる。

さらに 3 回目には、30 匹のリストに含まれる町ねこのうち 22 匹と、新顔 3 匹の合わせて 25 匹に遭遇、「町ねこリスト」は新顔を加えて 33 匹になる。4 回目、5 回目……と回を重ねていくことによって、「毎回出席のねこ」「2 回に 1 回は見かけるねこ」「めったに見かけないねこ」がわかってくるとともに、「だいたいこのくらいでリストは頭打ちになりそう」というのが見えてくる。

実際に『町ねこハンドブック 2』で調べた 3 地区の「町ねこリスト」掲載のねこの頭数の伸びを示したのが下のグラフである。



一番下の線=C地区はだいたい 40 匹前後で頭打ちになりそうに思われる。一番上の線=B地区はまだ伸びそうだがそれでも 80 匹を超えることはなさそう。真ん中の A 地区はずっと増え続けているが 120 匹あたりまで伸びるだろうか。

調査期間が長期になればなるほど、実際には亡くなったねこもリストに残ることになるし、春や夏の出産シーズンを迎えるとまた一気に数は増えるけれども、個体識別がしっかりできている限りは「もうこのねこは半年以上見かけていない」などといった判断が可能であるため、町ねこ調査を重ねれば、ある時点におけるそのエリアの町ねこの頭数は一定の誤差の範囲内で推定が可能だと言える。

調査と並行して、調査エリアの面積を計算してみる。ゼンリンの住宅地図で調査エリアをペンで囲み、トレーシングペーパーに写す。次に、方眼紙(5~8mm)をトレーシングペーパーの下に敷き、エリア内に含まれるマス目の数をカウントする(一部しかかからないマスは一律 1/2 マスでカウント)。最後に 1 マスが実際の何 m 四方に相当するかを計算してやれば、そのエリアの面積が出てくる。

1ha(100m 四方)あたりの町ねこの頭数、つまり〈ねこ密度〉は次のようになった。

【A 地区】住宅地と商店街が隣接

……13.5 匹/ha

【B 地区】戸建ての多い斜面地

……8.8 匹/ha

【C 地区】飲食店・商店の間に住宅が混在

……8.9 匹/ha

先行してねこ調査が行なわれている北九州市内 3 地区がいずれも 6~7 匹/ha であるのと比較すると、長崎市内のこの 3 地区の〈ねこ密度〉はかなり高いことになる。

A~C 地区の特徴を併記したのは、「似たような生活環境の町では、同じくらいの〈ねこ密度〉を示すのではないか」という仮説を立てていることによるが、この点については今

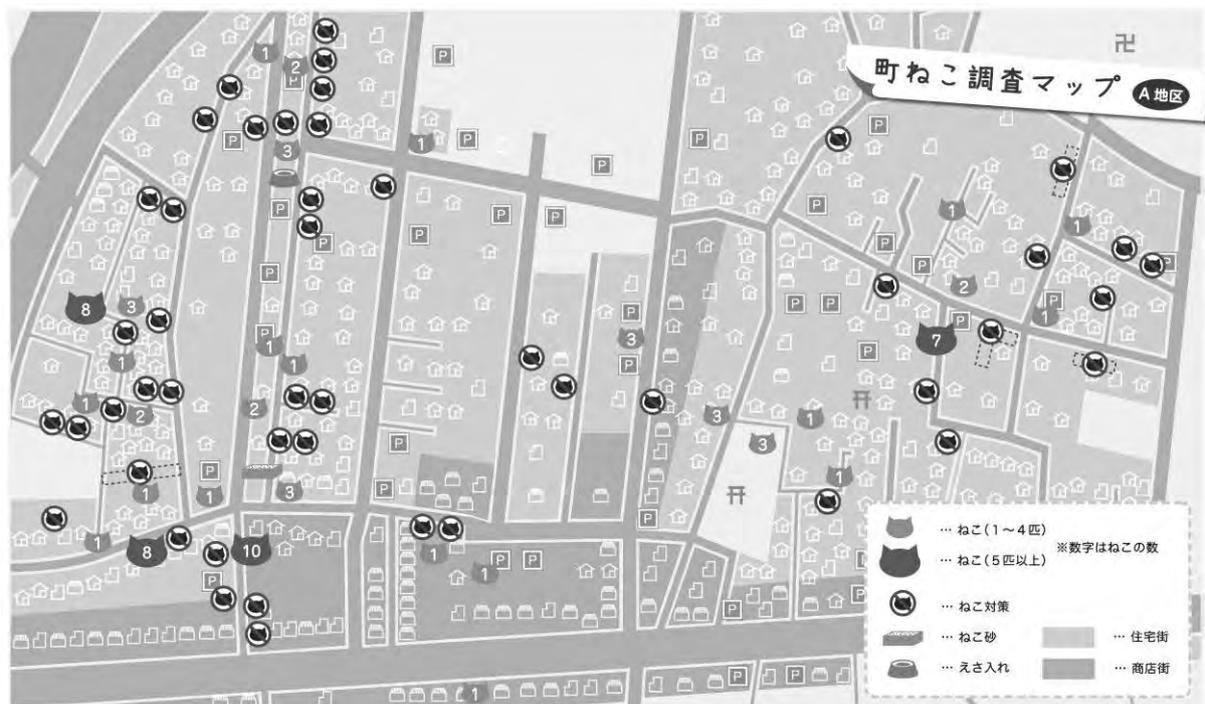
後別の地域での調査結果と比較していくことによって検証していかなければならないだろう。

ねことねこ除け：重なり合う生活圈

A 地区の町ねこ調査に最初に入ったときのことである。たくさんのねこを見かけるエリアでは、ほとんど 1 軒おきと言っていいくらいに、水を入れたペットボトルが並べて置かれたり地面に敷き詰めるタイプの黒いトゲトゲシートが設置されていた。「まるでねこ困りさんの隣にはねこ好きさん、その隣にはまたねこ困りさん、みたいだな」とそのときは思ったが、実際に近くで聴き取り調査を行ってみると、ほぼその通りであることがわかってきた。

そこで、この A 地区を皮切りに、それまでは町ねこを見つけると写真を撮り、特徴を把握してそれをカルテに写し、合わせて簡単な場所情報を書き加えるだけだった調査内容に、新たにねこ除けグッズの設置状況を加えることにしてみた。つまり「ねこの調査」から「ねことねこ除けの調査」へとステップアップさせたことになる。

ねこ除けは大きく 3 タイプ、(1)水を入れたペットボトルを並べたもの、(2)黒いトゲトゲシートを敷いたもの、それに(3)青または緑の侵入防止ネットが見られた。これらのねこ除けは、たまたまタイミングが合わなければ遭遇できない町ねこ違って、24 時間 365 日そこにあるため、調査をするのは容易である。ねこがないのにねこ除けを設置するケースは稀であるため、「ねこ除けを探せばねこに当たる」ということにもなる(ただし、後述するように、「ねこはいるけれどもねこ除けがない」ケースは散見される)。



各家ごとのねこ除け設備を地図上に記録していく過程で、数はぐっと少ないながら、トイレ用の猫砂が置かれていたり、ご飯皿・水飲み皿が置かれているのも見かけられた。そこには「ねこ好きさん」がいることが想像されるが、一般的に言って、これらのものを人目につくところに置くことは避けられるのが普通である。したがって、猫砂や皿の数が少ないこと＝ねこの世話をする人が少ないことを意味するわけではないと思われる。

ねことねこ除けのマッピング調査結果を1枚の地図上にまとめたものが上の「町ねこ調査マップ」である(ここでは紙幅の都合上、A地区のみモノクロで掲載)。町ねことその数をねこの顔形マークで、ペットボトル・トゲトゲシート・侵入防止ネットに餌やり禁止看板を加えたねこ除け対策の場所をねこ禁止マークで、トイレ砂やご飯皿などをそれぞれのマークで示している。さらに、住宅地と商業地を別の色で塗り分けてもいる。

「ねこの顔」マークと「ねこ禁止」マークが狭い範囲に入りみだれていることから、ね

ことねこ除けは基本的に重なり合うことは一目瞭然である。「ねこ好き～町ねこ～ねこ困り」が地理的に重なり合って毎日を過ごしている長崎のまちのようすを「視覚的に表現」という意味では、十分なインパクトのある結果となった。

さて、もう少し丹念にこの地図を読み解いていくと、あることに気づく。「ねこの数・密度とねこ除けの数・密度は必ずしも比例しない」という点である。ねこが1～2匹しかみられなくてもねこ除けが密集するエリアもあれば、逆にねこが10匹以上いてもほとんどねこ除けがみられないエリアもある。

ねこ除けの多くが糞尿害を避けるためだと仮定しよう(設置場所から考えてもこの仮定は大きく間違っていない)。10匹のねこによる糞尿害は1匹のねこのそれより10倍ひどいはずであるし、被害を受ける軒数も10倍とはいかなくてもそれなりに多くなることは明らかである。にもかかわらず、ねことねこ除けの数・密度がリンクしていないのはどのように考えればよいのだろうか。

現時点では理由は 2 つあると考えている。一つは地図を見ていて気づくことだが、ねこ除けが相対的に少ないエリアには、空き地や公園、墓地など、ねこがそこに糞尿をしてもクレームがでにくい場所が含まれている。個人所有の民家や商店の周囲でねこが糞尿を残していけば、所有者はよほどねこの糞尿に寛容でないかぎりなんらかのねこ対策をとるだろう。ねこ除けが密集するのはそういった民家・個人商店が軒を連ねるエリアである。一方、家が取り壊された空き地や公園、墓地などには、ねこが糞尿をするには都合のよい土の地面があり、かつ、それに文句を言うひともあまり多くない。いわば空き地が「広大なねこトイレ」になっている状況によって、周囲の普通の民家や個人商店には比較的糞尿の被害が及びにくいのではないかと考えられる。

もう一つ考えられる理由として、そのエリアの住民の「ねこ・ねこの糞尿」に対する考え方の違いが挙げられる。

「町ねこ調査」は、週 1 回程度の決まったペースで、決まったエリアを 1~2 時間調査して歩く。毎週のように地図やカルテになにやら書き込みつつ、ねこの写真を撮ったり、路地や家と家のすき間をのぞきこんでいる人間がいれば目立つのは当然で、そこから住民の方々とねこについていろいろと話をするようになる。その地域におけるねことひととの関係を教えてもらったり、こちらもねこ調査について説明したりとコミュニケーションを重ねながら、さまざまな情報をお互いに共有していくうちに、エリアによって「ねこや、ねこがしでかすことに対する寛容度の差」があることがわかってきた。「ねこの糞」を許せるか許せないかは、個人差を超えて、地域単位で違いがあるのである。

現時点である程度確かに言えるのは、古くからの住民が暮らす流動性の低いエリアはねこに寛容であり、逆に新規住民が多く、住民の入れ替わりも活発な流動性の高いエリアはねこのしでかす不始末に厳しい、ということである。もちろん各エリアに少数派となる反対意見は存在するため、ねこをめぐるトラブルの火種はどここのエリアにも存在する。ねこの不始末に寛容なエリアがすなわち「ねこに優しいまち」というわけでもなく、ねこに寛容である一方で、ねこに対する虐待まがいの行為に対しても「寛容」=見てみぬふりで流されてしまうことも多いようである。

ひととねこの共存へ向けて

3 地区の町ねこ調査結果を通じて、長崎の〈ねこ密度〉が相当に高いこと、そして必然的に「ねこ好き~町ねこ~ねこ困り」が重なり合って暮らしていることが視覚的にも明らかになった。調査結果をカラフルにまとめた『ながさき町ねこハンドブック2』をぜひ一度手にとってご覧いただきたい(<http://machineko-club.sblo.jp/>からも閲覧可)。

昨年度成果報告書において、町ねこ調査とは「人間とねこは同じまちのなかでともに暮らしているということを改めて考え直す」ことだと述べたが、今年度はそのことを「データを元に提示し、だれにでもわかるようにまとめる」ことをめざした。その目標はある程度達成できたのではないかと自負している。

ねこがいない町も、ねこ好きがいない町も、ねこ困りがいない町も、現在の長崎には存在しないのであれば、3 者はいやおうなく共存せざるを得ない。「共存のための知恵」を町ねこ調査を通じて提供できれば幸いである。

中村 淳

ながさき町ねこハンドブック 2

2013年3月発行

A5サイズ・表紙込32ページ・カラー印刷

発行部数：2,000部

昨年発行した「ながさき町ねこハンドブック」は、装丁の愛らしさやオリジナル性に富んだ内容で、ご好評を頂きました。

今回の「ハンドブック 2」は、さらなる進化を遂げています。是非、ご一読ください。

1. 「ハンドブック 2」の特徴

ハンドブック 2 を編集するにあたり、力を注いだ点は、頭数のみならず、ねこを取り巻く環境を調べることでした。塾の目標は、調査をとおして、人とねこの共存のあり方を見出すことです。その手始め、といったところでしょうか。具体的には、ねこの存在に困っている証拠であろうペットボトル・トゲトゲ・ネット・注意張り紙等の配置と、ねこの分布・餌やりの痕跡・トイレ砂等を地図上におとしてみたのです。今回の発刊によせて寄稿くださった山根明弘先生によると、このような調査は初めてではないか、とのこと。また、これらの間には密接な関係があると想定していましたが、相関の乏しい区域もみられたのです。この区域にこそ、共存のヒントが隠されているのでは？ と、今後の方針も示してくださっています。

恐ろしいのは、ねこ密度において、世界でも上位にランクされる可能性が示唆されたことです。ねこ密度は高いが、共存も成し得ているとなれば「世界都市—長崎」が謳えることにはなりますが……。今後の調査結果、ご期待ください。

2. 町ねこの歌、写真展

昨年に引き続き、写真展を開催しました。今回、新たに取り組んだのは、塾生が詠んだ短歌と写真とのコラボです。当初「風流な方がおられるものだなあ〜」程度の認識でしたが、よくよく歌を味わって見たところ発見がありました。“写真”が、ねこの生態を瞬間的に視覚的にとらえたものだとすれば、“歌”は、同じねこの生態を言葉に置き換え、ねこ社会のありさまを人の家族になぞらえてみたり(擬人化)と、無限の創造力の産物だということです。さらに季語が入ることで季節の変化とねこの暮らしとの相関を感じ取ることも出来ます。まさに日本文学の真髄といえます。

3. 塾生の想い(クイズ・海外事情・地域猫等)

今年度、喜ばしいことといえば、親子での加入があったことです。家族で同じ課題に取り組むことの素晴らしさを感じます。「ねこの雑学、ねこクイズ」は、そんなお二人の合作です。「ねこの名前」では、短い文面の中にねこへの愛情がそこはかとなく感じられます。「オーストラリアのペット事情」では、野生動物の問題も絡むという、わが国とは異なる事情が紹介されています。「まちねこの一日、一年、一生」は、時間の単位を変えた切り口で、生態を分かりやすく解説しています。人の暮らしに左右されながらも順応し、生きる姿は、けなげです。「世界都市、人間都市と、町ねこ問題」では、長崎が日本の一都市としてだけでなく、世界の中での位置付けを求められていること、ねこの問題もその指標になるのではないかと投げかけています。「耳カットねこ」とは地域ねこの目印です。地域ねこ活動はそのハードルの高さから、普及に至っていない現状が語られています。

平野 仁美

子どものための町ねこ調査

日程：2012年7月28日(土)

15:00~17:00

場所：長崎大学文教キャンパス

(長崎市文教町1-14)

一般参加者：21名

子ども(2歳~10歳)10名

高校生 2名

大人 9名

塾活動を開始して以来、初めて「子ども」を対象にする町ねこ調査を企画しました。長崎大学文教キャンパス内で暮らすねこたちを探し観察するものでしたが、なんと初めての試み。「PRはどうするか」、「当日の準備や役割の分担は十分か」など、限られた時間の中で少しでも楽しめるプログラムにしようと、何度も話し合った甲斐あって、当日は塾生も合わせ32名もの参加者が集まり、終始にぎやかな調査となりました。

まずは中村副塾長によるねこの探し方などのレクチャーから始まりました。ねこは、風通しの良い日陰の涼しい所、建物のかげや茂みの中、車の下などによくいるけれど、見つけてもねこの気持ちになって怖がらせないようにそっと近づくことなどの話の後に、ねこの写真を見ながら、ぬり絵や町ねこカルテにねこの特徴を描きこむワークショップを行いました。その後、キャンパスに出て、待ちに待ったねこ調査です。子どもとその保護者を5つのグループに分け、塾生がアドバイザーとして加わり、1時間ほどねこ探しと観察を行いました。



真夏の夕方はねこが出てくるにはまだ早い時間帯でしたが、どのグループも10匹から15匹のねこを見つけることができました。母ねこが子ねこを守る様子なども観察し、限られた環境の中でもたくましく生きるねこたちに魅せられた時間となりました。

ねこ調査を終えた後は、見てきたばかりのねこをカルテに描きこむなどのまとめを行い、終了しました。

手さぐりの中で始めた企画でしたが、親子が同じ目線でねこを追い、ふれ合いを通じて生態についての理解を深めることで、人間と動物の関係について、また〈命〉の大切さについて、考えるきっかけとなる調査となりました。

思っていた以上に子どもたちはまじめにレクチャーを聞き、ワークショップにもねこ調査にも積極的に取り組んでいました。身近な存在である町ねこから命を見つめる「子どものための町ねこ調査」を、これからも続けていきたいと思います。

浜田 ひさえ



「岩合光昭写真展 ねこ」関連企画

[1] 長崎の「町ねこ」写真展

会期：2012年8月14日(火)～9月2日(日)

場所：長崎県美術館 県民ギャラリー入り口
パネル7枚にA4サイズの写真50枚を展示。

[2] ワークショップ「町ねこ探し隊！」

長崎県美術館 H24 年度ボランティア事業

日程：2012年7月15日(日)

16:00～19:00

場所：長崎県美術館ホール

長崎市十人町、館内町およびその周辺

2012年8月14日(火)から9月2日(日)まで、動物写真家として有名な岩合光昭さんの写真展「ねこ」が長崎県美術館県民ギャラリーで開催され、入場者数25,000人を超えるほどの盛り上がりを見せました(主催：KTN テレビ長崎・長崎県美術館・西日本新聞社)。

塾生に限らず、ねこ好きには待ちに待った写真展だったと思います。写真の一枚一枚から岩合さんのねこに対する愛情がひしひしと伝わり、その場面に出会った時の岩合さんの感激や嬉しさ、高揚感などを写真を通して一緒に感じ取る事が出来た素晴らしい作品ばかりでした。何度観ても観飽きず、5回ほど足を運びましたが、感動が薄れる事はありませんでした。

そして光栄にも、私たち塾生が調査した際に撮りためた「町ねこ」の写真を県民ギャラリー入り口で同時に展示する機会を頂きました。

動物写真の第一人者の岩合さんと一緒に写真展ができるとは、塾生一同大変な感激でした。写真の選定にも時間をかけ、綿密な打合せの下、力を合わせて展示作業を行いました。

長崎伝習所や「長崎の町ねこ調査隊塾」の

事を知らない方々も、長崎が【ねこと人が共に平和に暮らす町】になればという思いを込めた「町ねこ写真展」に、足を止めて観てくださいました。この場をお借りしまして感謝申し上げます。

また、写真展に先駆け、2012年7月15日に、ワークショップ「町ねこ探し隊！」も開催されました。

この企画は、長崎の町を歩きながら、昔ながらの暮らしの中に生きる町ねこたちを発見し、写真に記録する事で、町ねこ町ねこがいる長崎の風土のよさを体験するもので、美術館・長崎・市民というキーワードが重なった生涯学習として実施されました。

当塾も協力、参加し、中村副塾長による「町ねこ調査」の方法や写真撮影時の注意点やコツについての講座が開催されました。

講座の後、33名の参加者が6グループに分かれ、十人町、館内町、中新町などを歩き、ねこを撮影しました。その後、美術館に戻り撮影したばかりの写真をスライドで見ながら報告会。おもしろいエピソードに笑いも起こる和やかな雰囲気の中に終わりました。

いつもの町ねこ調査とは一味違う新しい視点での町ねこの観察が出来、大変楽しい郊外学習となりました。

二田 香



▲長崎の「町ねこ」写真展

第 37 回長崎市動物愛護フェスタ

日時：2012 年 9 月 22 日(土・祝)

11:00~16:00

会場：NBC ビデオホール&メディア・スリー

主催：長崎市

(公社)長崎県獣医師会長崎支部

長崎の町ねこ調査隊塾では、町ねこの実地調査以外にも写真展の開催やハンドブックの作成など様々な活動を行っています。イベントなどでの塾活動の PR もそのひとつです。

2012 年 9 月に開催された「長崎市動物愛護フェスタ」に塾としては初めて参加しました。

雨が降るあいにくの天気にもかかわらず、杉本彩氏の講演会「動物愛護の発展を願って～今、私たちにできること～」を聞くために多数の人たちが来場され、動物ボランティアのイベント会場も大賑わいでした。

長崎の町ねこ調査隊塾のブースでは

- ・町ねこカルテや小町ちゃんぬり絵を描くワークショップコーナー
- ・パソコンを使っての「町ねこクイズ」
- ・カリカリ(ドライキャットフード)のグレード当てクイズ

を準備して、来場者の方に楽しんでいただきました。塾生はクイズなどの参加者のために用意したねこグッズを手に、「町ねこ調査」についての紹介を行いました。

イベントブースには「ねこ好き」さんも「ねこ困り」さんも来られます。どの方も町ねこの状況や殺処分数を聞くと「大変なんだね」と少し寂しそうな顔をされました。

これからも「町ねこ調査」について、広く多くの方に知っていただき、人とねこが共存できる社会づくりに繋げていきたいものです。

浜田 ひさえ

ながさき町ねこの歌写真展

会期：2012 年 10 月 17 日～12 月 2 日

会場：カフェ豆ちゃん(長崎市東古川町)

短歌：33 首 写真：84 枚 を展示。

今年も東古川町のカフェ豆ちゃんて「ながさき町ねこの歌写真展」を開催した。

去年好評だったので今年は少し期間を延ばして 10 月 17 日から 47 日間として、塾生の作ったねこの歌を同時に展示して、楽しんでもらおうと企画した。

写真は塾生が撮った数百枚の写真の中から 84 枚を選定、短歌は四季折々のねこの表情、生態を表現したもので 33 首を展示することにした。

数日前から各自写真を持ち寄り選定、前日は会場においてさらに最後の写真 84 枚を決め、それを展示する位置、さらにこの写真と短歌をどのように組み合わせるかを試行錯誤しながら夜遅くまでかかって展示を終えた。

会場に見えたお客さんも短歌を読んで納得された顔になったり、写真を見ては思わず顔の表情をゆるめたりして、会場の中はつい微笑ましい雰囲気になるほどだった。

普段見かけるだけの町ねこでも、モデルとして写真におさまり、展示されると立派なスターである。

町ねこに関わる人、写真を撮る人、それを見る人、みんなが一つの輪になって、お互いの幸せと楽しみを深め、人とねこことの共生が進化していけば、これにこしたことはない。

町ねこ写真展も初回から 2 回目、そして 3 回目へと回を重ねていきたいと、塾生一同がんばっています。

大庭 三慶

地域ねこってなあに？

わたしたちが目にする町ねこたち。その光景を「いいなあ」と思う人がいれば「いやだなあ」と思う人もいます。ねこが好きな人は「ねこがいてもいいじゃないか」と言います。

ねこに困っている人は「糞尿や鳴き声、抜け毛などで快適な暮らしができない」と言います。町ねこは人が暮らす「まち」の中にある「ねこ」ですから、人と上手に共存していないと邪魔者になってしまいます。

昔はねこが増えてくると毒餌をまいたり、捕まえて殺していました。しかし、ねこにだって命があります。一生懸命に生きています。

動物愛護法という法律で、ねこをいじめたり別の場所へ捨てたり殺すことは禁じられています。さて、困りました。

1日3回食卓につけばご飯が出てくる、なんてことはないのでゴミをあさったりします。

食べるものを食べたら、出るものが出ます。

でも、ねこ用の公衆トイレはないから、しやすそうなところでします。

年に数回、赤ちゃんを産みます。

ねこは私たちと同じように生きているだけです。だけど、ねこに困っている人がいる以上、どうかしないといけません。では、どうすればいいのでしょうか。

町ねこには飼いねこもノラネコも含まれます。外に出られる環境で飼われているねこ(中外飼い)を外に出さないようにする(完全室内飼い)と、ごはんを食べるのも、トイレも全部お家の中。用意するのも始末するのも、飼い主が行うので他の人に迷惑をかけません。

問題なのが特定の飼い主がいない、いわゆるノラネコの存在です。

ごはんをくれる人がいても、始末をしてく

れる人がいません。困っている原因は「ねこ」そのものではなく、糞尿などねこの「落とし物」です。それならば、落とし物を片付ける人がいればいいのではないかと。子ねこが産まれて増えないようにすればいいのではないかと。適切にえさを与えてゴミを散らかさないようにすればいいのではないかと。このような考えからできあがったのが『地域ねこ』です。

地域ねこと呼ばれるためにはいくつかの条件があります。

- 不妊化手術が施されていること。
- えさを与える場所、時間が決められており常にその場が清潔であること。
- ねこのトイレを設置し、常に清潔でありかつトイレ以外の場所の清掃も行われていること。
- 自治会や町内の住民に「地域ねこ」であることを理解されていること。

これらの条件をクリアすることで、今いるねこは追い払われたり殺処分されることはなく、子ねこが生まれ増えることもないので、時間はかかりますが、ねこの数そのものが減ります。まちはきれいに保たれ、糞を見かけることも減り、おしっこの臭いも少なくなります。

ねこが好きな人はねこが殺されてしまうのではないかと不安がなくなり、ねこにコツリえさをあげている人は、始末をすれば堂々とエサをあげることができ、ねこに困っている人は困る原因がなくなります。ねこの落とし物による住民同士のいざこざもなくなり、環境と感情が良くなります。「地域ねこ」というとねこのための方策と思われがちですが、実際はそこに住む人たち全員が快適に暮らすための方法の1つなのです。

櫻木 優美

『市制百年 長崎年表』に見る

町ねこの過去、そして未来

§ モデル衛生都市活動

平成 24 年に発行した『ながさき町ねこハンドブック』では、致死処分数が極めて高いという、長崎市の町ねこが置かれている〈現在〉をお伝えしました。本稿では時間を遡り、町ねこの〈過去〉について調べました。

平成元年、長崎市の市制施行百周年を記念して『市制百年 長崎年表』が発行されています。このなかにねこの記述が出てくるのは昭和 55 年、「長崎市モデル衛生協議会の代表 6 名、市長を訪ね、野良ネコの捕獲を陳情する」とあります。そして同 58 年には、同協議会が「飼い猫に首輪をつける運動を提唱」し、市と共に「飼い猫に首輪をつける運動」が始まります。特筆すべきは、この際、9,500 個もの首輪を無償で配布していることです。配布にあたっては、昭和 56 年に「猫飼育実態調査」というアンケートが実施され、集計の結果、飼い猫を 15,000 頭、ノラネコもほぼ同数生息していると試算しているのです。このような側面だけをみれば、飼い主への責任をうながす画期的な取り組みとして評価されるどころでしたが、この運動にはもう一つの側面があったのです。それは、装着がみられなかった場合、飼い主不明とみなし、自治会限定で捕獲器を貸し出し、捕えたねこを行政が引き取るというものでした。なぜ、そうするに至ったのか？ 後に考察しますが、その前に、“長崎市モデル衛生～”とは、どのような活動であったのか、お知らせする必要があります。以下、『市制百年 長崎年表』から“モデル衛生”をキーワードに、時系列に抜粋してみました。

○昭和 25 年—長崎県をモデル衛生県にしようとする計画が立てられた。その目的とするところは「力とハエのいない生活実践運動」であり「健康で明るく住みよい街づくり運動」であった。

○同年—狂犬病予防法の施行により、犬の登録・予防注射、野犬の捕獲が始まる。

○昭和 26 年—長崎市、長崎県から“モデル衛生都市”に指定される。モデル衛生県の主旨に賛同する市町村の中から 3 市 4 町 7 村、14 地区が県下のモデル市町村に指定。モデル衛生長崎市建設推進本部設置。

○昭和 29 年—長崎市、第 1 回モデル衛生コンクールを開催。優秀町・優良町・努力町を表彰。全町の約 30%が参加。各町でネズミや害虫の駆除による住みよい衛生的な街づくりに取組んだ。モデル衛生都市建設はその後全市に展開し、長崎市は全国的に模範衛生都市として脚光を浴びた。

○同年—愛媛県 51 力町の町長・町議、九州各県都市の衛生担当者が視察に訪れる。

○昭和 31 年—長崎市モデル衛生協議会結成。172 のモデル衛生自治会で組織。力とハエのいない健康で明るい街づくりを、市民運動として推進。

○昭和 32 年—長崎市議会は、犬の放し飼いを禁止する全国初の畜犬取締り条例を可決。放し飼いなどを規制することによって、環境衛生の向上と、市街の美化を図るため、全国に先駆けて制定、違反者は拘留または科料に処した。

○同年—犬、猫の引き取りを開始する。

○同年—「住みよい街をつくる運動」の推進本部（市長を本部長とする）を設置。部門ごとに実施してきたモデル衛生都市建設・花いっぱい運動・畜犬取締りなど各種

事業の推進運動を一本化し更に強力に推進することになった。

○昭和 40 年一市と同協議会、第 1 回長崎市公衆衛生大会を開く（衛生害虫の撲滅・畜犬取締条例の遵守・清掃事業態勢の強化等、5 項目を決議）

○昭和 41 年一犬による被害相つぎ、この年の苦情 1646 件に上る。第 2 回長崎市公衆衛生大会の重点目標として「犬の放し飼いをなくする運動」推進を決議。畜犬取締条例施行 10 年目を記念し、犬の犬行進を実施（約 400 頭が繁華街をパレード、放し飼い禁止を呼びかけ）

○昭和 43 年一畜犬取締条例の廃止、犬取締条例施行。全ての犬を対象とし、飼い主の義務規定を強化した。

○昭和 59 年一宝町の仮設事務所から、ねこの収容数の増加に伴い、動物管理センターとして茂里町へ移転。

○昭和 63 年一協議会加入のモデル衛生自治会数は 640(約 14 万世帯)で全自治会の 87%に及び、全市的な公衆衛生活動団体として、その規模、活動内容においても全国的に高く評価される。同年開催の長崎市公衆衛生大会も第 24 回の開催を数えた。

以上から、“モデル衛生”とは、長崎市を模範的な衛生都市に導く活動の総称であったといえます。その中心的役割を担ったのが、「長崎市モデル衛生協議会」という自治会の連合組織の皆さんだったのです。行政主導、箱もの等に頼った活動ではなく、人的な力(マンパワー)を結集した地道な市民活動であったことが伺えます。このような背景のなかで、全国初の畜犬取締条例の施行も押し進められ、生活環境全般の向上が認められました。



▲啓発看板（当時）

§ なぜ、捕獲要請の陳情へ至ったのか？

市が衛生害虫・ネズミの駆除、野犬の捕獲に力を注いだ理由には、感染症の流行や咬傷事故の発生もありました。実効的な施策を掲げ、同協議会の協力のもと、徹底した駆除・捕獲を試みます。

○昭和 23 年一懸賞金付きネズミ狩りの実施。

○昭和 25 年一ネズミとり週間が始まり、1 匹 5 円で買い上げを実施。

○昭和 27 年一月 1 回“ハエとりデー”設置。

○同年一下水道の築造の開始(中心部限定)

○昭和 31 年一犬 1 頭 30 円の買い上げ制度。

一方、ねこの引き取り数は昭和 32 年の 200~300 頭から昭和 55 年頃には 5,000 頭程に上っていました。この間、およそ 20 年、長崎市のねこに何が起きたのでしょうか？ モデル衛生都市活動と絡めて考察してみます。野犬が排除され、飼い犬は繋がれているので、街はねこにとって「住みよい街」になりましたが、ねこいらず(殺鼠剤)やネズミ捕りを用いた駆除によりネズミの排除も進みます。これは当時のねこにとっては大変な死活問題だったと推測されます。餌としてのネズミを失うと同時に、ネズミ除けとしての役割をも失うからです。そこへ、高度経済成

長期が重なり、消費が拡大し、飽食の時代が到来し、ゴミが急激に増えます。

○昭和 39 年一木鉢焼却場だけでは処理ができなくなり、東・南・北部の 3 カ所に焼却場の新設が計画された。

塵介箱からあふれたゴミを、餌にありつけなくなったねこたちがあさるようになります。それまで「ネズミを獲ってくれるから」という理由で容認されていた存在から一転、ごみ荒らしの厄介者となり、ごみ置き場の管理を任されている自治会へ苦情が寄せられるようになります。この時期、ゴミ出し時間の厳守が再三通達されたことをご記憶の方もいるかと思います。しかし、やむなく、市へのねこ捕獲要請の陳情を行うことになってしまった。これが、ねこ問題が、犬に遅れて表面化した背景ではないでしょうか？

§ 抗議運動

昭和 58 年の「飼い猫に首輪をつける運動」と並行した、ねこの捕獲に対して、抗議運動が起こります。

○昭和 59 年一ノラネコ捕獲作戦を全国の愛猫家や保護団体からの相次ぐ抗議で当分中止する。

○昭和 60 年 1 月—9 日：市は、苦情が絶えない野良猫対策のため、「猫捕獲器の貸し出しに関する要領」を策定。自治会を対象に貸し出して、捕えた猫を市動物管理センターで処分することを決める。

14 日：東京の動物愛護団体「自然と動物を考える市民会議」代表が市役所を訪れ、捕獲器貸与に抗議。18 日：再び抗議。

25 日：貸し出しの翌朝捕獲器のふたの紛失、猫が逃がされたりする騒ぎが相次いで起こる。全国の愛護団体や市内の愛猫家た

ちが「猫狩りに反対する長崎市民の会」を結成、市役所に抗議等を繰り返す。

○同年 11 月—1 日：捕獲器の貸し出しを再開することにしていたが、反対する「県動物保護の会」の代表他 3 名が、貸し出しの窓口となる市動物管理センター前で「猫狩り絶対反対」のタスキやプラカードを持って座り込み、捕獲器の運び出しを阻止したため、この日は断念。市衛生部長が説得したが、「野良猫を増やさないように飼い主を指導するのが先決。猫の生命を勝手に奪うのは許せない」と抵抗した。また、「猫をかわいがるよう PR したいので、貸し出し先の自治会名を教えて欲しい」との申し入れがあったが、「自治会とトラブルを起こす恐れがある」として市側が拒否した。

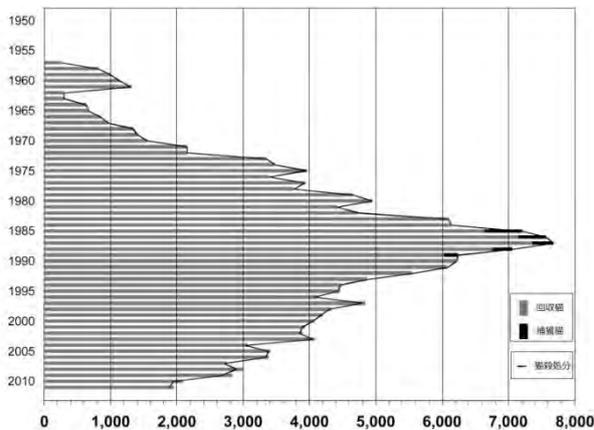
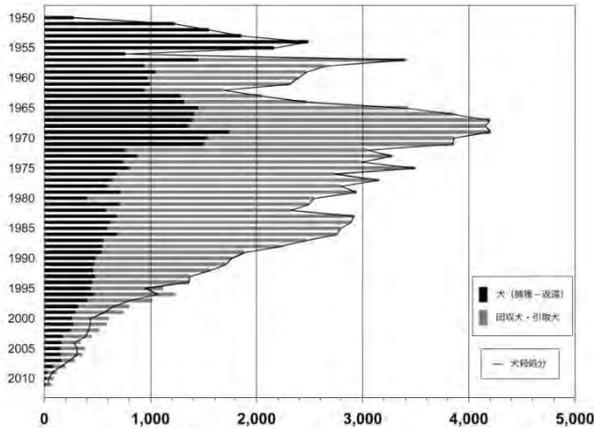
5 日：同会との話し合いをもったが平行線に終る。8 日：話し合いがつかないまま、希望自治会へ貸し出す。

11 日：「県動物保護の会」が西彼三和町沖の無人島、野島の一部を購入し「ネコ島」をつくる構想を打ち出し、市側に捕まえたネコの譲渡を申し入れる。12 日：市は「ネコ島」計画に難色を示し、捕獲猫の引き渡しを拒否。

○平成 2 年一ノラネコ捕獲器の貸し出しを中止。

捕獲器の貸し出しを行っている自治体は他にもありましたが、当市での騒動が大きくなった一因には、全国版の写真週刊誌が報じたことにありました。全国から抗議文等が寄せられ、「可哀想なのでやめて欲しい」という内容が殆どでしたが、なかには、長崎の名産品を買わない、旅行に行かないようにしたい等の、いわゆる不買行動・観光ボイコットを表明するものも見られました。平成 2 年、反対者の意向、動物の保護及び管理に関する法律の制

定(昭和 48 年)等を踏まえ、時代にそぐわないと判断し、貸出しは中止されました。



▲長崎市における犬と猫の致死処分数の推移
 (上：犬 1950～2010 年 (単位・頭))
 (下：猫 1957～2010 年 (単位・頭))

§ 町ねこの未来

ごみ荒らし問題は、その後大型・蓋付の金属製塵介籠が設置されることにより、ほぼ収束をみました。しかし、依然として多くの苦情が寄せられます。なぜでしょうか？ あさるゴミが無くなった今、ねこたちは、どなたかに餌を頂いているようです。今日の苦情は「自宅が糞尿被害にあっているのに、餌を与えている人に注意をして欲しい」に変わりました。かくして、捕獲器騒動時(昭和 60 年頃)の 6,000～7,000 頭台からは減少しているものの、未だ昭和 47 年頃と同じ水準の約

2,000 頭が、引き取られているのです。惜しまれるのは、「飼い猫に首輪をつける運動」を適正飼育への転換の好機と成し得なかったことと、“県動物保護の会”から申し入れのあった「自治会側との話し合い」を、トラブルを恐れて拒否してしまったことです。当時、この騒動取材した地元新聞の記者は「要は飼い主の自覚が第一であり、市は正しい飼い方の PR にもっと努めるべきだ」(抜粋)と指摘しています。

平成 20 年、環境省の指針を受け、長崎県動物愛護推進計画が策定され、平成 22 年に「長崎県動物愛護推進協議会」が設置されました。行政、有識者及び民間が協働し、地域に密着した幅広い活動の展開を目指しています。人の生活は時代と共に変化し、その変化は人々の思考へも影響を及ぼし、動物の存在意義を変容させることがあります。時代に即した共生を実現させるためには、多くの人の知恵と協力が必要なのです。また、相対する意見を持つ者が対話を積み重ね、相互理解を深めていくことも求められています。

さしずめこの「町ねこ調査隊塾」も協働の一つの形ではないでしょうか。町ねこの〈未来〉は、私たちの協働にかかっているのです。

平野 仁美

<参考>

- ・「市制百年 長崎年表」平成元年 4 月
市制百年長崎年表編さん委員会、長崎市
- ・長崎市動物管理センター保管データ、資料
- ・長崎新聞記事 長崎新聞社
- ・「ながさき町ねこハンドブック」平成 24 年
長崎伝習所 長崎の町ねこ調査隊塾
- ・「長崎市の保健行政(平成 23 年度)」
長崎市市民健康部他

長崎の町ねこ調査隊塾に参加して

2年目となった町ねこ調査隊は、長崎市における町ねこの実態調査に入り、グループであるいは個人で定期的に各地域の調査をした。

何度も同じ地域をまわることで、ねこのエサやり場、エサをやる手段、ねこ被害防止のためのさまざまな方法など、そこに住む人々のねこへの反応、また自治会あるいは住宅密集地域の町ねこへの関心など、結構見えてくるものがあった。

さらに進んで、人もねこも住みやすい街づくりに貢献したい。

大庭 三慶

この塾に参加して2年目となり、活動を通じて実感できた自分進化を挙げてみました。

- 一、町ねことのコミュニケーションができるようになったこと(エ!?)
- 一、町ねこの写真撮影がうまくなったこと(?)

何より、この2年間で塾活動自体がすごく進化したと実感しています。塾長はじめ塾生の皆さんに感謝するとともに、新しい仲間も大歓迎です。

高比良 実

塾で集まってどんなことができるか手探りでスタートした1年目とは違い、「なにをしよう」「どういうふうに伝えよう」と考えて取り組むことができるようになった2年目の塾活動。確実に厚みが増したことを実感します。

中村 淳

人が「かわいい！」と思う四大要素(小さい・丸い・暖かい・柔らかい)を全て兼ね備え

た動物、それが“ねこ”です。

アスファルトも溶ける様な真夏の暑い一日も、雪がちらつく凍える冬の日も裸一貫(!?)町ねこは一日一日を精一杯生きています。

この1年のねこ塾の活動を通してそんな町ねこ達に癒され、勇気や元気、慰めを沢山もらいました。出会ったたくさんの町ねこや、塾長はじめねこ塾の皆様との出会いに感謝！

全てのねこ達よ！ 明日も元気でね。

二田 香

私がねこ塾の事を知ったのは、塾の紹介とその冊子を頂けるという新聞記事を父に教えてもらった時です。

冊子を頂いた際に入塾案内も一緒に頂き、すぐに入りたい！ と思い母と入塾希望を提出しました。

一番最初の顔合わせの時は皆さん私よりも年上でしたのでとても緊張しましたが、回を重ねるたびに年齢関係なく仲良くしていただけたのが嬉しかったです。

また、ねこ塾をきっかけに趣味の写真を撮ったり、ねこトークをさせていただくのがこれからも楽しみです。

今後は受験もあり、ねこ塾の活動にあまり参加できなくなるかもしれませんがよろしくお願ひします！

二田 伶良

町ねこ調査隊塾に入ってから2年間はあっという間でした。外を歩く時は自然とねこを探すようになり、顔なじみのねこもできました。すべての命が平等に生きられる社会を目指してこれからも調査を続けていきたいと思ひます。

浜田 ひさえ

なかなか調査には参加出来なかったのですが、メールやブログで報告して下さるので、いつも参加したいなあとおもっていました。

来年度はぜひ、猫を探して長崎のまちを歩きたいです。

松尾 智恵子

今年度は、定例会、調査などの活動にほとんど参加できず、申し訳なくまた残念でしたが、塾生だという意識があるだけで、町やねこたちを見る目が以前と違っているのを感じます。来年度はもっと活動をと考えています。

宮崎 聖乃

長崎の伝習所の中にある、この変わった名前の塾は、今まで考えられたこともないユニークな塾である。塾生は皆ねこを愛する人たち、家で飼っている人もいれば、飼っていないけどというメンバーもいる。共通するのは「ねこに対する愛」敷衍すれば動物に対する愛、そして人間に対する愛につながるものではないかと思う。そういう会にいる居心地は極めて快い。

室塚 久江

一昨年、伝習所より仰せつかった事務局員の仕事でしたが、当初は何をすればいいのか分かりませんでした。塾生さんと一緒に調査したり、考えたりするうちに、ようやく見えてきたように思います。正しい飼い方を、多くの人に知ってもらうことは容易ではありませんが、みなさんが一緒に考えてくださったことが、これからの糧になると思います。

ありがとうございました。

事務局員 平野 仁美



▲「ながさき町ねこの歌写真展」



▲サーヴェイ調査風景

(視線の先にはチャシロのオスねこ)



▲墓地に集まるねこたち

長崎の町ねこ調査隊塾

塾長	中島 由美子				
1	江頭 節子	21	二田 伶良	41	
2	大石 誠	22	浜田 ひさえ	42	
3	大野 孝子	23	平石 和隆	43	
4	大庭 千佳子	24	前田 幸司	44	
5	大庭 三慶	25	松尾 智恵子	45	
6	大平 由子	26	松崎 知子	46	
7	沖田 香織	27	宮崎 聖乃	47	
8	沖田 誠	28	室塚 久江	48	
9	上出 恵子	29	百崎 ゆり子	49	
10	北原 公介	30	吉田 隆	50	
11	久保 まりこ	31		51	
12	栗原 美香	32		52	
13	櫻木 鉄也	33		53	
14	櫻木 優美	34		54	
15	高比良 実	35		55	
16	富田 祐一	36		56	
17	富永 則子	37		57	
18	中島 恭子	38		58	
19	中村 淳	39		59	
20	二田 香	40		事務局員	動物管理センター 平野 仁美

孫文・梅屋庄吉と明治大正長崎事情塾





塾長 村崎 春樹

■ 塾長コメント ■

明治大正の長崎は、江戸時代西洋に開かれた窓口から、さらに、大きく開かれた玄関口と、変貌した。特に、国際電信の中継拠点の設立、上海～長崎航路の設置など、元龜 2 年(1571)の開港以来、培われた国際感覚などによって、長崎は、独特の文化と人情を持った、独特な街になってきた。その独特の文化に、魅惑され多くの文人墨客が、長崎を訪れてきた。

また、多くの長崎人が、この長崎の地で活躍した。でも、その活躍や訪問者の足跡が、地元長崎、さらに全国的に知られていない現実がある。

私たちは、長崎が、江戸時代以降、激しく躍動した、明治大正について、もう一度、歴史を見直して、先人たちの足跡をたどり、再発掘することにより、私たちの郷土、長崎を再検証し、未来への飛躍のきっかけにするとともに、これらの事柄を、広く全国及び世界の人たちに、知っていただき長崎を今以上に、魅力ある街として、明治大正期に、長崎を訪れた文人墨客同様、長崎を訪問してもらえる街の情報を発信するため、私たちは、長崎伝習所「孫文・梅屋庄吉と明治大正長崎事情塾」を発足させました。

2 年間の活動の成果をまとめた小冊子『孫文・梅屋庄吉と明治大正長崎事情Ⅰ』につき『孫文・梅屋庄吉と明治大正長崎事情Ⅱ』を発行いたしました。

この小冊子は、長崎市民による調査活動結果をまとめたものです。長崎の魅力発見のきっかけにいただければ幸いです。

なお、この小冊子発行について、塾生、監修や助言いただいた宮川雅一、原田博二両先生、並びに活動に支援いただいた長崎伝習所事務局、長崎市観光政策課の方々のご協力に厚く感謝いたします。

■ 塾の目的 ■

中国大陸ひいてはアジアへの玄関口として、上海航路を始め多くの内外船舶が往来し、人、物、情報が激しく行き交う西日本有数の国際都市であり、多くの国内外の著名人が行きかった。

長崎で活躍した人物の寓居、活躍した具体的事象、訪問先などを調査検証して、その成果を広く周知する事により、「長崎さるく」の充実とさらなる拡大に寄与し、長崎の歴史文化への興味を持つ人々の拡大を図ります。

本年は、孫文や梅屋庄吉に関わりのある人々に限らず同時期の明治大正期の長崎で活躍した人々にも拡げて、中国大陸やアジアへの玄関口として開かれていた長崎の歴史と文化を解明して、その魅力を発信し、長崎活性化の一助として活動します。

■ 塾の研究・活動内容 ■

今年の活動も、塾生の皆さんの調査テーマの希望調査からスタートしました。まずは、そのテーマ別に 6 グループに分けて、グループの中で同じテーマの共同調査をする人達で

チームを作り、チームとして関係文献や関係者への聞き取り、現地調査を行いました。

また、全体の活動として、月 2 回の塾定例会を開催して、塾全体の意志統一と連帯感と方向性の確認などを全塾生で協議しながら、塾の運営を行いました。

さらに、塾発足始めには、塾生の認識を高めるために、専門家による講演会を 2 回開催いたしました。続いて明治期に活躍した日本最初の職業写真師である上野彦馬が 10 代で入門した大分県日田にある成宜園などを訪れる研修旅行を実施して、明治期の先人達の生ざまを感じました。

塾定例会は、合計 22 回をかぞえ、たくさん有意義な意見が出されました。

■ 塾活動の成果 ■

今年の活動の中で、明治大正期に長崎で活躍した人物や出来事などを調査しました。

その調査結果をもとに塾生の皆さんが、原稿を書き、編集して小冊子を作りました。今年も前年に続き、予定していた頁数を超過するほどの塾生の皆さんの熱意によって 128 頁となり、予算のやりくりが大変でしたが、なんとか発行できました。

今年は、特に長崎の郷土史の研究に尽力された先人たちや、社会福祉の分野での活躍された方々、長崎出身または、長崎を訪れた文人墨客や画人を始め、国際電信や金星観測、長崎貿易五厘銭の用途など興味深い事、長崎にあった芝居小屋など、明治大正期の長崎文化について、改めて認識を深めました。

■ 提 言 ■

長崎は、ほかの土地にない、独特な歴史と文化に恵まれた場所です。現代の日本の範囲で考えると、まさに西の端です。その先には海しかない、でも、その海の先には、大きな成長する力をもっているアジアが広がっています。

鎖国時代の長崎が、そうであったように中国だけではなく、遠くタイやベトナムなど交易をしたように、歴史的、地理的な条件を生かすべく、また国内的にも大きな特徴がある土地柄を生かすべく、長崎の魅力と先人たちの足跡、事象を調査、検証して、その結果を広く国内外へ発信する事が必要である。

私たちが調査した小冊子を多くの人たちの手にとってもらい、国内外への情報発信の役に立っていただくため役立てていただきたいと思います。

海外への情報発信には、英語版、中国語版、ベトナム語版、タイ語版などの情報を発信する必要があります。

私たちの調査結果を、長崎観光につなげるためにも、海外への情報発信を根気良く行う必要があります。

孫文梅屋庄吉と明治大正長崎事情塾 活動記録

日 時	場 所	内 容
平成 24 年		
5 月 9 日(水)	メルカつきまち 5 階ホール	長崎伝習所「塾」開所式、第 1 回 塾会議
5 月 24 日(木)	アマランス第 1 研修室	第 2 回塾定例会
6 月 16 日(土)	アマランス第 1 研修室	第 3 回塾定例会
6 月 22 日(金)	アマランス第 1 研修室	第 4 回塾定例会
7 月 13 日(金)	アマランス第 1 研修室	第 5 回塾定例会
7 月 22 日(日)	大分県日田	研修旅行
7 月 27 日(金)	アマランス第 1 研修室	第 6 回塾定例会
8 月 9 日(木)	アマランス第 1 研修室	第 7 回塾定例会
8 月 23 日(木)	アマランス第 1 研修室	第 8 回塾定例会
9 月 7 日(金)	アマランス第 1 研修室	第 9 回塾定例会
9 月 28 日(金)	アマランス第 1 研修室	第 10 回塾定例会
10 月 12 日(金)	アマランス第 1 研修室	第 11 回塾定例会
10 月 26 日(金)	アマランス第 1 研修室	第 12 回定例会
11 月 16 日(金)	アマランス第 1 研修室	第 13 回塾定例会
11 月 30 日(金)	アマランス第 1 研修室	第 14 回塾定例会
12 月 7 日(金)	アマランス第 1 研修室	第 15 回塾定例会
12 月 21 日(金)	アマランス第 1 研修室	第 16 回塾定例会
平成 25 年		
1 月 11 日(金)	アマランス第 1 研修室	第 17 回塾定例会
1 月 25 日(金)	アマランス第 1 研修室	第 18 回塾定例会
2 月 10 日(日)	アマランス第 1 研修室	第 19 回塾定例会
2 月 22 日(金)	アマランス第 1 研修室	第 20 回塾定例会
3 月 1 日(金)	アマランス第 1 研修室	第 21 回塾定例会
3 月 14 日(木)	アマランス第 1 研修室	第 22 回塾定例会
3 月 20 日 (水・祝)	ベルナード観光通り	長崎伝習所まつり 調査内容パネルの展示、冊子配布

古賀十二郎(こが じゅうじろう)

「長崎学」ということばは、昭和 43 年(1968)10 月長崎県が明治 100 年を記念して出版した『郷土の先覚者たち—長崎人物伝』のなかで永島正一氏が古賀十二郎の紹介文の副題として長崎学を確立したと書いた。この長崎学は、永島正一氏の造語と考えられる。

古賀十二郎は明治 12 年(1879)5 月 16 日、長崎の老舗「万屋」の 12 代目として、長崎市本五島町 10 番戸(現五島町 3 番地)に豊次郎とキンの長男として生まれる。15 歳の時、明治 27 年(1894)長崎商業学校に入学。明治 30 年(1897)長崎商業学校を卒業、上京して翌年高等商業学校附属外国語学校英語学科に入学する。明治 34 年(1901)同校を卒業後、明治 36 年(1903)まで 2 年間、同校専攻部にて英語とドイツ語を研究。明治 36 年広島中学に教師として赴任、明治 39 年(1906)まで勤務。古賀は、広島中学赴任中の明治 37 年(1904)25 歳の時に佐賀県嘉瀬村(現佐賀市)の夏秋嘉猷の長女艶子と婚姻している。明治 39 年(1906)古賀家戸主である祖父豊三郎が 67 歳にて没したので、広島中学を辞任し、長崎へ帰郷、古賀家戸主となる。以後、長崎研究に没頭する。

明治期において金井俊行や香月薫平、西道仙が長崎研究(長崎学)の始まりであったが日記・古文書を史料としていた。古賀は、外国語の史料も併せて研究の対象とする必要があると説いていた。

古賀には、四男五女九人の子をもうけた。しかし昭和 4 年(1929)に次女、同 6 年(1931)には長女、同 9 年(1934)には次男を相次いで亡くし、また昭和 19 年(1944)に三男と三女をうしなった。妻艶子も昭和 9 年に没している。晩年は、大村にて独身であ

った長男と困窮した生活をおくっていたが、四男の結婚を期に、昭和 22 年(1947)長崎西山の九電寮にて四男家族と生活を始めた。しかしこのような生活のなかでも、長崎研究の手を休めることは無かった。

古賀の母校東京外国語学校の先輩安藤謙介が明治 44 年(1911)長崎県知事着任後、古賀を始め多くの人々のはたらきかけによって、翌明治 45 年(1912)6 月 1 日新橋町に県立長崎図書館が設置された。現在の県立図書館の駐車場の脇の一角に、ひっそりと一つの碑がある。これは古賀を顕彰するため昭和 45 年(1970)に、開港 400 年の式典に合わせて建てられたもので、古賀の肖像が刻まれた銅板と、その下には

「港あり、異国の船をここに招きて
自由なる町をひらきぬ
歴史と詩情のまち長崎
世界のナガサキ・・・・・・・・」

大正 7 年(1918)長崎市は、6 カ年の事業として長崎市史編さんを発表。古賀は、大正 8 年(1919)4 月 9 日長崎市史編修員に任命される、給与は年額 1,200 円(当時の部長級に相当)他には東京帝国大学三上参次、京都帝国大学新村出が顧問として参加、古賀は『長崎市史 風俗編』を担当する。この頃まで古賀は、生家近くの金屋町 13 番地に住んでいた、大正 8 年 10 月には銀屋町 19 番地に転居する。昼間は寝て、夜起きる習癖がうまれたのも、この時である。『長崎市史 風俗編』は大正 14 年(1925)11 月 30 日刊行された。

丸山に愛八という竹を割った気性の持ち主の芸妓がいた、古賀と意気投合、出会は大正 12 年(1923)音曲や民謡に関する情報提供者としてである。古賀は「長崎市史 風俗編」の協力者欄に、愛八の本名「松尾貞子」を記

している。昭和5年(1930)ごろ愛八は、古賀に長崎を代表する民謡について相談、嘉永年間に流行した「ぶらぶら節」の復活と新しい民謡「浜節」が出来た、作詞は古賀、節付けは愛八であった。同年「長崎ぶらぶら節」を凸助が、レコードに吹きこみ、翌6年(1931)愛八がビクターで「浜節」と「ぶらぶら節」を吹き込んだ。昭和8年(1933)12月30日丸山の東検番裏の佃住いで60歳の生涯を閉じた。葬儀は、すべて古賀がとりしきった。この古賀と愛八との交流は、なかにし礼の小説「長崎ぶらぶら節」に形をかえて語られている。

古賀は、晩年は西山町1丁目に4男夫婦と共に暮らしたが、昭和29年(1954)9月6日午前2時、自室の枕もとにあった火鉢のやかに手をのばしたまま、76歳の生涯を終えた。当時の長崎日日新聞は「歴史学者古賀十二郎翁逝く、生涯を“長崎研究”に捧ぐ」の見出しで、古賀の業績を詳しく報道、最後の様子も「老衰が激しいため医者診察やブドウ糖注射を勧めても、好物のさしみを食べたいと頑強に拒むなど」と古賀の一徹な性格も記事のなかで紹介している。

古賀の告別式は、同年9月7日午後2時より寓居の九電寮で行われた。式には田中長崎県教育長、田川務長崎市長、伊藤市教育長その他、渡辺庫輔、林源吉、島内八郎、諸谷義武長崎国際文化協会副会長、藤木喜平長崎史談会会長、帯谷松五郎などが参列。本蓮寺山田住職の導師でとりおこなわれた。戒名は「十全院文徳日正大居士」、墓は本蓮寺後山にある。

渡辺 庫輔(わたなべ くらすけ)

長崎市の郷土史家。広い視野に立って埋没しようとする長崎の貴重な資料の調査、研究、収集に専念した。その資料は膨大。県立長崎図書館には「渡辺文庫」として収蔵され、長崎のさまざまな歴史を学ぶうえで大きく貢献している。

渡辺庫輔は明治37年(1904)1月9日、長崎市五島町60で父駒太郎、母てふの長男として生まれた。父は菓子店を経営しており、裕福な家庭に育った。長崎中学校に入学。3年生から北九州豊国中学校に転校、そこを卒業する。この中学校時代から民俗学に興味を持ち、著名な経済学者と歴史家で、長崎高商(現長崎大経済学部)の教授だった武藤長蔵らと拓本採りに行っていたという。小学5、6年生のころ著名な郷土史家の古賀十二郎について墓めぐりをしていたとの説もある。

19歳で中央公論に小説を掲載、博学多才ぶりを発揮した。その後齊藤茂吉や高浜虚子ら中央の文人と交遊し、歴史、俳句の手ほどきも受けた。茂吉からは「与茂平」のペンネームをもらっている。特に、芥川龍之介とは深く交遊している。大正8年(1919)5月、芥川と菊池寛が来崎。このとき初めて芥川と知り合った。その後、時々上京している。大正11年(1922)には芥川を慕って上京し、芥川家の近くに起居していた。3年後の大正14年(1925)父の病気のため長崎に戻った。

その後は長崎の郷土史の調査、研究に没頭する。昭和3年(1928)5月に「瓊浦集と弘化版長崎土産」をはじめ「天草四郎の生地」など次々に発表。古賀十二郎が序文を書き長崎の歴史と案内記をつづった渡辺の最初の単行本「昭和版長崎土産」を出版した。さらに

「切支丹寺長崎記」「阿蘭陀通詞加福氏事略」などもある。

地元紙には「長崎づくし」を1年間強にわたって掲載していた。杉浦正一郎や中西啓らと分担執筆した「向井去来」は向井去来研究の決定版ともいわれるほど評価は高い。県立長崎図書館と長崎歴史文化博物館に膨大な郷土資料が文庫として収蔵されている。渡辺文庫は古賀文庫(古賀十二郎)、藤文庫(藤家文書)、山口文庫などと並んで質、量ともに最も充実した文庫である。

渡辺文庫は渡辺が収集した刊本、写本、文書記録類、原稿類など約5700点にのぼり、まだ整理中のものもあるという。「長崎の歴史上の人物を調べるのに渡辺氏の調査資料は大いに役立った」という人もおり、長崎学の研究に大いに役立っている。この中には数十冊もある直筆のノート類もある。その中の一つ「崇福寺文書」(2冊)を開くと、ノートを縦書きにして使い、独特の直線的な文字が几帳面にびっしりと書き込まれている。例えば崇福寺の催事などで出されるあらゆる料理の献立が詳細に書いてある。そこまでの調査には根気強さが求められるが、その緻密さにも舌を巻く。墓にも詳しく、だれの墓であるのか明確にした。少し小さいノートの「墓碑覚書集」には崇福寺や三宝寺、延命寺などにある墓の形状とサイズが精密に書かれている。中には半紙を短冊状に切り1基ずつ書き込んでいねいに貼り付けてある。現代なら簡単にカメラで撮ったり、コピーするなどの方法もあるが、当時はそんなものはなかった。何度も足を運び、一つひとつ書き写したことが想像できる。渡辺は昭和38年(1963)6月15日、長崎市片淵町に当時あった原爆病院で死去した。62歳だった。

武藤 長蔵(むとう ちょうぞう)

ー長崎学の奇才ー

武藤長蔵は日本の経済学者であり歴史家(経済史・経済学史専攻)である。特記すべきは長崎高等商業(長崎大学経済学部の旧制前身校)で36年間もの長きに亘り名誉教授として教鞭を執られ、長崎をこよなく愛し、一貫して高等商業教育にご尽力された方である。

長崎郷土史上、古賀十二郎・永山時英とともに「長崎学の三奇人」と称されている。

武藤長蔵は、明治14年(1881)6月9日愛知県海部郡津島町(現・津島市)に武藤長八の二男として生まれる。明治38年(1905)7月：東京高商(一橋大学の前身)専攻部貿易課卒業後、今では“幻の名門校”と伝えられる東亜同文書院に講師として就任。明治40年(1907)1月長崎高商教授に就任。昭和11年(1936)11月同校退官。引き続き、名誉教授として・名物教授として教鞭を執られていたが、昭和17年(1942)6月27日：長崎市東山手で逝去される。享年61歳。

明治42年(1909)～同45年(1912)：商学研究のためアメリカ・イギリス・ドイツに留学。大正7年(1918)「慶応元年(1865)に日本初の蒸気機関車が長崎大浦海岸で走った」ことを英国側の資料により発見。同8年叙勲六等授瑞宝章。同13年オランダ皇帝より四等勲章授与。同13年シーボルト渡来百年記念式典を発起人として尽力。同15年スウェーデン皇帝より甲級勲章授与。昭和5年(1930)叙勲三等授瑞宝章。同8年「徳川時代における経済思想と洋学」で文部省より奨励金を受ける。同12年ドイツ政府より「ドイツ赤十字勲章2級」を授与。同14年「日英交通史之研究」により慶応義塾大学から経済学博士号を授与。同15年御紋章入盃下賜

など数々の業績を残されている。墓所は長大経済学部OB会発行冊子『瓊林』に「名古屋市千種区覚王山日泰寺の東、北山墓地の北側に在り」とあるが、筆者の調査結果、現在は東京都府中市「多磨霊園」に安置されている。

武藤は「長崎高商の有名教授」であった。学者らしい風格、憎めない奇行の数々、時流に流されないヒューマニズムは学生の心を深く打って学生思慕の中心であった。だが反面、その学術的奇行のゆえをもって、陰では変人・奇人・シーボルト気違いなどとの評言があった。例えば、「交通政策」の講義中に、突然として人生論から、ダンテ、シルレル、ゲーテ論から転じて、カント、マルクス、マルサス、トインビーと延び、出島の話から、シーボルトのおたきさんの“あじさいの花”にまで飛ぶ。出島の蘭館医であったケンペル、ツンベルグ、シーボルトなど日本の開国文化の功労者の考証などは真に見事で敬服すべきものがあつた。学生はこの脱線講義において世界を知り、文学、芸術から人生を知り、足許の長崎のことを知ったのである。

武藤は外出する時はいつも洋書数冊を風呂敷に包み持ち歩く。長崎の一流料亭「富貴楼」で、ある招待宴があつた時にも洋書数冊を持ち込み、開宴までの待ち時間、その洋書を読まれていた。ふと、横に居る芸者が退屈そうに待っているのが余程気になられたのか、いきなり独逸語の本を突きつけて、「君、退屈ならこの本を読みたまえ…」と突きつけた。ポカンとした芸者はもとより、周囲の人たちも仰天したという。

長崎は幕末や対外交渉関係資料の宝庫。先生はこの貴重な資料が散逸し消滅することを恐れ、古書店などへ出向く。そして貴重な資料を発見した時は支払いのことなど一切考え

ず、まるで子どもの如く握って離さなかつたという。一方、本代をいっこうに払って貰えない店主は、先生の姿が見えると、慌てて資料を隠し込んだそうだ。

長大付属図書館経済学部分館にある武藤文庫展示室には、博士が生涯に巨りコレクションした約1万点の品々がぎっしり。アダム・スミスの『国富論』などの洋書から、江戸時代に日本語で書かれたオランダ地図、川原慶賀の『長崎出島之図』、シーボルトの鳴滝塾の様子を伝えるのはこの一枚だけという『鳴滝塾之図』まで貴重な絵画資料も多い。「学者の業績は、著書や論文だけでなく収集した資料も併せて評価すべきである」と、語っておられた博士の一端が垣間見られる。奇行に富み、数多くの逸話を残された生涯であり、その業績は計り知れない。武藤教授の訃報を知った徳富蘇峰は、「論入精詳皆道理 言無修飾尽天真」の詞を贈り、小泉信三は「篤学者耽学者」と評した。オランダ、スウェーデン皇帝、さらにはドイツも勲章を贈りその功績を讃えている。

今、長崎大学経済学部に「武藤文庫」が至宝として残るとともに、昭和25年(1950)には同学部キャンパスに先生の人徳と業績を讃えて銅像が建立されている。

アーネスト・ミルス

—みるすん坂—

長崎県立鳴滝高校(長崎市鳴滝1丁目)の正門を右に折れ、徳光山高林寺にいたる坂道(約60m)を地元の方は、今も、みるすん坂と呼んでいる。なぜ、そう呼ぶのか理由を知っている人は少ない。

日本と5ヶ国(米、蘭、露、英、仏)との修好通商条約が調印された翌年の安政6年

(1859)長崎は、条約港に指定されて外国貿易と外国人居留のために開港されることとなった。これにより数多くの商人、医師、教師などの専門家、政府(領事)、軍事関係者、宣教師も長崎にやってきた。

宣教師の長崎 1 番乗りは、アメリカのプロテスタント宗派である、アメリカ監督教会(聖公会)、アメリカ・オランダ改革派教会、そしてアメリカ・メソジスト監督教会の人々であった。明治 29 年(1896)アメリカ南部バプテスト教会派からも最初の宣教師が長崎へ派遣され、明治 35 年(1902)に 2 階建の教会堂を建てた。その後、同会派のアーネスト・ミルス(Ernest・Mille)が長崎にやってくる。

ミルスは、明治 6 年(1873)に Y M C A の英語教師として来日し、山口県長府で教鞭をとっていた。その後、契約が満了すると日本の南部バプテスト伝道団に加わり、大正元年(1912)結婚、大正 6 年(1917)長崎バプテスト教会へ宣教師として派遣され、最初の 2 年間は、出島 9 番に住んでいたが、後に中川郷に引っ越している。



ミルス宅の当時の写真

ミルスが長崎にいた頃のことは、よくわからないが、昭和 10 年(1935)から翌 11 年までアメリカ人教会の会長であったこと、昭

和 15 年(1940)にバイブル・クラスを教えていたという。同年 9 月 15 日まで長崎に留まったが、伝道本部はミルスに帰国命令を出し、余生をテキサス州で過ごした。昭和 37 年(1962)1 月 1 日 88 歳で、この世を去った。

長崎バプテスト教会『回想と回顧の 100 年』によれば、「当時、鳴滝にあった宣教師宅前の坂はミルス坂と呼ばれるほど、ミルス宣教師は、近所の人々に親しまれたが、日米関係が日々悪化して行く中、宣教師たちは、心を日本に残して本国へ帰国して行かざるをえなかった。」と述べている。

ミルス邸について、「内川雅夫の資料」によると「敷地は、約 400 坪。そのうちの下段半部が 200 坪のテニスコート。2 階のサンルームからは庭に入りができた。部屋数も上下、各 10 室。4 つ折りのドアがあり、ドアを開放すれば広いダンスホールにもなった。各部屋の壁紙もピンクやグリーンなど、色とりどりであった。

ミルス邸跡地は、民間人、長崎原爆病院関係、長崎県立女子短大附属幼稚園を経て、現在長崎市道中川鳴滝 3 号線道路改良工事の替地となり公園と 11 区画の宅地(内 7 区画には住宅が建ち並んでいる)となっている。



現在のみるすん坂

右側がなるたき図書館、左側が
ミルスの宅地跡



みるすん坂の現在地

鳴滝の住人と外国人宣教師との友好、そして戦争の名残として、みるすん坂の名は、今後も語り続けたいものです。

なお、ミルスは、東山手の海星学校で英語の教師であったとの話しがあるが、長崎市立図書館で調べたが、同校の教師名簿にミルスの名を見つけることは出来なかった。

吉田 健康(よしだ けんこう)

—長崎大学医学部中興の祖—

長崎市寺町の皓台寺山門近くに「従五位吉田健康墓」(戒名諦國院殿恪巖健康大居士)と刻まれた墓碑がある。医学部中興の祖といわれる吉田健康の墓である。明治30年(1897)9月2日逝去。52歳。

今年で155年を迎える医学部は、長い歴史の中、廃校の危機が何度かあった。明治7年(1874)の征台の役に際し、長崎医学校が戦病将兵の病院に転用され、医学校が廃止された時。次は、明治15年(1882)医学校通則によって全国の医学校が見直しされた時、そして昭和20年原爆により壊滅状態で廃校もやむなしと思われた時が大きな危機であっ

たといわれている。吉田の時代の長崎医学校草創期は、めまぐるしく変貌する文教、医事制度の改革の中、特に征台の役で廃校となった医学校を東奔西走して見事、再興させた傑出した医人として吉田は評されている。

吉田は、弘化3年(1846)に福井藩の藩医吉田儒庵の子として生まれ、幼児より博覧強記、将来を嘱望されていた。藩命により、長崎に留学したのは、慶応3年、吉田21歳の時である。文久元年(1861)小島養生所は、精得館、長崎府医学校、長崎医学校と改称、明治4年吉田は、長崎医学校を卒業、その年、文部中助教を命ぜられる。吉田は、激務の中、長崎病院長、医学校長、さらに県医師会、市医師会会長を兼務、医学教育充実のため浦上山里村に新校舎を新築、吉田悲願の県立長崎病院(後の長崎附属病院)も浦上山里村に健康没後の明治35年(1902)に新築落成した。戦後とかくポンペのみ顕彰され、吉田の名が忘れ去られているのが残念である。

岩永 マキ(いわなが まき)

岩永マキは、浦上の豪農であった「なのこも屋」のパウロ徳右衛門の孫の市蔵を父に、母モンの長女として、嘉永2年(1849)3月3日に、古くからのキリシタンの村、浦上山里村で生まれる。浦上四番崩れで、マキ一家も岡山の無人島鶴島へ流される。その時、父と妹フィが亡くなった。

明治6年(1873)マキ25歳。3年半ぶりに浦上へ戻った。留守中に家や田畑は人手に渡り、割れた茶碗のかけらで田畑を耕やし食糧を得た。1年後、落ちつきかけた時、台風被害に遭う。さらに伊王島で発生した赤痢が浦上まで拡がり、毎日大浦から重い薬箱を抱え、診療にやって来るド・ロ神父を支え、看

護の苦勞を共にしたのは、マキと守山マツ、片岡フイ、深堀ワサだった。次に蔭ノ尾島(現在の香焼の三菱造船所あたり)に天然痘が発生。ド・ロ神父と島に渡り看護にあたった。マキ達4人は、家族に伝染させないよう、高木仙右衛門の納屋を借り、貧窮のどん底ながら信仰を守り、4人で共同生活をした。

ド・ロ神父は俗服の修道女の夢をマキ達に託し、借みなく私財を費した。それが女部屋の始まりだった。マキは、蔭ノ尾島から孤児になった女の子を連れ帰って来た。当時は、生活苦から捨てられる子等、捨て子が少なくなかった。その子等を自分達で養い育てることにした。そこは子部屋と呼ばれた。明治10年(1877)女部屋を浦上十字会と称した。この十字会が戦後、「お告げのマリア修道会」に発展する。また、子部屋を「浦上養育院」とした。これは、近代日本における日本人による初めての児童福祉施設といえる。明治43年(1910)東洋日の出新聞が、マキ訪問記を8回に渡って掲載している。その中でマキは、36年間に自分の戸籍に入れ、我が子として養い育てた子は、500~600人になると言っている。大正9年(1920)正月、マキは流行性感冒にかかった。数年前から胃ガンを患っていて急激に体力が衰え、1月27日十字会の1室で、72歳で息を引きとった。

1月30日新築の

浦上天主堂で葬儀が行われ、「こうらんば」墓地まで、約2kmを葬列が埋めつくした。流配地鶴島には記念碑が建立され、今も巡礼が行われている。



江角 ヤス (えすみ やす)

—未来に拓く初の日本人国際派教育者—

明治32年(1899)島根県簸川郡久木村(現出雲市)の江角文之助三女。東北で学び、仙台出身の日本人初のカトリック司教・早坂久之助氏に呼ばれて長崎に来て、幼児教育から老人福祉の分野まで、長崎の地の個性をしっかりと把握して国際派教育に乗り出し長崎発の教育福祉の道を拓き、ローマ法王来崎前年、昭和55年(1980)に長崎にて死去・長崎の地に眠る。

大正5年(1916)島根女子師範

同9年 東京女子高等師範卒。東北帝大理学部数学教室在学中、カトリック受洗

同15年 同校卒

同年~昭和4年 京都府立第一高女教諭

同年~同5年 東京雙葉高女教諭

同年~同9年 女子教育視察の為、仏・英・伊留学後、長崎純心聖母会を創立

同10年~ 長崎純心女学院創立、鹿児島純心、東京純心女子学園設立へも展開

同42年 西彼純心幼稚園設立

同43年 養護老人ホーム「恵の丘」及び山口県小野田老人ホーム設立

昭和20年(1945)長崎純心高女にて被爆。46歳で被爆の瓦礫の中から新たな使命を悟り、35年間、その後遺症と戦いながら活動した。純心女子高敷地内には原爆で亡くなった214名の名前が刻まれた校墓があり、同じく島根出身の被爆医師永井博士の詠んだ歌も刻まれている。

中村 三郎(なかむら さぶろう)

若くして没した長崎の天才歌人だった。中村三郎は明治 24 年(1891)3 月、長崎市麹屋町の中通りに面した写真館の三男として誕生。明治 38 年(1905)勝山高等小学校を卒業後、通信教授講義録により独学。英字新聞「ナガサキ・プレス」の活版工として働いたり、長崎新報社の記者を務めたりしながら、作歌活動を始めた。「スバル」や「帝国文学」に投稿して作品が掲載される。

21 歳の頃、文学と絵画の勉強のため上京したが、まもなく帰郷。兄に従って平戸に移住し、農業に従事。この頃、「アカシア会」(のちに「うねび短歌会」)を町田義雄らと起こす。大正 2 年(1913)平戸から長崎に帰り、再び上京するが、まもなく帰郷。24 歳頃から絵画の研究制作に没頭し、『グラバー図譜』に近海魚の絵約 280 点を描いた。

また、県立長崎図書館で郷土史関係の美術模写に当たる。大正 6 年(1917)26 歳、上野初太郎・町田義雄・大橋松平らと「うねび短歌会」を復興する。この頃から胸を病む。大正 7 年(1918)斎藤茂吉と相知る。この年 12 月、「創作社」の若山牧水を頼り上京。牧水を助け歌誌「創作」の編集に当たる。肺結核で咯血し、帰郷し新中川町西明寺出張所にて保養する。大正 9 年(1920)頃、闘病中ながら和歌・絵画の制作を続け、地元歌会で島内八郎らの指導にも当たった。大正 11 年(1922)4 月 18 日、長崎市伊良林 52 番地の長屋にて逝去。享年 31 歳。皓台寺の墓地



に葬られる。

現在、中村の歌碑は、諫早市飯盛町里西明寺境内(昭和 15 年建立)と長崎市立山 1 丁目の県立長崎図書館門前(昭和 48 年建立)にある。

1 番目の歌碑には、
「うつそみの すなはち澄みて 行くところ
峰の松風 ひさしかりけり」
と刻まれている。清澄で高雅な調べが聞こえてきそうな歌である。

2 番目の歌碑は、
「川端に 牛と馬とが つながれて
牛と馬とが 風に吹かるる」
である。のどかであると同時に、もの寂しい風景が迫ってくる歌である。

石橋 忍月(いしばし にんげつ)

若き頃、森鷗外と「舞姫論争」などの文芸論を交わした文芸評論家であった。明治 32 年(1899)6 月、数え年 35 歳の時、長崎地方裁判所判事となり着任以来、数え年 62 歳の 大正 15 年(1926)2 月、長崎で死去するまで長崎に住んでいた人である。

判事辞任後は弁護士、市会議員、県会議員などを歴任し、長崎新報、長崎日日新聞の編集顧問として文筆活動も行っている。文化勲章受章の文芸評論家・山本健吉(1909～1988 本名山本貞吉)は石橋の三男である。

石橋の長崎での文筆活動の主なものは俳句、紀行文、史伝である。俳句については、田土英など地元の俳人と結社を作って交友し、例年、正岡子規の命日には子規忌の集いを開いていたのだった。

紀行文は俳句を交えての軽妙なタッチの文章で楽しませてくれる。「四ツの杖」は俳句仲間 4 人づれで日見峠越えて滝の観音へ参った

ときの紀行文である。

「天下の丸山」「文豪の鞋痕」は丸山遊郭史と頼山陽の九州旅行について述べた史伝作品である。

芥川 龍之介(あくたがわ りゅうのすけ)

南蛮キリシタン文学の作品に見られるように、「長崎」という土地に強い関心と憧れを抱いていた。「奉教人の死」は大正7年(1917)の作品で、長崎の火災で献身的な死を遂げたキリスト教信者の話である。

芥川の長崎への最初の旅は菊池寛と共に、大正8(1919)年5月、1週間ほど長崎市銅座町の永見徳太郎邸に滞在した。この時、芥川は唐紅毛の混在した異国情緒の都市長崎を満喫した。



永見邸にて

左から 菊池寛 芥川龍之介
武藤長蔵 永見徳太郎

2回目の長崎訪問は大正11年(1922)5月11日から20日間、芥川の弟子であった渡辺庫輔の世話で、五島町の花迺屋旅館に滞在した。渡辺庫輔や蒲原春夫、そして丸山芸者照菊(杉本わか)と親しく交遊した。

照菊に贈った「河童屏風」は、今日も芥川の命日「河童忌」に長崎歴史文化博物館に展

示されている。

芥川の晩年は神経衰弱などに悩まされ、最後は睡眠薬自殺となった。しかし、芥川にとっての長崎は、微塵もそのような形跡はなく、芥川は憧れの土地長崎で楽しい風流の日々を送った。芥川にとって長崎はハライソ(パラダイス)だったのだ。

芥川の晩年、九州帝大の英文科の教授に招聘しようという話があり、芥川も乗り気だったが、家族の反対で断念した経緯がある。もし、九大教授として芥川が赴任していたら、自殺をするようなことはなかっただろうと、惜しむ声もある。

彭城 貞徳(さかき ていとく)

長崎の地役人唐通事彭城家の10代当主として長崎市袋町に生まれる。子供の頃から唐通事になるための厳しい教育を受け、特に論語が好きで非常によく精通していた。彭城の生涯の思想の根底にあるものは常に論語思想であったが、それはこの時の教育によって培われたものと思われる。

15歳の時、京都のフランス語学校で、教師であるレオン・デュリーが所蔵していたナポレオン3世の肖像画を見て、その迫真的描写に驚嘆する。この西洋画初体験がきっかけとなり油絵を志すことになる。

18歳で上京し、高橋由一が主宰する天絵楼に入門。翌年工部美術学校に入学し、イタリア人ファンタネージから油絵の基礎を学ぶが、後任者の教授方法に嫌気がさしていた頃、石版会社に職が見つかり退学。

24歳で隠居、この頃鈴木薫と結婚。27歳の頃、長崎に帰郷し35歳頃まで長崎の学校で洋画を教えていた。36歳の時、シカゴ万国博覧会に出品人代表として渡米し、その後

ロンドンやパリに滞在し生活費を稼ぐための絵を描いたりしていた。

43歳でパリより帰国し神戸を拠点として活動していた。46歳で長崎に帰郷。当時流行していた絵葉書店を経営しつつ、洋画の私塾を始め、かたわら、図画の嘱託教師として教鞭をとった。この塾が発展して洋画専門学校という名称となり、かなりの生徒をかかえてなかなかの盛況をみた。この頃描いたものに彼の代表作とされる「和洋合奏之図」がある。



「和洋合奏之図」(長崎県美術館蔵)

58歳の時、病のため教師を辞職。その後画筆を完全に折り上京して海産物問屋を開業。66歳の時、関東大震災により全てをなくす、75歳の時、彭城が存命中にもかかわらず遺作展が開催された。しかも「彭城」を「榊」と間違えられる程に皆に忘れられていた。

ともあれ新しい洋画を長崎に導入した功績は評価されるものである。

山本 森之助(やまもと もりのすけ)

—外光派の巨匠—

山本森之助(1877~1928)は、長崎市新橋町(現在の諏訪町)料亭一力に父・保吉、母・カネの長男として生まれる。

山本は画家を志し、長崎の田口松之助、東京の黒田清輝らで東京の美術学校で指導を受ける。その後、大正11年(1922)フランス

に滞在する。特徴としては、明るい外光表現の風景画を得意として白馬会、外展、文展などに活躍される。また、学生時代に信じた自然を忠実に写し取る画質を生涯失うことなく追求した画家でもあった。

一方では、一人前以上の画家を志しさせたのは東洋日の出新聞社の鈴木天眼とされる。その他の人物としては、よく面倒を見たのは一力の三代目女将の姉キンである。

講談本の好きな彼は信義を重んじ、故郷を愛した絵画の一つに明治天皇中国西国御巡幸長崎御入港を完成させる。

最後となる作品の中に、亡くなる年の6月から7月に描かれた“雨後”がある。体調があまり優れなかった山本が上京中、自宅の池の中に浮かぶ睡蓮の花には、印象派であるモネの影響を指摘する、雨上がりの湿っている光景に澄みきった空気、ぬれた植物感の質感を丁寧な観察力(眼)で手に取るような描写である。死を迎える年の作品とは思えない程力強く、かつ極めて繊細な描写力を発揮した感じである。山本にとっては集大成的な事であり、また、故郷の長崎で親しまれるにふさわしい名作ともいえる。

山本は、昭和3年(1928)12月19日、享年51歳にて病没、大音寺後山に眠る。

参考文献

- 古賀十二郎 『古賀十二郎』 中嶋幹起 長崎文献社
- 武藤長蔵 『学内探訪 武藤文庫』 長崎大学付属図書館発行パンフレット
『瓊林』第49号、第51号、第58号、第63号、第66号、第85号
『長崎文化』No36 特集長崎の女
『明治文化と西洋人』重久篤太郎著作集 思文閣出版
『ながさきの空』（長崎歴史文化協会）
「斎藤茂吉とわが父・武藤長蔵」武藤埼一郎(長男)著
『海外文化と長崎』武藤長蔵遺稿 山田憲太郎編 千倉書房
『対外交通論』東洋経済新聞社
『日英交通史之研究』内外出版
『長崎日報新聞』昭和17年6月27日、同月30日、7月3日付
- 渡辺庫輔 『渡辺庫輔の文学と周辺』志村有弘著 九州人9月号(1972年)
『長崎県立長崎図書館所蔵郷土史料解題』長崎県の郷土史料
朝日新聞 昭和38年6月16日付
長崎新聞 昭和38年6月27日と28日付
『庫輔さん追悼のつどい』ネット『長崎夢現塾』の歴史散歩
- みるすん坂 『長崎居留地の西洋人』レイン・アーンズ 長崎文献社
『続Ⅱ・長崎周辺の史跡』岩永 弘
『旅する長崎学5』長崎文献社
- 吉田健康 『長崎医人伝』宿輸亮三 藤木博英社 平成16年12月
『長崎医学百年史』長崎大学医学部 藤木博英社 昭和36年
『長崎学人物伝』長崎県教育会 臨川書店 昭和48年
『明治維新人名辞典』日本歴史学会編 吉川弘文社
『長崎遊学者辞典』平松勘治 溪水社 平成11年

- 岩永まき 「シリーズ・福祉に生きる岩永マキ」 米田綾子 大空社
「お告げのマリア長崎女部屋の修道女たち」 小坂井澄 集英社
「人物で読む近代日本社会福祉のあゆみ」 室田保夫 ミネルヴァ書房
「長崎県福祉のあゆみ」 長崎県社会福祉事業史編集委員会
- 江角ヤス 『「江角ヤス」物語』 斐川町人物史 島根県斐川町教育委員会
『江角ヤス学園長先生追慕の記』 純心学園
『長崎純心聖母会の五十年』 純心学園
『長崎の女たち』 長崎女性史研究会編・シリーズ
『福祉に生きる』 山田幸子大空社
『滝山の風に吹かれて—江角ヤスの生涯と教育』 杉浦太一、吉田直哉等
- 中村三郎 歌集『望郷』 町田義雄著 昭和堂印刷 1993年12月発行
『風に吹かるる』 長崎歌人会耕文舎 2011年11月発行
『長崎文化第55号』 長崎国際文化協会 1993年発行
『中村三郎全歌集』 大悟法利雄編集濃美印刷 1975年12月発行
- 石橋忍月 『石橋忍月全集』全5巻 八木書店 1995～96年
『石橋忍月研究 評伝と考証』 千葉眞郎著 八木書店 2006年
『山本健吉全集』第11巻・第16巻 昭和58・59年 講談社
- 芥川龍之介 『もうひとりの芥川龍之介』 産経新聞社
『芥川龍之介全集』 岩波書店
『芥川龍之介生誕百年、そして今』 毎日新聞社
- 彭城貞徳 『長崎の美術4 生誕150年記念 彭城貞徳展』 長崎県美術館
『高橋由一の一門下生 彭城貞徳について』 安永幸一
- 山本 森之助 『絵画と聖跡でたどる明治天皇のご生涯』 打越孝明著 明治神宮監修
新人物往来社刊
『明治の御代—御製とお言葉から見えてくるもの』 勝岡寛次著 明成社刊

一口メモ

- 長崎の町に芝居小屋がなかったのを不思議に思っていたので、歴史発見の年でした。 宮田一美
- 明治維新以後の長崎について今まで調べる機会がなかったので意義ある一年になった。 常川和宏
- 文章はわずか3頁ですが、これに要した時間と労力は底知れず、良い体験でした。 東海安興
- 明治期女性達でこれだけの活動をした方々がもっと、詳しく報告したい事があった。 西本浜路
- 新しい班の人々と知り合い、色々な事を勉強できて、有意義な1年でした。 吉野誠次
- またたく間に月日が過ぎ、伝習所まつりがやって来る。みな素晴らしいテーマだと思う。 石橋久美子
- 永見伝三郎を通して明治期の長崎の様子が少し見えました。 北川るみ子
- 今回の塾で歴史とは「過去と現在を継ぐ道しるべ」を再確認しました。 松澤君代
- 楽しかった。日田の研修旅行 栗原眞高
- 長崎の洋画家を探すのに苦労しました。本当にくたびれた感じです。 細川敏明
- 一年間、お世話になりました。 川口政行
- 金井俊行氏の墓参に行きました。とても感激をいただきました。そこから始めました。 藤丸清子
- 夜学校を創立し、道路を作り下水も改良したあらゆる公共事業にも手を付ける。 長門ヤス子
- 長崎で活躍した方々を調査して大変勉強になりました。楽しい塾でした。 若杉昭子
- 資料集めなど貴重な経験をしました。冊子が楽しみです。歴史の勉強が大好きになりました。 猿渡一美
- 昨年に続き今年度も、明治大正長特事情望で長崎学の人々を少しだけでも理解出来た。 平山次男
- 伝習所塾において、学べば学ぶほど深みを増す長崎の歴史 福田哲也
- 郷土の先人の偉業を自分で調査し、改めてその業績を認識できた。 山口篤史
- 夫人達の足跡を調査していく、その偉業に驚きと尊敬を憶えました。 原口和代
- 自らの学習の成果が文章になることは、おもがゆくもあるが嬉しくもある。 日宇孝良
- 歴史に疎い私ですが、塾に参加させて頂いて、楽しく学ぶことが出来ました。 北浦由美子
- 薄命の天才歌人中村三郎を知ったのは、本当に良かった。清らかで優しく何回も読み返 三丸正紀
しています。

孫文・梅屋庄吉と明治大正長崎事情塾

塾長	村崎 春樹				
1	石橋 久美子	21	平山 次男	41	
2	今道 穎治	22	深川 文子	42	
3	梶山 定子	23	福田 哲也	43	
4	川口 政行	24	藤丸 清子	44	
5	北浦 由美子	25	細川 敏明	45	
6	北川 るみ子	26	松澤 君代	46	
7	栗原 眞高	27	三丸 正紀	47	
8	小嶺 昭典	28	宮田 一美	48	
9	坂本 紘一	29	八木 久雄	49	
10	桜井 蓉子	30	山口 篤史	50	
11	猿渡 一美	31	吉野 誠次	51	
12	白地 成州	32	若杉 昭子	52	
13	常川 和宏	33		53	
14	中島 吉盛	34		54	
15	長門 ヤス子	35		55	
16	中村 麗子	36		56	
17	新名 規明	37		57	
18	西本 浜路	38		58	
19	原口 和代	39		59	
20	日宇 孝良	40		事務局員	観光政策課 諸江美智子

ながさきで物語をつくろう塾



イラスト 林田 志帆



塾長 重野 裕美

■ 塾長コメント ■

2012年春「ながさきで物語をつくろう塾」がスタートしました。このテーマでどのような塾生が集まるだろうか、どのようなものが生まれるかな、と思いをめぐらせながら、第1回目の塾は6月に、はじまりました。

はじめての塾では、事前に、物語塾のアドバイザーである九州大学大学院特任教授の目黒実先生から、塾生へ「自分の好きな漢字一文字を使って自己紹介をすること。」というテーマが与えられていました。

集まった塾生たちは、ホワイトボードに漢字一文字をかいて、エピソードを交えながら自己紹介をしました。そのお話のおもしろいこと！短い時間で語られる中に、大笑いするようなエピソードがあったり、ちょっと考えさせたり。その内容の濃さに本当に驚きました。このメンバーだったら、ユニークな物語がうまれると、その時わたしは確信しました。

それから翌春、今ここに、長崎の新しくて懐かしい物語「ふるさとのおはなし」が生まれました。この8ヶ月、人が集まり、話し合い、苦しみつつも笑いありで、物語制作に取り組む姿は、まさしくひとつの物語をみるよ

うでした。

これからは、この生まれたての物語は人から人へ声をとおし、紙をとおし、いろいろな道をたどりながら、みなさんへ手渡されていくことでしょう。そして、それは、それぞれの思いをのせて拡がっていくことと思います。

■ 塾の目的 ■

長崎の歴史は世界的にみても多様性がありその重要性はみなさんご存知の通りです。そのような中で、人々の心にそっと寄り添って生き続ける物語も、あちらこちらにあるようです。

それらを発見し、掘り起こし、今の時代に生かす、その大事なエッセンスを大人達が共有し、未来をになう子どもたちにバトンタッチすることは大切なことのように思われます。

また、それは新しい魅力的な長崎の物語をつくることへつながることにもなるでしょう。

長崎の過去と現在と未来を一望にとらえ、みなさんとオリジナルな長崎物語をつくっていきたいと思っています。

■ 塾の研究・活動内容 ■

この塾では、長崎の歴史を鑑賞するだけでなく、自分の中に長崎ワールドを拡げていき、グループの中で話し合いながら、長崎をテーマにした物語を創作する活動を行いました。

塾生は、和華蘭町歩きとして山口広助氏を案内人として町歩きをしたり、資料等を調べながら長崎再発見を行いました。

また、年に数回、目黒実氏を講師としてお迎えし、物語授業を行いました。また、11月に市民へ物語の朗読と講演会を開催しました。

ここで、目黒先生をご紹介します。先生は、日本初のチルドレンズミュージアムを福島県で

プロデュースし、その後、兵庫県篠山市で廃校になった中学校を、故河合隼雄氏とともに、チルドレンズミュージアムとして再生しました。

また、沖縄県では、老朽化した「こどもの国・動物園」を、未来系の動物園と、ワンダーミュージアムとして再生しています。またグッドデザイン賞や知的資源イニシアティブ優秀賞を受賞した「旅する絵本カーニバル」「子どもとともにデザイン展」、「宮沢賢治展」「本の本展一本を愛する本の物語」を全国各地の美術館や文化施設、子ども病院などでプロデュースしています。

塾の活動としては、月1回、塾生が集まり、グループで物語を作り上げていきました。グループは、3つあり、遊び班、建物班、祭り・行事班にわかれています。各班、物語をつくるアイデアを出す最初の段階が一番楽しかったようです。様々な、ときには奇想天外なアイデアが飛び出し、大いに盛り上がりました。

その後、さらに深く資料を調べるなかで、それぞれに新しい発見があり、物語のイメージを膨らましていきました。その過程の中で物語にでてくる登場人物？のキャラクターが生まれた班もありました。

完成形として物語をまとめていく最終段階が、どの班も一番の苦勞がありました。もしかしたら、ひとりで、創作する方が楽な面もあったかもしれません。しかし長きにわたってメンバーとともに時間をかけて作りあげたからこそ、かけがえのない物語がうまれたのではないかと思います。

これを今後どのようにして、伝えていこうか、塾生の夢がひろがっています。



■ 塾活動の成果 ■

物語は、子どもたちも読める内容ということで作りました。グループでつくった3つの物語をまとめて1冊の本にしています。この本を図書館や学校、この本が似合う場所などに置いたり、配布して、多くの市民の方に読んでいただきたいと思います。伝習所まつりでは、この本の読み語りをしました。子どもだけでなく、大人の人たちも耳を傾けてくださいました。

また、2012年11月に市民向け物語講座「時空を超えて東北を旅する」—宮沢賢治を出立(しゅったつ)として—を物語塾主催により、長崎市立図書館で開催しました。目黒先生の講演と高月晶子さんの朗読は、参加者に好評でした。

ながさきで物語をつくろう塾 活動記録

日 時	場 所	内 容
平成 24 年		
5 月 9 日(水)	メルカつきまち 5 階ホール	長崎伝習所「塾」開所式、第 1 回 塾会議
6 月 9 日(土)	ランタナ会議室	第 1 回 物語塾 自己紹介 目黒先生のお話
7 月 2 日(月)	長崎市立図書館 会議室	取り組むテーマとメンバーの決定
7 月 15 日(日)	東山手から丸山 町歩き	テーマの素材探しのための町歩き 山口広助氏案内
8 月 6 日(月)	長崎市立図書館 会議室	グループに分かれて、物語作り
9 月 3 日(月)	長崎市立図書館 会議室	グループに分かれて、物語作り
10 月 8 日(月)	長崎市立図書館 会議室	グループに分かれて、物語作り
11 月 5 日(月)	長崎市立図書館 会議室	グループに分かれて、物語作り
11 月 17 日(土)	長崎市立図書館	目黒実氏講演会主催
12 月 3 日(月)	長崎市立図書館 会議室	グループに分かれて、物語作り
平成 25 年		
1 月 7 日(月)	長崎市立図書館 会議室	グループに分かれて、物語作り
2 月 4 日(月)	長崎市立図書館 会議室	物語作りの校正 伝習所まつりについて
3 月 4 日(月)	長崎市立図書館 会議室	伝習所まつりについて
3 月 20 日 (水・祝)	ベルナード観光通り	長崎伝習所まつり 調査内容パネルの展示、読み語りを実施

物語制作

月に一度の塾で、塾生はグループごとに話し合いながら、物語をつくっていきました。長崎をテーマにしているため、創作物語とはいうものの資料などを調べたりしながら、物語の世界を拓げていきました。そのうち、目黒実先生に最初と後半の2回、物語についてのレクチャーをしていただきました。最初は物語をつくるにあたってのお話、そして後半は塾生が実際に作った物語をみてもらい、実質的なアドバイスなどをいただきました。

そして、「ふるさとのおはなし」として一冊の本にまとめました。



それでは、各班がつくった物語のあらすじをご紹介します。

遊び班「中島川のおそびんぼ太郎」

ある夏の日、ミナト（7歳）とミサキ（5歳）が、中島川沿いを歩いているときに見つけたポップンにさわると、中島川に棲（す）む河童のおそびんぼ太郎が突然現われました。太郎は花火と奇妙な呪文で次々に愉快的妖怪を呼び出しました。妖怪達はむかしから長崎

に伝わる遊びを2人に教え、一緒に楽しく遊びました。妖怪ときもどしがよみがえらせた今は亡きおじいちゃんとおばあちゃんも、初めて2人と一緒に遊ぶことができたのです。そして、ミナトとミサキの不思議で楽しい時間はあっという間に過ぎていきました。やがて、おじいちゃんとおばあちゃんや妖怪達とのお別れの時間がやってきたのです……。



あそびんぼ太郎

行事・まつり班「モモちゃんと精霊船」

初夏の風の中、楠の森神社で小さな女の子が、泣いています。その子の名前は、モモちゃん。「天国のお母さんに会いたい」そういうモモちゃんに、クスノキの上にいる、一羽のカラスがいます。「精霊船を作れば、お母さんに会わせてやるよ。」なんとそのカラスは、楠の森神社に住む天狗の使いだったのです。幼い兄妹が、長崎のあたたかな大人たちに見守られながら、はじめて作る精霊船。苦勞して完成したその船にのって、二人はカラス天狗とともに、お母さんのいる場所へ飛び立ちます。

生と死をテーマにしながらも、希望ある未来へ、たくましく育つ子どもたちの物語です。

建物班「心田庵の長崎物語」

三百年前に建てられた心田庵が語り手となり、今も長崎に残る出島、小島養生所、本河内高部水源地、旧長崎英国領事館、旧香港上海銀行長崎支店、日本二十六聖人記念聖堂、軍艦島（端島）、長崎市立城山小学校の成り立ちや歴史を長崎弁で紹介します。いずれも長崎だけではなく、日本の歴史に大きな影響を与えた建造物や施設。長崎の町を大切にする大人になって欲しいという、心田庵おじいちゃんの願いを込めたお話です。

和華蘭 まちあるき

7月15日、山口広助さんの案内のもと、2時間の和華蘭まちあるきをしました。夏の陽射しの中、集まった塾生は、石橋電停を出発し、南山手、東山手、唐人屋敷跡、大徳寺、丸山などを広助さんの深くておもしろいお話を聞きながら、物語の素材を発見するべく、見て歩きました。

知っているようでいて、まだまだ知らない長崎の話に長崎の歴史の深さと不思議さ、おもしろさを感じました。この町歩きは、各グループの物語の中に、生かされることになりました。



目黒実先生講演会



11月17日 長崎市立図書館 新興善モリアルホールにて、「時空を超えて東北を旅する—賢治の言葉を出立として—」というタイトルで、市民向けに目黒実先生の講演会をおこないました。

目黒先生は、タイトルにそった100冊の本を福岡から、もってこられました。塾生は、本を見やすいように、会場に展示しました。そして、それらを背景に講演会はフリーアナウンサーの高月晶子さんの朗読から、始まりました。

東北の作家を中心に物語の講演会はすすめられました。物語の背景や作者についてのお話や宮沢賢治のグスコブドリの伝記にでてくる「潮汐発電」が今どこで活かされているか、また、松尾芭蕉は「奥の細道」の次は長崎への「西の細道」の構想があったことなど、興味深いお話が次々とでてきて、参加者は、そのお話を引き込まれていきました。お話は、3.11以降、私たちが考えていかなければならない途方もない課題について、もしかしたら、物語の扉を開くと、そこで何か大切なことを教えてくれるのではないかと感じさせるものでもありました。また、参加者の方々

からも講演会について、満足されたとの感想を多くいただきました。

会が終わったあとも、参加者は会場にある100冊の中から、思い思いに本を手にとり、読んでいました。また、参加者と目黒先生が、談笑するなど和やかな雰囲気にも包まれた会となりました。

塾生の感想

毎回楽しく物語づくりができました。遊び班は互いにアイデアを出し合い、自由な発想でストーリーを考えることができました。要望は、運営委員会の皆様にも一緒に塾活動に参加してもらいたいです。(小川内 清孝)

長崎を舞台とする物語が毎月少しずつ完成に近づいて行く過程は胸躍るものであり、メンバーもバイタリティ溢れる方ばかりでしたので、非常に刺激的な塾活動を送ることができた有意義な一年になりました。(平 浩介)

はじめは何をどうしたらいいのか分からないことだらけでしたが、皆でアイデアを出し合ううちにお話ができ行きました。キャラクターの姿も考えたので、これからどんな風に発展していくのか、次年度の活動を楽しみにしています。(林田 志帆)

長崎の新しい物語を創作するという試みに勇んで参加表明したものの、多忙のため最後はほとんど欠席という悲しい結末になりました。でも、ストーリー作りの楽しさは満喫でき、ワクワクな数ヶ月でした。

目的自体は非常に意義あるものだったと思います。ただ、共通認識の緩さなどが徐々に表面化し、最終的には一部の塾生だけに、負担がかかっていたように感じています。これは自戒も込めた意見です。スタート時、塾生同士の意思の疎通をもっとはかり、目的に向かう姿勢を明確にすべきだったと思います。(林 すみこ)

！

時空を超えて！ ！ 東北を旅する！

—賢治の言葉を出立として—

目黒 実 講演会

九州大学大学院特任教授

！

2012年11月17日(土)
15時～17時

長崎市立図書館 新興善メモリアルホール
定員 70名(先着順、申込不要)/入場無料
会場には、スリッパをご用意しています。



目黒 実氏！
日本初のチルドレンズ・ミュージアムを福島、兵庫、沖縄でプロデュース。東京で演劇、出版、建築、ミュージアムなど各分野で活躍後、九州大学大学院特任教授に就任。子どもに繋がる人たちの人材育成を行っている。！



高月 晶子氏
長崎放送でアナウンサーとして勤務のあと、フリーランスとして活躍中。目黒教授との朗読会、東北支援の「時空を超えて東北を旅する」などの活動を行っている。

主催 長崎市伝習塾「ながさきで物語をつくらう塾」
後援 長崎市教育委員会
お問合せ先 095-861-0004 代表 重野裕美

4人で書いた物語は、それぞれの人生と経験が交差しているように思います。書くことで、自分のこれまでを振り返り、それを表現することで、過ぎ去った日常を、生きてきたと実感することができます。(大串 眞貴子)

毎回楽しく物語づくりができました。遊び班は互いにアイデアを出し合い、自由な発想でストーリーを考えることができました。

ながさきで物語をつくる！楽しそうとすぐに申し込みをしました。入ってみると、すでにシナリオライターの方やライターで活躍している方々ばかりで、結局、奇跡の物語ができあがっていくわけですが、その過程がいい体験となりました。とくに九大の目黒先生にお会いできたことは本当によかったです。先生のアドバイスをすることで、物語はよりすばらしいものとなり、将来、子どもたちに読んでもらえるという希望も生まれ、がんばることができました。

班に分かれて3つの物語を作成したわけですが、私は、長崎の建物をテーマにした班になりました。これまで、あまり注目したことがなかった建物を新たな視点で見ることができて、新しい発見がありました。これは、冊子を読む子どもたちにも同様の感動を与えることができると信じています。

そして、建物に込められたその時代時代の長崎に生きた人々の思いを、その建物の前に立ったときに、少しでも感じることがあれば嬉しいなと思います。そして、すぐに壊そうとする力を持った人が現れたら、正しい判断でその建物を守ってくれるよう、思いを託したというのが正直なところですよ。

仕事を抱えながら、塾で学んだことを形にしていくことは、楽しかったとはいえ、責任

も感じる大変な作業となりました。また、ひとつの物語を4人で創る共同作業は、想像以上に時間のかかるものとなりました。

それゆえに、冊子を手にとることができたときにはきっと喜びも一入（ひとしお）となることでしょう。このような機会を与えてくれて伝習所、塾長に感謝しています。ありがとうございました。(荒木 智佳子)

—昨年、遠く関東から「長崎のことが知りたくて引っ越してきてしまった」という歴史好きの女性と仕事を通して知り合いました。長崎に来る前から長崎のことをたくさん調べていた彼女。いつか長崎が舞台の物語を作りたいと言っていたので、「ながさきで物語をつくろう塾」のことを知ってすぐに紹介。「面白そう」と彼女は予想どおり飛びつきました。

紹介だけしてじゃあどうぞではあまりにそっけないと思い、自分も参加することに。完全にお付き合い入塾です。ところがその彼女、事情があり塾開始直前に実家に帰らねばならなくなりました。残された私はさあ困った、歴史にも詳しくないし、物語のネタを温めていたわけでもないし。しかし、終わってみればびっくり仰天。わずか1年で仲間もでき、なかなか素敵な物語もできました。

月1度の塾活動、1年間で読むに耐える物語などできるのかしら？しかも、グループでの共作なんて、うまくいく？無理じゃない？と思っていたのです、実は。

でも、ほんとうにできました。長崎が主役の、長崎が舞台の物語が。そして、あちこち回って、あれこれ読んで、じっくり調べたそのおかげで、私は長崎のことがもっとずっと愛おしくなってしまったのでした。

(今里 佳重)

長崎の歴史・文化を盛り込みながら、新たな物語をつくる作業は、自分の子ども時代を思い返したり、舞台となる場所をメンバーと一緒に見に行ったり、ストーリーを話し合ったり、とてもわくわくする体験でした。

(宮野 貴代)

この塾に参加して、人生初の「ものがたり」を書きました。班のメンバーでアイデアを出し合い、図書館でテーマについて調べたりもしました。創作活動を通して、この塾に集まったちょっぴり変わった塾生の絆も強まったように感じます。ものがたりの舞台にした「松の森神社」や「桃溪橋」など素敵な場所も発見して、長崎をもっと好きになりました。

(大串美咲)

以上、このようにして、物語は紡ぎだされていきました。

「ながさきで物語をつくろう塾」この場に塾生が集まり、そして物語がうまれました。この数ヶ月には、塾生の工夫と努力、よいコミュニケーションがありました。振り返ってみると、塾は、そういった場をどのようにつくっていくかが大事なのではないかと感じています。

最後になりましたが、目黒実先生、塾生のみなさま、そしてこの場を与えてくださった長崎伝習所および支えていただきましたみなさまに深く感謝いたします。

この場から誕生した「ふるさとのおはなし」が、これからも子どもと子どもの心をもった大人たちに寄り添いながら、広がっていくことを心より願っております。



ながさきで物語をつくろう塾

塾長	重野 裕美				
1	荒木 智佳子	21		41	
2	今里 佳重	22		42	
3	大串 眞貴子	23		43	
4	大串 美咲	24		44	
5	小川内 清孝	25		45	
6	喜多 實規男	26		46	
7	小武家 雄康	27		47	
8	菅生 貴繁	28		48	
9	平 浩介	29		49	
10	田中 尚	30		50	
11	林 すみこ	31		51	
12	林田 志帆	32		52	
13	宮野 貴代	33		53	
14	山口 雅也	34		54	
15		35		55	
16		36		56	
17		37		57	
18		38		58	
19		39		59	
20		40		事務局員	文化振興課 廣田 由貴

東京 出島塾





塾長 大瀬良 亮

■ 塾長コメント ■

●東京→長崎の観点で

住んでいた頃には気づかなかったけれども、どうやら長崎という街の魅力は国内有数であって、誇りに値すべき故郷“らしい”。東京に住み始めてみてわかった、長崎というまちが持っている特異性。美味しい食。豊かな自然。無二の歴史。そして何より温かな人柄。どの街もおなじことを魅力として謳うけれど、長崎のそれらはどうやら本当に、本当にスペシャルな財産なようなのである。(と、周りの他県民がいうから、どうやらそうらしい。)

果たして長崎に住んでいて、私たちはそれらに気づけただろうか？

長崎という街が、国内どの街にも負けないポテンシャルを持っていながら、故郷に戻ると、街の明るい未来を描いている市民はどのくらいいるだろうか。

なんだかそこに「もったいない」を感じてしかたがなかった。

どうやら明るい未来をいくらでも描けるはずなのに、そうでない未来ばかりに嘆いている。

■ 塾の目的 ■

私たち「東京出島塾」は、左記の「もったいない」が原動力である。「外から見た長崎」のどこがすばらしく、どこが活かしきれていないのか。長崎の「もったいない」を暴きだし、長崎市民に還元するグループである。そこから得られるたくさんのヒントを伝えることとした。

長崎の街は、常に街の外からの刺激によって賑わってきた。きっと我々の東京からのメッセージが、街への刺激につながると願って。

■ 塾の研究・活動内容 ■

私たちは、東京にいるからこそ呼びできる講師陣を4名厳選し、長崎の「もったいない」を学ぶとともに、旅行商品を企画するなどした。

①長崎の「夜景」 2012年7月21日

夜景プロデューサーの丸々もとお氏による講演

②長崎の「商店街」 2012年9月29日

地域課題をコンサルティングする木下斉(ひとし)氏による講演

③「観光学」 2012年11月14日

長崎さるく博をプロデュースした茶谷幸治氏による講演

④「PR学」 2013年1月12日

PR会社を運営する、山名清隆氏による講演

OHISとの旅行パッケージ商品化

※各事項等詳細は後述

■ 塾活動の成果 ■

学びの成果を、多くの長崎市民に伝えるために。

当初、パンフレットのようなものを作るつもりでいたが、東京出島塾は少し変わった方法で、在長崎市民にお伝えできればと企画検討し、長崎新聞社に依頼をして「長崎未来新聞」を制作することにした。

我々の報告書は、2013年3月20日の長崎新聞の紙面である。この日、紙面を開くと、我々が「こうなったら長崎の未来は楽しい」ということを記事化し、まるで2030年3月20日の長崎新聞の紙面を読むような気持ちで、我々の提案を読めるというものだ。

「長崎伝習所まつり」の当日、浜んまち商店街のブースに来なくても、全県民が我々の提案を読むことができるもので、過去の事実を追う新聞という媒体が、未来の記事を掲載するのである。ブースで紙面を配ること。ブースに来ない人が紙面を読んで、伝習所での成果を感じてもらおうこと、それらは斬新なアイデアだったと、伝習所の担当者は語られていた。

○「在京長崎人」の役割

著名人からの学びを基に。そして長崎への郷土愛を基に。

来年も東京出島塾は続けて行きたい。ただ、学ぶだけではなく、アクションを起こし、形にしていくことが、来年の目標である。

後述する木下氏の講演にあったが、地元を活性化する起爆剤となるのは、地元に住んでいない我々であるという自覚とともに、とはいえ、我々だけでは、長崎は明るくならない。地元に住まう長崎市民と、我々が一緒に長崎を盛り上げていくことで、世界は改めて長崎

の街の魅力を見いだしていくことと信じている。

来年以降も、今年以上に長崎に住まうより多くの方々が、我々在京長崎人と共に、一緒に長崎の明るい未来に向けて議論が活性化できればと思っている。

長崎未来新聞 企画趣旨

長崎。マチが生まれてからずっと、ソトの文化を受け入れ続けてきたマチだなど。しかもかなり柔軟に。言い換えれば、ソトからの刺激があってこそ長崎は元気になると言ってもいいかも。私たち東京出島塾は東京在住の在京長崎人です。つまり[ソトのヒト]。私たちが日々東京で感じる[ソトから見た長崎]をふるさとの還元していくことで、長崎が少し元気になるきっかけになるかもしれないなど。こうしてこの東京出島塾は生まれました。

1年を通して長崎の夜景プロデューサーや浜の町商店街活性化プロデューサー、「長崎さるく」のプロデューサーなど、長崎を元気にしてくれている[ソトの方]のお話を伺いましたが、出てくる出てくる長崎の魅力と課題。学んだことはいずれ発行される報告書でご報告しますが、この伝習所まつりでは、そこで学んだ内容を活かしながら長崎の未来について考える場をつくらうと思いました。それがこの「長崎未来新聞プロジェクト」です。約20年後の長崎の未来を考え、それを記事にしました。

ちょっぴり笑える、明るい未来。日々の新聞に掲載されている記事は決して明るいものばかりではないけれど、長崎未来新聞には少し明るい長崎の未来記事が満載です。荒唐無稽だとお叱りのお言葉をいただくことも覚悟したうえで、それでもまずは、でっかくて、たのしい未来を描くことから始めることが大切。政治家にお任せじゃなくて、一人一人が未来を描くチャンスがあってもいいのではと思っています。あなたが描く、明るい長崎の未来は、どんな未来ですか。 [ソトの長崎人] 東京出島塾一同



東京出島塾 活動記録

日 時	場 所	内 容
平成 24 年		
6 月 16 日(土)	日比谷図書文化館 セミナールーム	長崎伝習所「塾」開所式、第 1 回 塾会議
7 月 21 日(土)	国立オリンピック記念 青少年総合センター	・丸々もとお氏講演 テーマ「滞在型観光促進のための「長崎ノ夜景」 ・塾生によるグループワーク
9 月 29 日(土)	八丁堀区民館	・木下斉氏講演 テーマ「まちづくりの破壊的イノベーション」 ・高橋孝次氏講演 テーマ「包括決済事業を核にエリアマネジメント」 ・塾生によるグループワーク
11 月 10 日(土)	目黒区男女平等参画センター 会議室	・茶谷幸治氏講演 テーマ「さるく博からみる観光の新しい形」
12 月 16 日(日)	日本橋公会堂集会室	・H I S との旅行企画検討 ・塾のまとめの方向性話し合い
平成 25 年		
1 月 11 日(金)		・H I S との共同企画旅行プレスリリース
1 月 12 日(土)	日比谷図書館文化館 セミナールーム	・山名清隆氏講演 テーマ「おもしろいことはどうやって生まれるか」 ・塾生によるグループワーク
2 月 10 日(日)	日本橋公会堂集会室	未来新聞記事作成
2 月 17 日(日)	日本橋公会堂集会室	未来新聞記事作成
3 月 3 日(日)	久松区民館集会室	未来新聞記事作成
3 月 10 日(日)	日本橋公会堂集会室	未来新聞記事作成
3 月 20 日 (水・祝)	ベルナード観光通り	長崎伝習所まつり(未来新聞記事掲載日) 未来新聞配布

塾の活動内容について

①長崎の「夜景」 2012年7月21日

夜景プロデューサーの丸々もお氏をお呼びして講演とワークショップを行った。長崎の夜景は、当時から日本三大夜景と言われ、神戸、函館と並んで美しいと言われていたにも関わらず、その現実たるや、大変まずいことになっていた。真っ暗で人気がなく、行っても夜景を見る以外のエンターテイメントがなく、街灯には蛾が舞い、トイレは、臭い。これが全国有数の夜景スポットの現状だった。

市民からは「稲佐山の夜景を見たカップルは別れる」といった都市伝説まで拡がるほど、避けられていた場所。そこに、丸々氏は「長崎ノ夜景」と称してブランド化に取り組み、ハード面、ソフト面から長崎の夜景の魅力再開発に取り組んでおられることを知った。

その最たる結果が「長崎、世界新世界三大夜景に選ばれる」というニュース作りだ。丸々氏が毎年開催していた「夜景サミット」で上記を宣言。あれよあれよと言う間にそのニュースは全国に拡がり、今、長崎の夜景を見るために観光客が増加傾向にあるという。その仕掛人である丸々氏からは「夜景は合わせ鏡」という言葉をいただいた。気づかぬうちに、さびが着いていた長崎の財産を夜景の力で蘇らせた外の力を我々は最初の講師から深く学んだのである。講演から数ヶ月あまりでのこの発表。東京出島塾は、大ニュースの直前に話を聞いて塾生一同満足の行く第1回となった。



丸々もおさんから「夜景は合わせ鏡」という言葉を頂きました！

②長崎の「商店街」 2012年9月29日

地域課題をコンサルティングする木下斉(ひとし)氏に講演をお願いした。木下氏は、長崎市浜んまち商店街はじめ、全国の商店街の活性化を支援している。

開口一番「地元の人でまちの活性化を考えるのは限界がある。現状、商店街の衰退を招いているのは、地元の人たちだけで議論をしていることに原因の一つがある」と語った。

メンバーチェンジによる、地元民が気づかない資源を活かすこと、街を面白くするためのアイデアは民間から出していくこと、そのアイデアは全国の地域と共有することが大切とし、外にいる地域の力、地元から東京や海外に出て活躍する優秀な人材を活かすことの重要性を語った。

また、景気全体に元気が無くなっているからといって、商店街のいち店舗が同じく元気がなくなるとは限らない、と可能性を示唆。アイディア次第で街のリノベーションは可能とし、いくつかの成功事例をご紹介いただいた。

あわせて、一緒に浜んまち商店街の活性化を進める地元代表として、高橋呉服店取締役の高橋孝次氏もわざわざ長崎から上京。木下

氏のコンサルティングによって生まれた、浜んまちの決済事業モデルの改善策で、10年間で累計1億円以上のコスト削減を達成したことをご紹介いただいた。

昨今の日中関係に寒風が吹きすさぶ中でも、長崎市にとって中国人、或いは韓国人といった海外観光客からの外貨獲得が、未来の商店街を支える大きなチャンスであることを指摘され、我々出島塾生も、話を伺って考えた商店街活性化アイデアで100本ノックを行って提案を出し合った。



商店街活性化アイデア 100本ノック！

③「観光学」 2012年11月14日

長崎さるく博をプロデュースした茶谷幸治氏をお招きし、長崎市の観光プロモーションについて、講演をいただいた。13時半から開始して、講演が終了したのは17時。3時間半にもおよんだにも関わらず、終始ディスカッションに盛り上がった1日となった。

2004年当時、長崎旅博覧会が終了してから、国内観光客は628万人から493万人に落ち込み、右肩下がりだった観光産業に終止符を打ちたいと動き出した長崎市。何をすればいいのか？と特別な委員会を設置し、その調整役として動き回っていたのが、現・長崎市長の田上氏であったそうだ。田上市長から茶谷氏にお声掛けがあり、そこで茶谷氏が長崎市を回って気づいたことがあったという。

当時、長崎旅博が終わった長崎市では、その疲弊感にさいなまれつつも、再度博覧会を検討していたという。人口30~40万の市に、パビリオンはその予算規模からも捻出が難しい。茶谷氏は、「長崎という街そのものが、パビリオン以上の価値がある。街を回遊してもらって導線づくりを作ることからはじめてみては」そう提案して始まったのが、さるく博である。

当時の長崎の観光業態は、旅行代理店がバスツアーを組み、ちゃんぽんを食べて、周辺を歩いたら慌ててバスに乗り、ハウステンボスへ向かう・・・全く地元にお金のない仕組みがそこにはあった。「まちを回遊させる博覧会」という茶谷氏の提案は、当時の長崎からすると、非常に新鮮なアイデアでインパクトがあったようだ。そもそも、街を歩く・・・というのは、観光にとって当たり前である。

当たり前のことを、博覧会と言ってみることに、外から来た茶谷氏だからこそその提案だ

ったというしかない。しかも、茶谷氏は、外からの提案だけでなく、長崎市民を巻き込んだ深いところまでプロデュースを行った。市民に無料でプロデューサーになってとお願いをし、人がきたときに籠踊りを披露してもらう等、細かなところまで、博覧会の企画にこだわっていった。

少しずつさるく博は拡がりを見せ、今や「台風の日でも、長崎を訪れてくれた人がいるんだから、ガイドやるよ」と言ってくれるガイドが出てくるほど、長崎定番の観光法となっているという茶谷さん。

今、長崎さるくの成功を受け、全国が、長崎に続けと学んでは採用しているそうだが、長崎のように成功するのは稀らしい。何より地元の人たちが動くことが大切と強調する茶谷さんのお話を聞きながら、長崎人の長崎愛を東京で存分に感じる事ができた熟成は、長崎市への誇りを強く持ち直したようだった。

④「PR学」 2013年1月12日

PR会社を経営する、山名氏をお呼びして講演を行った。これまで3人とは異なり、唯一長崎に携わってない方であったが、東京で、面白い企画をプロデュースする方の頭の中を塾生に感じてもらいたいとの意図があった。

塾生になじみのない山名さんを紹介する前には、少し心配もあったが、終わってみれば、塾生みんなが幸せな顔をしていて、本当に山名さんのパワーに改めて心を奪われた1日だった。なぜか。

山名氏の企画には全て「愛」があった。

山名氏の最も有名な企画のひとつに「キャベツ畑の中心で妻に愛を叫ぶ」がある。

地元の人にも「キャベツ畑以外何もない」と言われた婦恋村を訪れた山名氏は、その地

に眠る悲しい恋話に大変興味を持ったという。特に仕事にするわけではなく「おもしろそう」との興味で、広大なキャベツ畑で愛を叫んでみよう・・・そんな軽い気持ちから生まれた企画が、今や全国規模になり、全国各地でも同様の企画が実施されるまでに至っている。

(長崎県内でも、愛野で”ジャガイモ畑の中心で愛を叫ぶ”の企画が実施されている)

山名氏の原動力は、妻への愛である。「最も身近な赤の他人を愛してみると、人生はとても楽しくなってくる」という山名氏の言葉に、既婚の塾生は胸をいためた。山名氏の提唱する「テミル原則」をここで紹介したい。

愛妻家テミル原則

- ① やってテミル、妻が喜ぶ家事ひとつ
- ② 出しテミル、気づいたときの感謝の言葉
- ③ 聞いテミル、世間話と今日の出来事
- ④ 捨てテミル、見栄・テレ・建前・世間体
- ⑤ なってテミル、恋した頃の触れ合う気持ち
・・・塾生同様、心当たりのある男性諸君も少なくないのではないか。

山名夫妻は、アイデアの出し方について「余裕が必要」と語った。楽しむ余裕、巻き込む余裕。そして、目の前の目的ではなく、世のため、人のため、と大きくアイデアを膨らましてみる余裕があるとき、

アイデアは多くの人に共有され、盛り上がっていく。

目の前の予算やハードル、時間など、物理的なものだけを見るのではなく、

一度そういったハードルを抜いた、楽しいことを考える余裕が、

世の中を動かすアイデアにつながる第一歩になるのである。

山名夫妻の愛のある関係。PRプランナーというより、愛の伝道師といっても過言ではな

い、山名氏の講演は、終了後に山名夫妻が去った後も、教室中の空気が愛に包まれ、幸せな空間になっていた。



講演後レポートをまとめ、フェイスブックのグループで共有した。

OH. I. Sとの旅行パッケージ商品化

上記4名の素晴らしい講演とワークショップを終えた頃、H.I.Sから連絡があった。

「長崎県民が作った商品を企画したい」。

この話は是非東京出島塾で議論したいと想い、予定外ではあったが、H.I.S×東京出島塾による商品企画会議を設けた。これまで長崎について学んだこと、共有したことを活かしながら、H.I.Sさんと議論を深めた。

東京出島塾は長崎市による研究事業であるから、長崎市のプロモーションを考えるべきかとも議論になったが、さるく博の熟成度を聞いた我々からは、どうしても東京の我々が作る必要性が見いだせなかった。

それよりも、今東京の人たちからよく耳にするにも関わらず、まだまだ手つかずの場所があった。それが五島列島である。間もなく世界遺産にならんとする教会群が多数ある五島列島。日本有数の美しい海を始め、たぐいまれな豊かな自然、遣隋使の時代から海外と

の交易があったことが残るその歴史。海の幸が豊かで、椿油で美容に関心がある女性向けコンテンツもある。昨今有名雑誌にも紹介されることが増えるなど、まるで秘境のような価値が見いだされ始めているのが五島だった。

我々は、五島列島の商品プランを作ることとし、H.I.Sもそれに合意。

H.I.S×東京出島塾における、五島列島の商品プランができあがった。2013年1月11日、プレスリリースを行った。今後も、H.I.Sと共同で五島列島プランをプロモートしていく予定となっている。



〇3月20日、長崎県内で話題になった 「長崎未来新聞」への発行へ

学びの成果を、多くの長崎市民に伝えるために。

当初、パンフレットのようなものを作るつもりでいたが、東京出島塾は少し変わった方法で、在長崎市民にお伝えできればと企画検討し、長崎新聞社に依頼をして「長崎未来新聞」を制作することにした。

我々の報告書は、2013年3月20日の長崎新聞の紙面である。この日、紙面を開くと、我々が「こうなったら長崎の未来は楽しい」ということを記事化し、まるで2030年3月20日の長崎新聞の紙面を読むような気持ちで、我々の提案を読めるというものだ。「長崎伝習所まつり」の当日、浜んまち商店街のブースに来なくても、全県民が我々の提案を読むことができるもので、過去の事実を追う新聞という媒体が、未来の記事を掲載するのである。ブースで紙面を配ること。

3月20日当日、伝習所まつりでの冒頭市長の挨拶がはじまるやいなや「今日の新聞見ましたか?」。田上市長は「長崎伝習所は、夢を描くところ。まさにこの新聞はそれを表現した」と絶賛。

過去にない事例に、市長はじめ、多くの市民の方がこの長崎未来新聞に関心を持っていただき、様々なコメントをいただいた。「本当の記事かと思った」「本当に未来新聞の記事が現実になったらいい」「子どもたちにも未来の長崎を描いてもらいたい」など、長崎の未来を描く楽しさを感じてもらえた。

東京からの目線で、長崎を見ると少し違った形で表現ができる。それが我々在京長崎人の強みだ。

来年からも引き続きその強みを忘れず長崎の未来を描ける活動が続けて行きたいと思っている。



長崎未来新聞を手に開会挨拶をする田上市長



大瀬良塾長から長崎未来新聞を
田上市長へ渡し成果報告を行った。



長崎未来新聞

発行所
長崎未来新聞社

3月20日(水)
(2030年3月20日)

長崎弁が世界標準語に

世界をつなぐ優しい言葉

2030年1月1日より、ついに世界の標準語が「長崎弁」に制定された。これにより、世界各国の文字に新たに「長崎弁」の科目が導入され、幼稚園や小学校でも長崎弁の授業が取り入れられるようになった。ネイティブ長崎弁母語の国には感謝し、多くの長崎市民が世界各国に標準



書店で平積みされているシカモン辞典

している。今年始めから「シカモン」は、はよーけん、やばーしやべりきー。すこかはいーど、毎日若者達との交流を通して、長崎弁特有のコミュニケーション方法を伝えている。特に、長崎弁のインターネット上の難しさは、苦勞する者が多いと言つ。長崎弁は、抑揚が少なく平たい発音になる場合も多い。リスニングの際にも、「はし(著)ー(平坦な発音)と、「はし(種)ー(し、)を強く発音)で意味を取り違えてしまう。世界中の幼稚園では、長崎弁が世界の中に拡がったきっかけである、あの歌が今も聞こえてくる。「エイ、ヒト、シ、タイ、イ、エ、フ、ア、ア、ア」の歌にのせて、「oi (おい)、wai (わい)、soi (そい)、doi (どい)、koi (こい)、ai (あい)」というシカモン辞典。子供達は、自分

と友達を指差しながら笑顔をこぼす。長崎弁の魅力は、なんといっても言葉の持つ「温かさ」。世代を超え、国境を越えて、今日も、「おんじょこと」と「おんじょこと」とコミュニケーションの輪が広まってきた。市内の出版社では、今年に入ってから、世界各年に「長崎シカモン辞典」の注文が殺到し、理に追いついていない。また、大手企業は新たに、「長崎標準タイム」を導入。8時30分の始業時間に1時間遅れての到着が可能だ。これにより、多くの人達に心のゆとりが生まれ、家族との時間を大事にする人達が急増している。「長崎弁」の世界標準語化により、長崎人の生活スタイルが世界標準化されることで、人々の暮らしに小さな「平和」が増えたいきそだ。

ちゃんぽん人気 寿司に落ちる

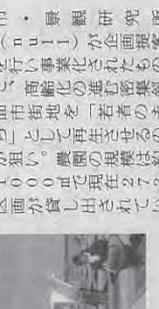
経済産業省観光庁によると、外国人を初客とした「ちゃんぽん日本橋本店」は、今年1月の売上高が前年同月比1.2倍に伸びた。観光庁によると、今年1月の訪日外国人観光客数は前年同月比1.1倍に伸びた。観光庁によると、今年1月の訪日外国人観光客数は前年同月比1.1倍に伸びた。観光庁によると、今年1月の訪日外国人観光客数は前年同月比1.1倍に伸びた。

順位	品名	前回ランキング
1	寿司	1 (-)
2	ちゃんぽん (惣)	6 (↑)
3	焼き鳥	6 (↑)
4	カレーライス	3 (↓)
5	天ぷら	2 (↓)
6	納豆	12 (↑)
7	うどん	9 (↑)
8	お好み焼き	4 (↓)
9	焼き肉	5 (↓)
10	おむすび	7 (↓)

外国に人気な日本食ランキング (経済産業省観光庁調べ)

密集斜面市街地に「さかのうえん」誕生

長崎市斜面再生プロジェクトは、長崎市大浦地区に斜面都市型大規模住宅地「さかのうえん」をオープンした。空き家の増加や高齢化など長崎市特有の問題を多く抱える密集斜面市街地の切り札として注目されている。隣接台により隣校となった小学校跡地の土地活用について市が検討していたところ、長崎都



市・観光研究所 (観光) が企画提案を行い事業化されたもので、高齢者の多い市街地を再生する一環として注目されている。密集斜面市街地の再生は、約1000戸で現在273区画が貸し出されている。密集斜面市街地の問題は、居住取り壊されたロケットリーターが「長崎は斜面こそが魅力。斜面特有の課題を解決し、価値を創出する。効率的なまちづくりを推進して、まちを再生したい」と自信を語っている。密集斜面市街地の再生は、約1000戸で現在273区画が貸し出されている。

出島 先端研究島に

さながら日本のシリコンバレー

出島が蘇る。2030年、四方に水面を離れ、江戸時代の姿が完全に再現された出島。その地下に先端医療技術の研究開発拠点を整備し、医療関連企業の誘

手形」の入手を義務付ける。さながら江戸時代の「通行手形」。研究機関は日本国内の企業に限定し、地下の情報は厳重に管理され、四方を海で囲まれた出島は完全に閉ざされた空間となる。医療研究機関は事業所の免除や市からの補助金を受けられるほか、研究者は地上に還元されている「カトタン部屋」「ベトル部屋」、な

無償で住むことも可能。「内外クラフ」での食事の際は市から交付される出島内でしか通用しない地域通貨が利用できる。現在、入居検討中の企業は約10社。出島のオラシナ商圏にあっては、シトルが西洋医学を日本に広げたように、最先端医療の情報を求めて国内外の企業が出島に行列を作る日がくることもそう遠くはないと見られる。



さかのうえん完成イメージ

逆年金制度 施行開始

長崎は明るい未来をつくるため「逆年金制度」を採用すると発表しました。45歳以上の長崎市民が年間所得に併せて若者を支えるために支払った額を納付して集まった財源は、福祉施設の継承、商店街活性化「スマートエネパーク」普及など20のメニュー別に振り分けられ、市民の支持が多く集まった若者団体個人・法人に振り分けられます。

参加対象市民は市の公式サイトより住民

若者だって、支えてほしい。

基本合算費と同期され、自動的に徴収されることとなる。毎月逆年金徴収として口座から差引かれる。一方、逆年金徴収支払額が90%相当額を住民税から割り引かれる。たとえば毎月3,000円の方であれば年間3万円を「逆年金制度」で支え、一方、住民税から5万円控除される。実質毎月5,000円を若者への小遣いとして贈る仕組みだ。

この発表を受け、支持が広がると見込まれている。

（長崎放送）は朝日や、には若年を養育する子供たちがいるわけではなく、年に1度若い子どもたちのために若者にお金を払ってあげたい。そのためには、逆年金制度の導入に賛同。一方で若者を養育する若者の一人である、食場橋岡太（じゅむだ）さん（22歳、学生）も賛同している。長崎を盛り上げてきた世代のみなさんからの大切な投資を、長崎が受け止めてほしいと、長崎市役所逆年金制度課の勝さきは意気込んで話している。



笑顔に溢れる若者

思案橋金色街 世界へ

思案橋一帯が金色（ゴールド）街と命名されて明日で15年が経つ。金色街という名は、東京新宿のゴールデン街から来ており、同じ黄金色を表すゴールドを冠した。金色街独自の労働法や店舗の契約基準、コンシキ風（コンシキ）の取り決め、整った街並みなどが、海外にも注目を集めている。



平野風情が広がる思案橋

の劇場公開が決まった。作者の本名（佐々木）は、思案橋が金色街（ゴ）で、あか（赤）の街、この作品の題名はこの街への愛を込めた。と語った。

東内動物園に 伝説の麒麟 出没か

伝説の動物「麒麟」が、東内動物園に出現したとの情報が入った。その日、東内動物園から来た田中さんが写真に写っているように、伝説の麒麟を撮影した瞬間を捉えてくれた。正の正の瞬間を写真に残さなかった。田中さんの発見は、麒麟の存在を証明するかもしれない。



田中さんが撮影した麒麟

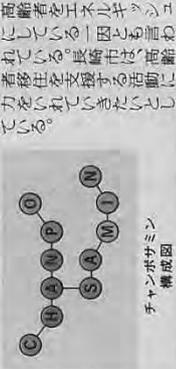
ウワサのコーナー



ハッスルする長崎の高齢者!?

と噂される長崎の高齢者。健康な高齢者が多くいることが、長崎の高齢者の特徴である。これは、長崎の文化や生活習慣によるものと考えられている。

高齢者をエネルギーにする。長崎の高齢者は、健康で活動的であることが、長崎の強みである。



長崎港免税店大繁盛

「長崎の歴史あってこそ」と 他県からうらやむ声

2008年10月9日、長崎港に大型免税ショップ「リニア」がオープンした。免税店が賑わいを見せている。他県からは羨望の目光が注がれている。

日本発「坂ブリッドカー」

トヨタ自動車は、若者の記者会見で「坂ブリッドカー」を長崎県限定で先行販売することを発表した。坂ブリッドカーとは、坂道でも走りやすい車である。

トヨタは、坂道でも走りやすい車を開発した。これは、長崎の地形や生活環境に合わせた製品である。

長崎から五島、九州（チエシヨ）島（韓国）を経由し、上海まで直通運航を行う長崎・上海リニア計画は、長崎から五島間の公算により決定した。計画の名称は「つばき」である。

長崎から五島間の公算により決定した。計画の名称は「つばき」である。これは、長崎のシンボルである。

東京出島塾

塾長	大瀬良 亮				
1	井ノ上 舞花	21	長野 光	41	
2	岩永 憲太郎	22	西川 洋志	42	
3	浦川 真	23	西村 瑞穂	43	
4	江上 隆志	24	野崎 麻子	44	
5	小川 真	25	樋口 関雄	45	
6	金澤 李紗	26	藤田 佳子	46	
7	上戸 仁平	27	松尾 智子	47	
8	亀川 明子	28	桃井 謙祐	48	
9	川上 千代子	29		49	
10	喜々津 弘明	30		50	
11	草野 秀樹	31		51	
12	久保 貴義	32		52	
13	倉田 皓平	33		53	
14	小泉 めい子	34		54	
15	園田 拓	35		55	
16	竹下 理子	36		56	
17	辻川 智子	37		57	
18	殿村 修司	38		58	
19	鳥巢 智行	39		59	
20	永石 恵子	40		事務局員	東京事務所 植田 美佐子

在京長崎・感・考・塾





塾長 田尾 正行

■ 塾長コメント ■

「在京長崎・感・考・塾」とは、関東に住む長崎出身者が、今の長崎に感じることは何で、どのようにすれば良いのかを考える塾です。

東京で伝習所塾が始まって四年目となります。初回の「在京長崎応援団塾」から塾生として参加させていただき、「在京長崎うまかもん塾」では、長崎の食材や、東京で食べられるちゃんぽんの紹介など、東京で長崎を広める活動をしてきましたが、今回塾長として塾を開くことにしました。

私が子供の頃の長崎は、造船業、水産業が中心の街でした。しかしオイルショック以降、造船業は不況になり、以西底引き網漁の船は居なくなりました。現在の長崎は、「長崎さるく」等の素晴らしい企画や、「ランタンフェスティバル」のような、新しい集客力のあるイベント、「軍艦島」のような新しい観光スポットも生まれました。長崎市はこれらを有効に活かし、他の地域からの「外貨」を獲得しなければなりません。

私自身は、東京の大学を卒業後、商業施設の設計施工会社に勤め、大型商業施設を中心に、長年デザインの担当をしてきました。大型の商業施設はお客様のニーズに合わせて、

商品はもちろんですが、サービス、エンターテインメント、交通アクセス、広告等々、集客力を上げるためにあらゆる努力をします。

今回の塾では、その経験を活かしながら、長崎という街全体を一つの大きな商業施設として考え、お客様(旅行者)が行きたくなる長崎とはどんな街なのかを塾生の皆さんと考えてみました。

ディズニーランドは、徹底したサービスとエンターテインメントによって、個々のアトラクションではなく、施設全体が「夢の国」となっています。アメリカのラスベガスも、街全体が大人から子供まで楽しめる「アミューズメント都市」となっています。

魅力ある観光施設が沢山ある長崎を、一つの大きな「宝箱」にし、「長崎」と聞いただけでワクワクするような街にしたいというのが私の夢です。

■ 塾の目的 ■

長崎市は、全国でも有名な観光都市の一つです。しかし、関東に住む長崎出身者として、外から我が街をみると、意外に本当の長崎市のことが知られていません。

例えば、長崎県と長崎市の区別がついておらず、「1泊2日で長崎へ行くのだけど、ハウステンボスへ行き、佐世保で佐世保バーガーを食べて、長崎市でちゃんぽんを食べたいのだが。」という観光客が居たりします。

グラバー園、稲佐山の夜景、平和公園、おくんち、ランタンフェスティバル等々、素晴らしい観光素材がありますが、「長崎という街のパッケージ」が実は良く知られていないのです。

点在する有名な観光施設が旅行者を呼ぶのではなく、すべての施設が長崎らしさのコン

セプトで繋がって、点から線に、そして塊として見える街にするための提案がこの塾の目的です。

■ 塾の研究・活動内容 ■

前期は、月一回の定例会にて、課題に対してレポートを提出しながら、現在の長崎市の観光地としての実態を認識して行く作業を行いました。

最初の塾で「集客力のある大型商業施設の計画手法」という内容で、MS パートナースの瀬戸檀氏に講演頂き、「二子玉川ライズショッピングセンター」の計画についてお話を聞きました。施設開発に重要なマーチャンダイジング、「誰に、何を、どこで、いつ、どのように、いくらで売なのか」を決めるのが重要なことであることを学びました。

そこから、現在の長崎市に欠けている観光地としての要素は何か、観光客の嗜好や要望に長崎の観光施設は応えられているのか、実際に、観光客を設定して、長崎ツアーを組み立てた場合、どのような問題点があるか・・・等々を、各塾生がレポートを作りながら考え、後期は、それらをベースに、今の長崎に付け加えると、より長崎の魅力が高まる方法をピックアップし、具体化に向けての方法を考えていきました。

■ 塾活動の成果 ■

集客力のある長崎市にするためにということで、
誰に・・・旅行者(年代、性別、嗜好等)
何を・・・文化、歴史、自然、イベント等
どこで・・・海、山、郊外、繁華街等
いつ・・・季節、朝昼夜等
どのように・・・常設、仮設等

いくらで・・・プレミアム価格、リーズナブル等

これらを基本に現状を考えてみました。

例えば、有名なグラバー園について考えると、本来ならば、幕末の貿易商グラバーの住居で、木造洋館の歴史的建造物を見学する、異国情緒を味わう、というのが一般的です。ですが現在では、ここからの景色や夜景を目当てに来られる方、ハートの敷石を探しに来られる方など、一つの場所でも旅行者の目的や嗜好は変わります。

このように、現在の旅行者は様々な嗜好、目的を持って旅行をします。物見遊山的な観光ではなく、嗜好と目的がはっきりした旅行が主流となっているのです。ハートの敷石を目当てに来られる旅行者は他にどこを回るのだろうか。そしてこのような旅行者に、長崎は何が提供できるのだろうか。施設ありきで観光を考えるのではなく、誰に、何を提供できるか、今回は4つのグループに分けて、プランを進めました。

- 1.新しい観光資源としての「軍艦島」
「ヘリテージツーリズムと言う視点から軍艦島観光を考える」
 - 2.かつて様々な才能を持った人が集まった街
「長崎」の再現。
「一年中アーティストパラダイス・九州を代表する、パフォーマーの聖地へ」
 - 3.目に見える「食」の美味しさ。
朝市・夜市で『食』の文化大革命を!
 - 4.特殊な交通網長崎について考える
観光客に優しい交通網の確立
- そして、それらを繋ぐキーワードは、「長崎宝箱」としました。

■ 新しい観光資源としての「軍艦島」

長崎の新しい観光資源として軍艦島が注目されています。2009年からの3年間で22万人が訪れています。が、軍艦島は長崎の観光地としては異色の施設であるとも言えます。そこには一般観光客ではない、いわゆる廃墟ファンといわれる人々が存在しています。これらの人々は長崎＝軍艦島であり、グラバー園も龍馬も関係ありません。

この従来の長崎観光客ではない人達の取り込みにより、来崎者を増やそうというのが、このチームの提案です。



■ かつて様々な才能を持った人が集まった街「長崎」の再現

江戸時代、外国との窓口であった長崎には、各地から遊学に訪れ、最先端の学問を学ぶ都市でした。日本と世界を繋ぐ唯一の街では、様々な能力の人々が往来していたに違いありません。

現在の長崎には新しい美術館や公園、博物館ができ、歴史や芸術にふれることができます。アートを日常化し、街全体を活気あるアーティストタウンにし、「九州でのストリートパフォーマーの聖地」にするのがこのチームの提案です。



■ 目に見える「食」の美味しさ

観光地の重要な要素として「食事」があります。ちゃんぽん、皿うどんをはじめとして中華料理、卓袱料理、美味しい鮮魚や水産加工品など、観光客には垂涎の料理が長崎には満載です。

旅行ガイドブックには沢山の食事処が掲載されていますが、水産物が美味しい街であるのに、美味しい朝食を食べられる店、場所がありません。「いつ」という項目で、一日の時間軸に当てはめると、「朝」が欠けているのです。また、「夜」も食事という部分で早い時間に店が閉まってしまうのも問題になりました。八戸では漁港へ行くと新鮮な魚と、リーズナブルな価格で美味しい朝食を食べることができます。函館は有名な朝市があります。朝市そのものは観光地価格ですが、その周辺の食堂には新鮮で安価な食堂が沢山あります。長崎にはそれがありません。

街を歩いていて、朝も夜も「魚が美味しい街」という景色がないのです。食のチームは、この部分の提案を考えました。



■ 特殊な交通網長崎について考える

日本でも有数の斜面都市である長崎は、平地が少なく、平地から高台に向かう放射線型の交通が多い状況です。路面電車も通る狭い道路は、交通規則も変則的で、駐車場も少なく、慣れない観光客には非常に運転が難しいものです。

このチームは鎌倉などの観光地で導入されている「パーク&ライド方式」の提案と、循環交通網など公共交通機関のあり方について改善案を考えました。

在京長崎・感・考・塾 活動記録

日 時	場 所	内 容
平成 24 年		
5 月 16 日(水)	日比谷図書文化館 セミナールーム A	長崎伝習所「塾」開所式、第 1 回 塾会議 自己紹介と塾の概略説明 次回レポートの課題説明
6 月 19 日(火)	市政会館 5F 会議室	MS パートナーズ代表、瀬戸檀氏によるセミナー 「集客力のある大型商業施設の企画実例」 課題「長崎全体を観光施設と見た時、何が優れていて、何が足りないか」レポートの発表と検討 次回レポートの課題説明
7 月 24 日(火)	日比谷図書文化館 セミナールーム A	課題「長崎旅行に向けた人はどういう旅行者で、長崎は何を提供できるか」 レポートの発表と検討 次回レポートの課題説明
8 月 28 日(火)	日比谷図書文化館 セミナールーム A	課題「2 泊 3 日の長崎旅行を企画し、どのような問題があるかを考える。初めての長崎と、2 回目の場合について」レポートの発表と検討
9 月 22 日(土)	日比谷図書文化館 セミナールーム A	長崎らしさとは何か、長崎の魅力は何かをキーワードにする。
10 月 21 日(日)	人形町大市	成果物作成に向けて、テーマの絞込み
11 月 20 日(火)	日比谷図書文化館 セミナールーム A	テーマの決定と検討。4 つのグループを編成をして各テーマの提案を作成
12 月 18 日(火)	市政会館 5F 会議室	提案書の検討
平成 25 年		
2 月 2 日(土)	日比谷図書文化館 セミナールーム A	提案書の検討
3 月 2 日(土)	市政会館 5F 会議室	提案書の検討
3 月 20 日 (水・祝)	ベルナード観光通り	長崎伝習所まつり 調査内容パネルの展示

在京長崎・感・考・塾の「長崎宝箱計画」

長崎の街は観光資源が豊富であり、修学旅行などで、一度は訪れたという人が多い。しかし、関東で長崎についての話を聞くと、意外と詳しくは知られていない。



「ちゃんぽんやカステラが有名で、幕末に坂本龍馬が活躍した街だね」「グラバー園や大浦天主堂があるところね」「平和公園や原爆資料館は修学旅行で行った」「精霊流しが有名」「ランタンフェスティバルが綺麗だった」という話はよくでる。しかしそれは、街自体の特徴を表しているものではない。

京都は同じように多くの施設や祭りイベントがあるが、街としてのイメージがはっきりと認知されている。「そうだ京都へ行こう」の言葉から感じる、心のふるさとのようなイメージを持っている。

その点、長崎は「異国情緒がある」と言われているが、実際には南山手から東山手にかけてぐらいしか感じることは出来ない。

また、小樽や函館は長崎と同じような港町だが、レンガ倉庫や、朝市など、港町のイメージを残した街づくりとなっている。しかし、長崎が持っている街のイメージはなんだろうか。どんなイメージにすればいいのだろうか。

私たち在京長崎・感・考・塾では、そんな長崎を様々な素晴らしい観光資源をもつ長崎を、一つのパッケージ「長崎宝箱」として詰

め込んだ時、そこに見える宝箱の隙間を埋める検討を行った。

誰に・・・どんな旅行者(年代、性別、嗜好等)

何を・・・文化、歴史、自然、イベント等
どこで・・・海、山、郊外、繁華街等

いつ・・・季節、朝昼夜等

どのように・・・常設、仮設等

いくらで・・・プレミアム価格、リーズナブル

を考え、次の4つに分けて、新たな観光客やリピート客、泊まり客が増える提案を行う。

1.新しい観光資源としての「軍艦島」

「ヘリテージツーリズムと言う視点から軍艦島観光を考える」

2.かつて様々な才能を持った人が集まった街「長崎」の再現。

「一年中アーティストパラダイス・九州を代表する、パフォーマーの聖地へ」

3.目に見える「食」の美味しさ。

朝市・夜市で『食』の文化大革命を!

4.特殊な交通網長崎について考える

観光客に優しい交通網の確立

■新しい観光資源としての「軍艦島」

「ヘリテージツーリズムと言う視点から軍艦島観光を考える」

メンバー：山内 悟 黒沢 永紀 松本 宗大
野崎 麻子



長崎の観光名所といえ、従来は以下のよう
なもの知られていた。

①江戸時代の歴史的建造物、史跡等

例：グラバー園、出島、眼鏡橋、唐人屋敷跡、
唐寺(興福寺、崇福寺)等

②キリスト教に関連する施設等

例：大浦天主堂、浦上天主堂、二十六聖人殉
教地等

③太平洋戦争に関連する施設等

例：長崎原爆資料館、平和公園等

いずれも長崎の誇る重要な観光名所であり、
長崎出身者にとっては愛してやまない場所の
数々であるが、県外の人間、例えば東京の人
間から見れば、「異国情緒」や「原爆」といっ
た、ある固定したイメージを持たれているこ
とも事実であり、また、「修学旅行で訪れる場
所」、「一度訪れれば十分ではないか」といっ
たイメージを持たれている場所であることも
否定できない。そのようなイメージを持たれ
ていることから、これらの観光名所は、いわ
ゆる「リピーター」を生み出しにくいのでは
ないかとの疑問も生じるところである。

そこで、本レポートでは、近時注目を集め
ている軍艦島に着目し、これを活用すること
により、「繰り返し訪れたい」新しい長崎
観光のあり方を提示し、ひいては長崎観光が
一段と「増強」されることを企図している。
※本レポートは、長崎市の観光をテーマとし
ており、従って、特に断らない限り、単に「長
崎」という場合は長崎市を指すものとする。

1. 軍艦島を巡る現状

軍艦島は、長崎県長崎市にある端島の通称
であり、かつては西彼杵郡高島町であったが、
2005年に長崎市に編入された。かつては炭
鉱によって栄えたが、閉山とともに次第に島

民が島を離れ、無人島となった。島への立ち
入りも長らく禁止されていたが、2009年4
月22日から一般観光客への公開が始まった。

我々は、軍艦島の持つ魅力は、以下の点に
あると考える。

① 昭和のタイムカプセル：一槽式電気洗濯
機や足付き白黒テレビなど、昭和49年
(1974)の閉山時の姿が今も残る島内は、
文字通り昭和のタイムカプセルである。

② 早すぎた未来都市：世界最高の人口密度
を実現した社会は、裕福な生活と裏腹に、
ライフラインが途絶えると機能停止してし
まう現代の都市生活と同じ社会を既に大正
時代に具現化していた。

③ 先駆けの島：国内初の鉄筋コンクリート
製アパートを初め、国内初の海底水道、国
内初の浮棧橋等、土木を中心にした「国内
初」のオンパレード。

④ 集合住宅のカタログ：鉄筋に木造長屋を
埋め込んだ構造の不思議なアパートから、
雁行型の集合住宅まで、大正から昭和の中
期までの国内の集合住宅を先取りして建設
して来た島内のアパート。

すなわち、軍艦島とは20世紀の日本が全
て詰まった島であり、20世紀の日本を根底
から支えた地産産業、戦争の記憶、集合住宅
の歴史、昭和の生活等、この島を知ること
で、20世紀の日本の文明の全てを知ることが
できる。

2. 軍艦島観光の動向

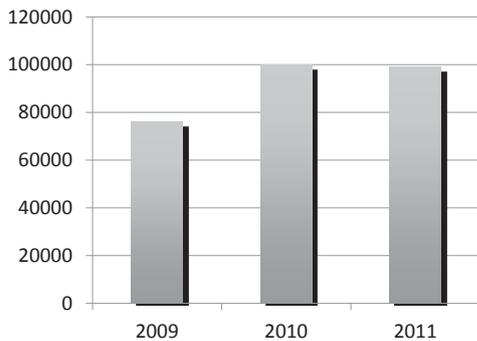
軍艦島観光の動向をまとめると、以下のと
おりである。

① ツアー参加者

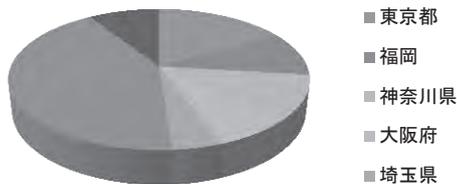
・3年間のツアー客：約27万5000人
2009年度：7万6000人、

2010年度：10万人、
2011年度：9万9000人

- ・9割以上が県外客
東京都：18.4%、福岡県：11.2%、
神奈川県：10.9%、大阪府：8.2%、
埼玉県：5.0%(民間調査研究機関調べ)



参加者県別分布



- ② 経済波及効果：65億円(3年間)
 - ・ツアー客の飲食費や宿泊代などの直接効果：39億円
 - ・関連する人件費など二次的な波及効果：26億円
- ③ アンケート(2012年3月：ツアー客を対象、市観光推進課)
 - ・満足度は95%
 - ・「もっと広いエリアを見たい」との声も多かった。
- ④ 長崎市：高島、池島を含めたツアーを検討中
 - ・高島：1986年に閉山。
 - ・池島：2001年に九州で最後に閉山。
2011年秋、観光用に坑内トコ

ッコ復活。

有識者でつくる市の検討委員会

- ・端島の保存、管理をテーマにした報告書を今年度にまとめる予定。
- ・「報告を受け、観光にどう生かしていくかを考えたい」(市観光推進課)

(①～⑤ 出典：YOMIURI ONLINE

2012年6月13日

<http://kyushu.yomiuri.co.jp/magazine/history/20120613-OYS8T00833.htm>

2009年から2011年の3年間でツアー客約27万5000人、経済効果65億円という上記のデータからは、軍艦島ありきの長崎観光客が登場したこと、軍艦島という新しい観光名所が誕生したことがわかる。

3.軍艦島観光客層の分析

軍艦島を訪れる観光客には、産業遺産／廃墟ファンが多いと言われる。彼ら／彼女らは、廃墟化した建築物等の独特の雰囲気惹かれる感性を持つ層であり、その志向はレトロ趣味、懐古趣味ともリンクしている。

そこで、以下では、産業遺産／廃墟ファンの持つ長崎観光客としての潜在的可能性を探ってみることにする。

(1)産業遺産

産業遺産とは、ある時代においてその地域に根付いていた産業の姿を伝える遺物や遺跡のことである。産業遺産の中には、世界遺産(1972年のユネスコ総会で採択された「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」(世界遺産条約)に基づいて世界遺産リストに登録された、遺跡、景観、自然など、人類が共有すべき「顕著な普遍的価値」を持つ物件のこと。)として登録されているものもあり、日本の産業遺産としては、2007年に「石見

銀山遺跡とその文化的景観」が世界遺産として登録されている。

軍艦島(端島炭鉱)をその構成資産として含む「九州・山口の近代化産業遺産群」は、既に2009年1月1日に世界遺産暫定リストに登録されており、2015年のユネスコ世界遺産委員会での世界遺産登録へ向けての取り組みが進められているところである。従って、「九州・山口の近代化産業遺産群」の世界遺産登録に向けての観光ルートの整備により、産業遺産ファンの軍艦島を核とする長崎観光への誘致を図ることが可能となる状況にある。

(2) 廃墟

1980年代以降、上述したレトロ趣味や懐古趣味ともリンクした「廃墟ファン」の存在が知られており、軍艦島は廃墟の代表的スポットと言われることもあるが、廃墟はどのくらい人気があるのだろうか。国内通販業界最大手のアマゾンの日本語サイトでの検索結果(2013年2月28日時点)は以下のとおりである。

- 書籍：379件(参考：産業遺産：430件、軍艦島：188件、長崎：5858件、戦国武将：1625件)
- DVD：72件(参考：産業遺産：1件、軍艦島：13件、長崎：354件、戦国武将：31件)

これらのデータは、「廃墟」、「産業遺産」、「軍艦島」といったキーワードを長崎観光の切り口とすることにより、相当な人数の潜在的観光客への訴求力を持ち得ることを示していると思われる。

また、iPhone、iPad向けアプリである「軍艦島黙示録 Vol.01」のダウンロード数は4万3000DLである(ちなみに、2010年～2012年の国内販売数は、iPhone 2039万

台、iPad 592万台である。買い替えによる複数台所有を考慮するとユニークユーザー250～300人に1人がダウンロードしたと推定される)。この数字も軍艦島人気を裏付けていると言えよう。

(3) ヘリテージツーリズム

上述の産業遺産／廃墟ファンの存在と関連して、近時、新たな旅行・観光の動きとして注目されているものとして、ヘリテージツーリズムがある。

NPO法人J-heritageのホームページによると、ヘリテージツーリズム(Heritage tourism)とは、「産業遺産に足を運び、地元住民や元従業員などのガイドを通じてその地域に誇るべき産業技術があったこと、また産業に関わる生活・文化があったことを知ることによって旅人が自らの人生をより豊かにする旅を指します。」とされている。

海外では以前からナショナルトラストのような歴史的建造物の保護を目的とする団体の活動があり、日本でもNPO法人J-Heritageが2012年に軍艦島・池島視察ツアーを行うなどの動きがある。



軍艦島を核とした長崎観光の提案は、まさにこのヘリテージツーリズムの動きにも合致するものであり、我々の試みは、産業遺産／廃墟ファン視点から長崎の観光資源を捉え直し、「ヘリテージツーリズム」という視点を導

入して、軍艦島につながる長崎の近代化遺産群をPRするものと言える。

また、このような新しい視点を導入した新しい観光のあり方の提案は、上記のとおりレトロ趣味や懐古趣味といった点からより広い層にもアピールし得るものであり、また、歴史・文化・産業等の学習の要素を取り入れたものとして、既存の産業遺産／廃墟ファンだけではなく、普通の旅はもう飽きたという30代女性や、時間的・金銭的に余裕のある団塊世代にもアピールし得るものとする。(参照 URL <http://j-heritage.jimdo.com/> /ヘリテージツーリズム/)

4.問題点の検討

我々の提案を策定するに当たって検討すべき問題点として、以下の諸点がある。

- ① 2010年に比べて2011年に客足が減少した(上記2①「ツアー参加者」参照)。
- ② 軍艦島以外にも、池島や高島のような素晴らしい産業遺産がありながら、観光資源として十分に活用されていない。

以下、上記①及び②の原因を明らかにし、その対策を検討する。

上記①については、以下の原因が考えられる。

ア：軍艦島しか行かない。

イ：ツアーの内容が変化しない。

ウ：東日本大震災の影響。

上記アについては、旅行者の中で軍艦島と他の観光名所とを結び付けるストーリーがなく、あるストーリーに基づいて軍艦島を見たから次は別の場所を見よう、という展開がなされていないものと考えられ、従って、旅行者の興味をひくストーリーを提示したツアーを提案することにより他の観光地へも誘致で

きると考えられる。

上記イについては、ツアーの内容が変化しないのであれば、一度見たらもう見なくていいと思われても止むを得ない面があるので、二度目には違う見学エリアを見ることができるようツアー内容を工夫することが考えられる。

上記ウについては、不可抗力なので仕方がないとも言えるし、また、逆に東日本大震災があった割にはさほど減っていないという見方も可能である。

他方、上記②については、池島や高島のような他の産業遺産については、軍艦島に比して認知度が低いことが原因として考えられる。従って、逆に軍艦島との関連でストーリー性を持たせることにより、それら他の産業遺産も観光地として認知させることができると考えられる。

以上の検討からすると、軍艦島と池島等の他の産業遺産の観光を組み合わせることにより、その観光にストーリー性を持たせ、一度では見られないのもう一度行こうと思わせ、さらには軍艦島以外の他の産業遺産をも観光資源として十分活用でき、ひいては持続的に長崎へ観光客を招致することができるものと考えられる。

5.提案の目標と内容

上記3「軍艦島観光客層の分析」での検討結果を踏まえ、我々は、以下のとおり目標を設定する。

- ① 軍艦島に共鳴する層に対して、軍艦島以外の産業遺産関連施設等に誘導する事で、滞在日数を延ばす。
- ② 軍艦島の集客力を復活させ、初年度以上の観光収入を見込む。

そして、上記目標を実現するための施策として、以下の内容を提案する。

ア.軍艦島観光のさらなる充実を図る。

- ・軍艦島の中で現在見学できない非公開エリアを特別見学コースとして公開する。
- ・軍艦島検定を実施する。検定の成績によって非公開エリアへの上陸を許可するなど上記と連動させることも考えられる。

イ.軍艦島だけを見て帰る観光客の流れを変え、島だけでなく長崎全体を観光してもらうようにする。具体的には、以下の観光地・場所を活用する。

- ・池島：軍艦島では見学不可能な炭坑施設／住居等を現在でも見学できるので、「上陸できる軍艦島」として軍艦島とセットでアピール。また、ネコの島としても魅力(参考：ネコの島の実例として田代島(宮城県石巻市)、ミコノス島(ギリシャ)。ウサギの島の実例として大久野島(広島県))。
- ・その他の拠点：小菅修船場跡、三菱資料館、軍艦島資料館、高島等と組み合わせでツアーを作る。
- ・大波止：ターミナルビル 2F に軍艦島上陸体験 3D シアターを設置する。

ウ.最初から2泊3日×2回のツアープランを作る。

- ・二度目にとっておきのスポット(特別見学コース)を入れることにより、一度来た観光客にもう一度来てもらう。

6.提案の特徴・優位性

我々の提案の特徴・優位性として、以下の点が挙げられる。

- ① 軍艦島が新しい観光地であること：軍艦島自体が新しく参入した観光地。その新し

さを十分に活かさないまま、数年で客足を減らすのは勿体ない。更に、せっかく現状保存で残した住宅棟エリアを公開しないのは勿体ない。

- ② 特別見学コースというスペシャル感：少人数限定の特別見学コースによって、半年先まで予約が取れない等、誰もが行ける観光地から特別感のある観光地へ。
- ③ ストーリー性による新しい観光体験：訪れた市内の観光地が、全て軍艦島に繋がっている物語を聞くことで、旅行全体の記憶が新しい体験に。
- ④ 投資の少なさ：我々の提案を実施するための投資としては、特製パンフレット制作代、全問正解者用プレゼント等の費用が考えられるが、既存の観光資源を再構成するので、新たに多額の投資が必要となることはない。

すなわち、我々の提案は、視点を变えるだけで、ほとんど投資することなく、観光客を増加する試みでもある。

■かつて様々な才能を持った人が集まった街「長崎」の再現。

「一年中アーティストパラダイス・九州を代表する、パフォーマーの聖地へ」

メンバー：片山 六郎 市原 実 磯田 壽
八兒 正紀 成田 花緒里

1.現状認識

長崎市内には、見たり食べたり遊んだりさまざまなパターンの観光資源が数多くあります。長崎には「くんち」の出しものにあるように 龍踊りやコッコデショなどという楽しみもたくさんあるのです。しかし、観光客が気軽に楽しむ、それもおく身近でとなるとなかなかその機会は少ないのです。長崎市

内では、常設の演芸館や舞台小屋といったものがありません。

例えば丸山の「検番」があるといっても 気軽には行きません。温泉地の熱海には熱海芸者の稽古施設があり、ここでは毎日決められた時間に行けば有料ですが、熱海芸者の舞踊を見ることができます。

残念ながら長崎市には、映画館やホールはあっても生の演技を見る機会が少ないのです。

また長崎市内では、観光客ばかりか長崎市民にもふだんの楽しみの場が少ないといえるのです。誰もが市内のどこかで何かのイベントなどの開催を期待しているはずです。イベントによって、開催場所に人が集まりやすくなるのですから。

そこで、長崎中心街に人が楽しみに集まる仕掛けを新たに創り出そうというのがこの企画案なのです。



2.提案の特徴

今回の提案で目標とするのは次の事項です。

ア.長崎市内でストリートパフォーマンスを定期的で開催することで、観光客ばかりか市民にも楽しみを提供することができ、中心街にひとのにぎわいをもたらす。

イ.長崎の様々なイベントに、パフォーマーを登場させ、相乗効果を狙う。

ウ.パフォーマーが全国から(年次大会では海外からも)参集し長崎市のよさを実感してもらう。

エ.長崎市が「パフォーマーの聖地」という新たなイメージを創造できる。

3.前提条件と計画概要

今回の提案の前提の条件は次の通りです。

- 誰もが気軽楽しめるものであること。
- 類似の企画が、近隣都市で実施されていないこと。
- 年間を通じて実現できること。
- 費用をあまりかけないで実現できること。
- 新規の施設などの設置を伴わないこと。

この条件で検討した計画は次の通りです。

- ・タイトル：仮称「長崎わーど大道芸会」
- ・主催：長崎わーど大道芸会実行委員会
- ・内容：次のように年間を通じて開催(ルーチン方式といいます)と年1回開催の年次大会の2つの方式で 運営とします。
- ルーチン方式・・原則 毎週土・日曜日に市内で開催。年間40回を予定。初期段階では開催個所は2か所程度とし、屋外の場で実施。パフォーマーは毎回4組程度とし2日間演じます。将来は開催場所を拡大する可能性もあります。
- 年次大会・・毎年1回2日間実施。いわば国際大会の賑やかさで実施。国内ばかりか中国・上海などのほか東南アジアを中心に海外からも招聘。招待パフォーマーと応募パフォーマーとに分かれます。招待パフォーマーは費用(交通費、滞在費)を主催者で負担します。

4.実例

(1)類似のケース:「ヨコハマ大道芸2012」

「ヨコハマ大道芸」は1986年の「野毛大道芸」から始まっており、その後、横浜中心街に拡大することで「ヨコハマ大道芸」と改称して続けられています。ビックイベント2日間で約150万人を記録するほど成長しています。

●運営方法

「ヨコハマ大道芸」は2つの方式で運営されています。

●ビックイベント・・・毎年1度 4月に2日間実施。2012年は4月21日(土)、22日(日)に開催。場所みなとみらい21、伊勢佐木町、吉田町通り、象の鼻公園で演じるポイントは16ヶ所。演技時間は1組1回30分。

●1年中開催のイベント・・・主として土曜・日曜日と祝日の開催。場所は山下公園、グランモール公園円形広場、ジャックモール公園。毎週に開催される場所、パフォーマー名、演技時間がホームページに翌月分が一括して掲載されています。気になるパフォーマーを探して見るができるようになっています。

●運営団体

横浜市の場合 「NPOヨコハマ大道芸」

事業内容

- * 毎年、定期的で開催する「ヨコハマ大道芸」の企画・運営
- * 公園や街角など、どこでも、いつでも大道芸を楽しめる環境作り
- * 商店街やホテルなどの集客施設が 独自で行う大道芸イベントの企画・運営
- * 他都市における大道芸イベントに対する助言と企画・運営
- * 大道芸の盛んな世界の諸都市との交流と海外のパフォーマーの招聘
- * 大道芸イベントの養成

●収入方法

現在、ホームページで公開しているのは次の方法です。これ以外に寄付金などの方法が採用されているものと思います。

●「NPOヨコハマ大道芸」への入会

個人、法人・団体に会員募集を実施しています。種類は正会員・賛助会員。正会員の場合は入会金5,000円、年会費5,000円。賛助会員の場合は入会金5万円、年会費5万円。

●スポンサー募集

企業スポンサーを募集しており、ホームページ上にはアサヒビール(株)、㈱リョーカジャパン、横浜信用金庫が掲載。

(2)類似以外での大道芸の開催例

全国各地で大道芸を主体にしたイベントが開催されています。

そのほとんどが年1回の開催で期間も2日間程度というものです。

2012年に開催された事例(一部2013年)を列挙してみました。

帯広市：「北の大地DE大道芸」 8月14日(火)～16日(木)
宮城県蔵王町：「大道芸フェスティバル in とおがった」6月2日(土)～3日(日)
日立市：「ひたち国際大道芸」 5月12日(土)～13日(日)
つくば市：「アートタウンつくば2012大道芸フェスティバル」 8月25日(土)～26日(日)
宇都宮市「うつのみや大道芸フェスティバル」 2013年3月16日(土)～17日(日)

千葉市：「大道芸フェスティバル in 千葉」 3月25日(日)のみ
杉並区：「高円寺びっくり大道芸」 4月28日(土)～29日(日)
世田谷区：「世田谷アートタウン2012・三茶 de 大道芸」 10月20日(土)～21日(日)
町田市：「町田大道芸」 10月13日(土)～14日(日)
新潟市南区：「月潟大道芸フェスティバル」 9月23日(日)のみ
長野市：「ながの大道芸フェスティバル」 8月31日(金)～9月1日(土)
名古屋市：「大須大道町人祭」 10月12日(金)～14日(日)
長浜市：「大道芸フェスタ in 虎御前」 10月7日(日)のみ
福山市：「ふくやま大道芸」 2013年5月18日(土)～19日(日)
高松市：「たかまつ大道芸フェスタ2012」 9月29日(土)～30日(日)
北九州市：「小倉大道芸フェスティバル」 5月3日(木・祝)～4日(金・祝)

5.期待される効果

仮称「長崎わーるど大道芸会」は、次の効果をもたらすと想定されます。

集客効果として延べ約10万人の動員を見込みます。

＊ルーチン開催を年間40回(各2日間)実施して・・・6万4,000人

算式：1回の演技観客平均50人×1日8回演技(1組30分で 1日4回演技)×2か所×2日間演技×年間40回

・・・6万4,000人

＊年次大会開催2日間で・・・3万人
算式：1回の観客平均100人×1日150回演技(30組が1日の5回演技)×2日間演技・・・3万人

経済効果として5億円を見込みます。

※今年度の塾にて、実例にあげた各地の大道芸フェスティバルのプロデューサーを務める橋本氏とコンタクトをとり、東京の六郷土手で行われる「長崎ハタ上げ大会」に、ストリートパフォーマーが出演することが決まりました。

■目に見える「食」の美味しさ。

「朝市・夜市で『食』の文化大革命を！」

メンバー：藤田 茂 長野 正毅 辻川 智子
有馬 朱美 大串 達緒 小川 真



1.企画の目的

最近マスコミが取り上げる地域のものを見ると、「下町情緒」「新鮮食材」「B級グルメ」などが人気を集め、むしろ作られた施設やイベントは、しばしば失敗しているものが少なくない。すなわち「既存の庶民的資源」がひとつのキーワードとなっているのである。

本企画は、このように多くの投資を要せず、すでにある資源を活用し、アピール方法をブラッシュアップするものであり、地元民のみぞ知る資源を強く顕在化していくことにより、

最終的に市外より集客を目的としたものである。

2.現状の問題点

前述のように、現在すでに長崎市では多くのイベントが開催されており、観光資源とともに、そのアピール方法は非常に重要なことであると認識している。

そのような中、長崎は、食材の宝庫でありながら、観光客のみならず、市民・県民にさえもアピール不足である。どうしてもちゃんぽん、皿うどんを主体とした食文化が表面化するため、また、それらを体験できる（見る、触る、食す）場所が少ない。

現に東京のスーパーマーケットで見る魚などは、「長崎県産」と記されたものが非常に多いにもかかわらず、「食材の宝庫 長崎」が見当たらない。

3.コンセプトと目指す方向性

「食の宝庫 長崎」をアピールする場を市民が作り、運営する。

既存の施設や遊休地などを利用し、低予算であり手間を掛けず利益を上げられる、「食の宝庫 長崎」をアピールする場を作り、運営するものである。

4.企画概要

【内容】「朝市」「夜市」の二毛作
食材そのものの販売、食の場・・・朝市
異国情緒のあるアジア文化を取り入れた食の場・・・夜市

【開催日】週末および祝日の前日など、人が集まりやすい日程を限定して行う。

【運営】第3セクターなどが主体となり、漁業、農業、その他近隣の地元産品生産者、もしくは関係者などにより運営。

【場所】

①大波止倉庫街跡地(このような名称かどうかは不明)

理由：○古い倉庫跡があり、現在、使用されているようには見えない。

＝改装して使えそう

○昨今の区画整理等で道も広く、住宅地が少ない

○倉庫跡を改装し、天候に左右されず実施できる一定スペースに固定ブースを設け、朝市では、商品を並べて販売できる。

夜市では、そのスペースに一般の屋台のようなものを持ち込んで簡単な調理ができるようにする。

②湊公園

理由：○ある程度の道路の広さ、公園の広さが確保されている

○新地中華街に隣接していることから、朝市、夜市の雰囲気作りに最適

○住宅地という雰囲気はあまりない
※公園のため、雨天時は難しい

すべて、軽トラック、軽ワンボックスカー等
を乗り入れ、朝市も夜市も行う。

＝水回り設備も不要

5.企画の特徴

朝市は、日本の多くの地域で行われているが、九州圏内では少ない。ここで、長崎の豊富な水産資源、農作物、食肉類とありとあらゆる食材が朝市で販売できれば、国内の中でも「食材の多さ、質」とともにレベルの高い、随一規模の市を形成とすることが、可能である。

一方、夜市文化は、日本ではほとんど見られない。中国、台湾、韓国との繋がりが古来

からある長崎だからこそ、実施できるものではないか。

現代版の異国情緒を味わっていただける場所を提供でき、かつ、食文化の伝播の場となりうる。

大波止辺りに未だ残る倉庫跡等を利用し、天候に左右されず、週末開催とすることにより、夜の長崎に経済効果をもたらすものと考ええる。

6.事例

①朝市：輪島

この市のために観光客も地元の人も集まる。

輪島朝市情報 MAP ホームページ

<http://wajimacity.jp/index.php?mode=asaichi>

輪島市観光協会ホームページ

http://www.wajimaonsen.com/miru/030/post_12.html

(写真は、上記ホームページより)



②夜市：士林(台北)

地元民と観光客が交わり、活気のある空間を作り上げている。

台北ナビホームページ

<http://www.taipeinavi.com/special/5023675>

(写真は、上記ホームページより)



7.期待される効果

- 地元民による庶民的空間によって、これまでの長崎にはないイメージの創出
- 生産者が自信をもってアピールできる場所の提供と新たな雇用拡大
- 長崎の県産品をより多くの人に知ってもらう⇒他の地域(全国)へのマーケット拡大・新たな観光資源
- 朝あるいは夜という時間軸を使った、食文化の発信方法

8.課題

- 運営主体の設立と関わり方、出展者の募集・出店業者の車の乗り入れが可能な場所の確保(場所、時間帯など)
- 夜市については、酒類の提供。営業時間(近隣住民等、青少年への悪影響など)

9.計画案

【初年度】基本構想立案・検討～出店可能性
事業者への調査、立地調査、法的調査

【2年度】実施計画作成～FS実施、最終評
価、運営主体設立、広告計画

【3年度】出展者募集、運営開始

■特殊な交通網長崎について考える

「観光客に優しい交通網の確立」

メンバー：堀田 毅 田村 由樹 入谷 亮平

2008年のリーマンショック以降、日本経済は長期にわたる不景気が続いているが、地方経済はそれ以前から地盤沈下が進んでいる。長崎市も例外ではなく、市域拡大はしたものの人口減少と経済不況が続いており、地域経済活性化が喫緊の課題となっている。

在京長崎 感・考・塾では、長崎市が世界に誇る経済資源である、“観光資源”に着目し、観光客のさらなる誘致と長期滞在による経済活性化に向けての検討と提言を行っている。本資料では、来崎してくれた観光客に、より快適な、より効率的な交通網を提供するための改善策について提案するものである。

1.長崎市内交通網の現状(1)

路面電車の線路と車道が並行にある箇所が多く、慣れていないドライバーの線路侵入が多発するため、渋滞が発生する。



2.長崎市が抱える交通網の課題

長崎の道路網は、海と山に囲まれている為どこへ行くにも市の中心部を通るような構造になっている。どこに行くにも坂道が多く、徒歩や自転車よりも車が便利。(特に、路面電車が通ってない坂の上の教会 や施設など)

観光地だけあって駐車場は多いが、道も狭い上に駐車場も狭い。(駐車場の出入口が共通な所が多く、車の出し入れが滞る)

慢性的な渋滞の発生

↓

目的地への到着が遅れる

↓

観光客の不満増大

↓

観光地としての魅力減

↓

観光客の減少

↓

長崎経済の衰退

市内中心部の交通インフラ、サービスの改善が必要！

バス停や電停で降りると、坂道の上や狭い路地にある目的地まで歩くため、かえって遠くになってしまう。電車は頻繁に走ってるが、バスの場合、目的地によっては1時間に1、2本しか走っていない。

観光客はJRや高速バスで長崎市内に来ることが多いため、生活用の交通手段としての自動車が渋滞を引き起こしている。

3.解決案

ア.長崎市内循環交通の導入

平地部分から高台に向けての放射線型交通だけでなく、高台部分で繋がる環状線型交通網の設置。

新都市交通の開発が最も効果的だとおもわれるが、道路の整備とバス路線の見直しで解決する方法もある。浦上、本原付近から、稲佐山中腹、西泊を抜け、女神大橋、戸町、小島、新大工、西山を抜けて本原、浦上へ、またその逆ルートにより、中心部を通らない路線を構築する。



イ. レンタル/シェア用の電動自転車、電動バイクを複数拠点に設置し、バス停や電停から降りた後の移動の利便性を高める。

ウ. 電車やバスで市街地に乗り入れ後、郊外への窓口拠点にレンタカーを設置し、郊外の目的地への利便性を向上させる。

エ. 行商用電車(京成電鉄で1日1本、今も走ってまず)ならぬ、仕入れ用路面電車やバスを走らせて、市街地への自動車流入を防ぐ。

以上を踏まえて、観光客に公共交通機関をより利用してもらうための対策が必要

4. 交通網改善の提案

「パーク&ライド方式」



慢性的な交通渋滞解消のため、長崎市でも平成12年よりパーク&ライドを取り入れ、現在は以下の駐車場が稼働している。

○平和公園駐車場(普通車 93 台、バス 32 台) 7:00~20:00(地上部は 24 時間営業)

○松山町駐車場 [ラグビー・サッカー場地下・JR高架下] (普通車 288 台、バス 10 台) 7:30~22:00(地上部は 24 時間営業)

○県営野球場駐車場(普通車 149 台、バス 5 台) 7:30~22:00

合計 普通車 530 台、バス 47 台

※以前は、長崎駅前周辺、桜町周辺でも稼働していたが、現在は稼働していない。

- ・ 渋滞緩和・環境改善
- ・ 目的地への安心・確実な移動
- ・ 渋滞によるイライラ解消

5. パーク&ライドの利用促進案 詳細

パーク&ライドの利用促進をするための案として以下を提言します。

ア. 公共交通利用者に限った駐車料金や長崎便の航空運賃の割引。

イ. 史跡ガイドボランティア協会との連携によるパークアンドライド利用者へのサービスや情報提供。

ウ. 子供向けスタンプカード(1日でいっぱいになるように)や長崎土産サービス。

エ. 空港や主要 SA, PA での効果的なパンフレットやチラシの配布。

オ. 旅行業者や周辺自治体、観光・宿泊施設やメディアと提携した宣伝。

カ. 官民一体でのバスやタクシー、レンタカーなどの交通機関への電気自動車導入。

キ. 「環境に優しい」、「パーク&ライドのお得感」、「民間業者との積極的なコラボレーション」を強くアピールし、市がこれまでで

上にイニシアチブをとって推進することが重要となってきます！

6.今後の課題と方針

市街地周辺の道路網整備

→周回道路や環状線など、中心部を通らずに外縁部の道路網を整備して、市街地への乗り入れ量の抑制、市街地への乗り入れルートの分散と所要時間短縮を図る。

7.市街地に流入する自動車の流量制御

→ナンバープレートや車種(軽、普通、大型)、時間帯、場所に依じて、市街地に乗り入れてくる自動車を制限し、公共交通機関への乗換えと所要時間短縮を促進させる。

8.住民の利用交通機関のシフト

→市民や法人が、自家用車の利用から公共交通機関の利用へとシフトさせるために、公共交通機関の利用頻度に応じた優遇制度を整備する。

■塾生の感想

平成 24 年度長崎・感・考・塾に参加して

●藤田 茂

平成 24 年度、田尾塾長主催の感考塾に参加させて頂いた。

長崎の活性化(主に観光面)のため、東京在住の長崎出身者から見て新たな提案を考えるというものであり、各自それぞれの視点で長崎を見つめる機会を得る事ができたと思う。

私は、先ずはマクロ的に状況を把握し、現在の観光資源や特性、様々な催事等を調べる事で、長崎という街を再認識した。長崎は古くからの観光都市だけあって、他市町村に比して新旧のイベントは非常に多く、特に「さ

るく博」は見れば見るほど良くできていると感心した次第である。したがって、今の長崎に新たな企画提案というより、むしろ既存のものをブラッシュアップした PR 方法を考えるべきではないか、というのが印象である。

ともあれ、課題はないか?と眺めてみる。私は現在すでに長崎には親戚もいないのでホテルに宿泊するのであるが、街を熟知している私でさえ「さすが長崎」と思えるような朝食にありつけない事に気が付いた。さらに、東京ではあれだけ「長崎産」の鮮魚などがあふれているのに、長崎では“地元の旨いもの”というと、店を思いつかないのが実情であった。いわゆる観光客には、ちゃんぽんか皿うどんであり、お土産はカステラなのである。そこで考えたのが、生産者により地元産品を販売する場を設けて、コストをかけないため屋台形式で販売するというもので、アピールも兼ねるものである。

ただし、あくまで思いつきの域を出ず、課題は満載である。提案と言ってもすでに検討がなされているのか否かも不明であり、ましてや多くの人間や行政を巻き込む企画は、遠隔地からの思い付きでは厳しいものがある。

今後どのような形になるのか、するべきなのかを、塾長とともに考え、少しでも実のあるものになれば幸いと考える。



●成田花緒里

長崎で過ごした期間は、わずか3年。転勤族の私が、「長崎感・考・塾」に参加することで、今も長崎と関わりを持っていて。なんて幸せなのだろう。私にとって長崎の魅力は「ポテンシャルの高さ」だ。食、歴史、文化、自然、地理的条件…様々な魅力、可能性に溢れる街と関われることは、楽しく面白いに決まっている。

ただ、残念なことに長崎の魅力はもっぱら潜在的で、全国的にはあまり知られていない。これは塾生の共通認識でもあった。塾での活動は、長崎の魅力の掘り起こしからスタートし、点在する魅力を意味づけして線でつなげることで、訪れた人たちの心を動かし記憶に残る物語を紡いでいく。そんな作業だったように思う。

題材豊富でストーリーも様々あり大変興味深かった。「長崎の街は宝箱 長崎観光は宝探し」「日本人の起源に会える街」「街がまるごとテーマパーク」…。塾を通じて、私は益々長崎ファンになった。龍馬じゃないけど「長崎は希望の街」であり続けて欲しい。



●黒沢 永紀

長崎に縁もゆかりもなかった私が、長崎に興味をもったきっかけは軍艦島でした。最初は軍艦島だけへの興味でしたが、幾度となく長崎へ通い詰めるうちに、軍艦島に限らず、長崎の街、そして人の全てに興味をもつようになりました。街の成り立ちは地域によって様々だと思いますが、長崎の魅力は「和華蘭」の文字に象徴されるハイブリッドな感覚であり、リアルなテーマパーク感だと思います。飛騨の合掌造りや京都の古寺などに見られる重厚な渋みではなく、和華蘭の全てが軽快で、ある意味造りものの様に存在していますが、でもそれが作り物ではなく、リアルなんですね。そんな異空間が長崎の最大の魅力だと思います。

そんな長崎を感じ考える塾に参加させて頂けたことは、とても幸せです！今回は軍艦島を軸にした観光活性化を、拙いながら考察させて頂きましたが、次回は軍艦島に限らず、もっと広い視点で、長崎の魅力を再発見できたらいいなと思います。



●松本宗大

手元の手帳を頼りに記憶を辿ると、昨年5月7日の長崎関係者の飲み会の席で、母校である青雲の藤田先輩からお誘いをいただいたのが本塾に参加したきっかけであった。以降、6月19日(第2回定例会)、7月14日(長崎市長との懇談会)、7月24日(第3回定例会)、8月28日(第4回定例会)、10月20日(第5回定例会及び中締め会)、12月18日(第7回定例会)、本年2月2日(第8回定例会)と参加させていただいた。出席率は比較的高い方だったようであるが、同時に遅刻率もかなり高く、また、宿題提出率となると相当低かったのも事実である。定例会後の恒例であった懇親会(飲み会)への参加のみを目的としていたのではないかと疑われても仕方がないであろう。

10代までを過ごした長崎のために何か貢献できればという思いから参加を決めたものの、結果的にどれだけ貢献できたかという点甚だ心許ない。もっとも、長崎を離れて20年以上経ち、私の中で芽生えつつあった「長崎愛」が、本塾への参加を通じてより強まったことは間違いない。私のようなゆるい参加者も許容していただいた田尾塾長をはじめとする皆様に感謝申し上げる次第である。



在京長崎・感・考・塾

塾長	田尾 正行				
1	有馬 朱美	21		41	
2	磯田 壽	22		42	
3	市原 実	23		43	
4	入谷 亮平	24		44	
5	大串 達緒	25		45	
6	小川 真	26		46	
7	片山 六郎	27		47	
8	黒沢 永紀	28		48	
9	田村 由樹	29		49	
10	辻川 智子	30		50	
11	長野 正毅	31		51	
12	成田 花緒里	32		52	
13	野崎 麻子	33		53	
14	藤田 茂	34		54	
15	堀田 毅	35		55	
16	松本 宗大	36		56	
17	八児 正紀	37		57	
18	山内 悟	38		58	
19		39		59	
20		40		事務局員	東京事務所 黒田 正代



フォローアップ塾研究成果報告

ナガサキポルトガルシルシル塾



塾長 山口 克己

■ 塾長コメント ■

今年の活動で我がナガサキポルトガルシルシル塾は三年目を迎えました。これまでの活動を基本的には継続しながらの内容でした。これまでは長崎からの視点で活動を進めてきたのが、今年度は他方面との交流をテーマに取り組みました。そこで気づかされることも多かった一年でした。歴史的にもいろいろな面で恵まれた長崎なのに、もっと活かせることができるのではないかと、思いながら活動しています。

「ナガサキ愛」をもっと強く、これからも活動していきます。

■ 塾の目的 ■

ナガサキと歴史的、文化的にもゆかりの深いポルトガル。そのポルトガルとナガサキ、ひいては日本とのつながりを多方面から学びながら、新たなナガサキの魅力アップのひとつとして、より多くの人にポルトガル「南蛮」を知ってもらえるように広めていきたいと願い、さまざまな分野の活動を行っています。人と文化のネットワークを少しでも広げたいと日々大海原に帆を広げて！

■ 塾の研究・活動内容 ■

平成24年7月 「ポルトガルからこんにちは！」と題し、リスボン在住でカステラのお店を営んでいる「カステラ・ド・パウロ」のパウロさんと奥様の智子さんをお迎えしてポルトガルと日本のお菓子のつながりについての講演会を実施。



[パウロさんと智子さん夫妻を囲んで]

平成24年9月 ポルトガルから日本とポルトガルの歴史研究に来日しているイネスさんにナガサキのポルトガルを紹介。市内各所のポルトガルポイントを案内しながらポルトガル人から見た歴史観の違いに驚くやら。

平成24年10月 「ポルトガルギターのマリオネット」を迎えてポルトガルとファドのよもやま話を中心に講演会とライブイベントを実施。楽しい話と感動の PG の音色に涙。



[歴史ある洋館でのトーク&ライブ]

平成 25 年 10 月 毎年交流を重ねている人吉市鍛冶屋町の立山茂氏を訪問し交流。

「うんすんかるた」を縁に、ポルトガルのアブランテス市と姉妹都市交流を続けている活動についてなどの苦労話で話し合い交流を広げる。

平成 24 年 11 月 ピースミュージアムにおいて企画展「ナガサキとポルトガル」を開催。活動の紹介とポルトガルの写真展、生活用品展示を開催。会場には一般の方も多数来場。



【たくさんの珍しい生活雑貨なども展示】

平成 25 年 1 月 国際交流イベント「ちゃんぽんフェスタ」に参加。セントポールやヴォスロール、ベトナムや韓国など国際交流の他の団体と交流。その昔の大航海をボードゲームにして子供たちに楽しみながら航海の道のりを学んで遊んでもらうイベントに参加。ポルトガルのことを少しでも伝えられた？



【アナログなボールゲームで大航海を体験！】

平成 25 年 2 月 11 月の企画展にもご協力をいただいたファディスタ津森久美子さんを迎えて「初級ポルトガル日常会話」講習会を実施。同時にフルセットでのファドライブも行われ、楽しい参加型ファドも体験。

平成 25 年 3 月 塾生の強い希望で「石見銀山研修旅行」を実施。石見銀山で活躍されているボランティア団体「石見銀山ガイドの会」会長の安立聖氏の案内ガイドで歴史ある銀山を案内していただく。



【大久保間歩・特別ツアーを案内する安立氏と参加した塾生一行】

石見愛にあふれた安立会長のお話に、ナガサキも負けてはいられない！と改めて実感です。

■ 塾活動の成果 ■

他の活動グループとの交流を広げ、多くの人にナガサキとポルトガルの文化交流を知ってもらえたと思います。まだまだ活動は続いていきます。「ナガサキ愛」を心に抱いて。

長崎ビューポイント探訪塾



塾長 村田 明久

■ 塾長コメント ■

長崎ビューポイント探訪塾は、平成 22・23 年度で、長崎の主なビューポイントを探訪し、そのビューポイントを冊子にして紹介してきました。

平成 24 年度は、継続塾として、まだまだたくさんある長崎のビューポイントの中から、日本一長い海岸線を切り口として、小高い丘や山頂付近、津々浦々から見える長崎固有の眺望の魅力を伝えるためにビューポイントの発掘と地域連携を模索しました。また、訪れた素晴らしい場所を特定するために、GPS を用いた座標管理を行いました。

まず、訪ねてみて、感動して、人に伝えて、繰り返し寄せくる波のように、変わらぬ景色を味わって欲しいと思っています。そして、その道すがら、地域のイベントや食、地域の人とふれあいながら、その地域の素晴らしさを堪能していただけたらと切に願っています。

長崎のビューポイントは、お互いに見る見られる関係にあり、入込んだ入江のように奥深く、場所の持つ歴史や特異性を知り、行くたびに新たな発見と感動があります。

今後も、ビューポイントから長崎を俯瞰し、地域を元気づける一筋の光を発信し続けたいと考えています。

■ 塾の目的 ■

海あり山ありの長崎では変化に富む眺望や情景が素晴らしい。港、町並み、史跡、自然などの地域らしさを特徴づけるビューポイントを直接に訪れて、その眺望に触れ、交流の場を楽しみ、展望場や景観地の発掘、場所性の良さを守り、育て、創るための提案をするのが目的です。

■ 塾の研究・活動内容 ■

1. 良好なビュー

2012 年 10 月に、長崎の夜景がモナコ、上海とともに新世界三大夜景に選定されました。いろいろな場所から展望ができ、魅力を磨き続けていることが評価されました。

長崎には、稲佐山、グラバー邸、鍋冠山以外にもたくさんのビューポイントがあります。

長崎の眺望は、朝、夕の時間毎や季節毎に移り変わり、多様な表情をみせます。特に、港や海へ開けるビューは、開放感と素晴らしさがあります。このような、長崎ならではの眺望を発見し、磨き、次の世代へつなげるような新たな可能性の種を探し続けています。

2. 現地探訪

月に 1 回程度の現地探訪と 10 月 17 日に、市民参加を募り、サンセットロードの夕日と大中尾棚田の火祭りのバス探訪を行いました。

3. つなぐ仕掛けづくり

(1) 見る・知る・伝える

近年では、耕作地や林野、展望所が荒れ、本来見えるはずの対象が見通せない場所が増えています。一方、よく知られた所は、多くの人が歩いた処が道となり、展望所の視界が確保され、良好な眺望が堪能できます。

特に、地域を見晴らせる場所は、愛着を感じるためにも、地域固有の良さや季節や時間を生かし、磨きをかけて、未来の子どもたちにつないでいくことが望めます。

(2) 守り・育て・創る

ただ見るだけでは、もったいない。せっかくなら、地域の方々とちょっと話したり、イベントの参加や交流を通し、地域を深く味わうことで、楽しい思い出づくりになります。

ビューポイント探訪と地域の生業、祭りや地域特有の料理を堪能することで、地域の賑わいや健康増進にもなり、相互扶助や地域連携が生まれます。

(3) 地域色の創出

地域の誇りとなる物や営みを見るビューポイントや地域の特産品、新たな魅力を地域の人とともに、具現化し、磨きながら、人を呼び寄せて、まちの人・物・事の育成につなげていく事が望めます。

■ 塾活動の成果 ■

1. ビュー探訪

長崎の海岸線の良さを伝えるために、長崎半島の東長崎、野母、長崎港、そして、西彼杵半島のサンセットロードと形上湾・尾戸半島沿いの海岸線の多くのビューポイントを探訪し、主に海岸線や港、地域を見晴らせる場や地域特有の生業やイベントがある場所、長崎名勝絵図にもある場所、また、船が似合う場所などもピックアップしてまとめました。集めたビューポイントは、さまざまな地域づくりのきっかけとして役立つものが満載です。

また今回は、地域のイベントや地域固有の味を食しながら探訪し、少しでも地域貢献につながるような取り組みを行いました。

特に、バス探訪で食べた大中尾棚田の新米のおにぎりや野母崎の伊勢海老まつりで食べた伊勢海老丼は参加者の皆さんから大好評でした。

2. バス探訪

当日は、午後半ばから雨が降り出し、サンセットロードの夕日は見られなかったものの、角力灘の島々を見ることができました。

大中尾棚田の火祭りも点火が遅れ、濡れて寒い中、途中で帰らざるを得ない残念な結果でしたが、点火に苦労する地域の人々の姿に触れ、ゆらめく炎に感動しました。

大中尾棚田の新米を使った料理や売り切れになった「かりんとう」などは、「美味しい、美味しい！」と参加者に大好評でした。おにぎりなどを作っていたいただいた地域の方々からもたいへん感謝されながら終えることができました。ご協力いただいた皆様、ほんとうにありがとうございました。m (_) m

バス探訪



旧出津救助院



黒崎教会

伊勢海老まつり



樺島一周



伊勢海老丼



つながり事業成果報告

まちづくりリーダー育成事業

ファシリテーター養成講座

■ 事業の目的 ■

これからの地域活動は、住民の地域に対する思いを緩やかに醸成し、地域全体で共有していくことにより、住民の主体性を引き出すことにある。「どう動かすか」ではなく、「どう巻き込むか」が重要であり、地域全体の主体性は、何度も顔を合わせ、話し合う中で信頼関係と共に生まれていくとも言える。

住民の共感と協働を得て、初めて地域が動き出すと考えると、その状況を作り出す役割が地域コーディネーターであり、本事業「つながり」をキーワードに、「地域コーディネーターの役割ができる人」を「まちづくりリーダー」と定義し養成する。

■ 養成する能力 ■

多様な意見を持つメンバーのチーム力を最大限に引き出す、コミュニケーション技術としてのファシリテーション能力

■ 受講対象者 ■

- ①長崎市にお住まいの方、又は、通学、通勤している方
- ②18歳（高校生を除く）～49歳までのまちづくり活動に関わっている方、また、まちづくり活動に興味がある方
- ③2年間通して受講できる方
- ④受講終了後、まちづくりリーダーとして長崎市のまちづくりにご協力いただける方

■ 参加人員 ■

H23年度に引き続きの2年目も継続受講する22名



講師 堀 公俊 氏

■ 講師略歴 ■

堀公俊事務所代表、組織コンサルタント、日本ファシリテーション協会フェロー研究会や講演活動を通じてファシリテーションの普及・啓発に努めている。元関西大学商学部非常勤講師、元法政大学キャリアデザイン学部兼任講師。

◆主な著書

『ファシリテーション入門』『ワークショップ入門』（ともに日経文庫）

『問題解決ファシリテーター』『組織変革ファシリテーター』（東洋経済新報社）など多数

◆経歴

1960年 神戸生まれ

1984年 大阪大学大学院工学研究科修了。大手精密機器メーカーにて商品開発や経営企画に従事。

1995年 組織改革、企業合併、教育研修、コミュニティ、NPOなど多彩な分野でファシリテーション活動を展開。

2003年 有志とともに日本ファシリテーション協会を設立し、代表者に就任。

平成 24 年度 まちづくりリーダー育成事業

ファシリテーター養成講座

平成 24 年 4 月 21 日(土)

・前年度の振り返り/ワークショップ講座



「ファシリテーター養成講座」の 2 年目がスタートしました。

前年度、基礎をしっかり学んだ受講生が顔を合わせ、堀先生の指導のもと昨年度の振り返りを行いました。集まった受講生からは、「やっぱり忘れとるね〜」、「ああ、そうやった!」などの声があがりました。また、ワークショップの組み立て方や実際の事例などから運営のポイントなどを学びました。受講者それぞれが 10 月に行われる実践研修に向けて、気を引き締めなおした様子うかがえました。

自主研修 平成 24 年 6 月 2 日(土)

平成 24 年 7 月 1 日(日)

平成 24 年 8 月 11 日(土)

平成 24 年 9 月 2 日(日)

・「ランタナワクワク大会議」に向けて



10 月に開催される「ランタナワクワク大会議」の運営・進行方法についてグループに分かれて、アイデアが出されました。出された意見をタイムスケジュールとしてまとめ、各グループの発表の後、当日の内容を決めました。



平成 24 年 10 月 20 日(土)
「ランタナワクワク大会議」



「市民活動表彰制度を考える」というテーマで開催された「ランタナワクワク大会議」に各テーブルファシリテーターとして参加しました。

ハッピーを身にまとったファシリテーターは、参加した市民活動団体の皆さんから、もらってうれしい表彰や賞品などのアイデアを出してもらい、会議を進めていきました。会議では出されたアイデアに参加者全員で「イイネ」マーク投票を行い、お互いに話し合った内容をたたえあいました。来年度は、皆さんのアイデアをもとに、つくられた表彰制度がスタートします。



平成 24 年 12 月 1 日(土)~2 日(日)
先進地視察研修「小値賀町アイランドツーリズム」



まちづくりの先進的な取り組みを学ぶため、小値賀町に視察研修へ行きました。担当者やホストファミリーとの意見交換などとおして、自分たちのまちや地域で何ができるかのヒントをそれぞれが考えるきっかけを見つけました。



平成 25 年 1 月 29 日(火)
ファシリテーター養成講座修了式



2 年間の養成講座を修了した受講生 22 名に、長崎伝習所大串事務局長から修了証書が手渡されました。



まちづくり先進地小値賀研修感想

佐世保からフェリーで3時間、高速船で2時間、海が荒れれば当然、渡航はできなくなり行くことも帰ってくることも出来なくなる。そんな離島でグリーン・ツーリズムという産業を興し、雇用を自ら生み出すことによって人口流出、高齢化を食い止め、島の暮らしとコミュニティを守り育てようという人たちがいると聞き、お話を伺いに行ってきた。

小値賀の試みは、現在2つの柱を中心に行われている。ひとつは住民の家に泊まらせていただき、たっぴりと（多少不便な）島の暮らしとホストファミリーとのコミュニケーションが満喫できる「民泊」。もう一つは、島の豪華な古民家をリノベーションし、ラグジュアリーな雰囲気な中、島の暮らしにも触れることができる「古民家泊」だ。他人とのコミュニケーションに不安がある方や、プライベートを確保したい方には、こちらがオススメだが、基本素泊まりで、食事は他の場所にある古民家レストランで食べることになるので、島の方と触れ合える機会はとても少ない。古民家泊を入りに小値賀の良さを満喫出来る民泊への誘導が出来れば、よりリピーターが増えるのでは無いただろうか。この二者は、相反するものではなく、補完しあえるものだと思った。(井上 馨)

●移住者安田さんに聞いて印象に残ったコトバ「移住の決め手はクリスマスシーズンに訪れた時、役場の美しいイルミネーションが職員の手作りだと聞いて、この人たちとなら楽しい事ができそうだと思った。」じげもんががんばってる姿が一番の土地の魅力かもしれない。

●民泊では郷土料理とともに出る杭は打たれ

る的な民泊間の折合いの難しさや会社への不満まで赤裸々に話してくれて参考になった。

●野崎島はトッピーの情熱が伝わってくるような話だったが、小値賀本島と合わせてどのようなシナリオを描いてガイドしているのかももっと深く聞いてみたかった。

●今月、東京で小値賀を紹介するイベントをしたようだが、そのチラシもすごくオシャレなものだった。最初につくりあげたイメージをずっと守っていく、その大切さをわかっている小値賀の戦略に倣いたい。ありがとうございました。(荒木智佳子)

民泊を体験するのは初めてだったので、少し不安な気持ちでしたが、受入先の夫妻がとても心のこもった対応をしてくださったのですぐに打ち解け、夕食の際には、笑い声の絶えない中で楽しい時間を過ごすことができました。

「民泊」という仕組みは、とても単純で、どこでも始められる取り組みのようですが、受入側の体制の整備や研修はもとより、何より、おもてなしの心がないと成り立たないと実感しました。

観光ガイドについては、少し料金設定が高いと感じましたが、プロ意識を持ち、質の高いガイドを養成していくためには、必要なかなと思いました。また、そのような高いと感じられる料金設定も、客層の4割を占めるという関東エリアにお住まいの方にとっては、それほどまでに負担に感じられないのかもしれないと思いましたが、その分、長崎県内や九州エリアの方には少し受け入れられにくいかもしれないと思いました。

また機会をつくって、小値賀を訪れてみたいと思います。(生駒太一)

小値賀に初めて訪れましたが想像以上に大きな島でした。また、島の方から昔のお話を聞きしましたが、私が育った樺島とはケタ違いにスケールの大きな島でもあったことに驚きました。しかし、基幹産業である水産業の衰退から島を離れる人々が増え続け、過疎化という全国各地と同じ問題を抱え、加えて隣島の宇久は佐世保市に合併しましたが、小値賀は合併しない道を選択したので、行政だけでなく島民も一緒に厳しい状況に立ち向かっているのがはっきりと感じられました。

今回の研修では小値賀のツーリズムについて、行政とNPOの役割や取り組みについて学びましたが、なかでも民泊体験では、友人が家族のようにお客様扱いせずに接してくれたことに感激しました。民泊体験は3回目ですが、手料理と楽しい会話のなかに大きな心遣いが感じられ、これこそ小値賀のツーリズムが県外をはじめ海外からも多くの人に支持されリピーターにもつながっている理由であると確信しました。

今回の研修で学んだ多くのこととネットワークを今後の地域づくりに活かしたいと思います。(岡本勇一)

古民家を再生し島の活性化を行うプロジェクトが成功され全国から予約が殺到と聞いていたので、どのような仕組みなのかととても興味がありなにかヒントになればと研修を楽しみに行きました。

実際に再生の仕組みや民泊にて島の人の話を聞く中で、急激にプロジェクトが成功したため、仕掛け側と住民との意識の違いがあることが分かり、古民家に関しては実際に訪れた方からクレームもあるようで、食事、接客等、広告(イメージ)が先走りしている現状も

あるようです。

1ターンもあるようですが実際は移り住みたくても住居がなく、運良く暮らせても理想とのギャップで島を離れる人もおられるようです。

住民の方々はまずは島から出なくても働ける環境が整えられることを望まれており、重要なのだと感じました。

また、島のお土産(お菓子類)が少なく残念で観光客が来ても買い物をすることができずせっかくの収入源を逃していると思うので早急にお土産でも収益を挙げる仕組みを作り雇用促進につなげられればと思いました。

(小川真結美)

小値賀島という名前は、長崎のメディアや友人などから聞いて一度行ってみたいと思っていた。しかし民泊という体験はした事がなかったので、どんな感じなのか不安と期待が入り混じっていた。

民泊先のお母さんと会って、本当のお母さんのように私達をあたたく迎えてくれ、色々とお話をするうちにすぐに打ち解けた。

お母さんは、大分生まれだったが、「芝生の島」という小値賀のふれこみが気になり小値賀に遊びに来たのがきっかけで島に来たという1ターンの走りだそうで、視野が広く色々な事に興味を持つ人だという印象を受けた。

お母さんが言う事には、アイランドツーリズムの人や、それを支えるスタッフにも1ターンがいて、すごく頑張ってくれているのはよく分かるし、島民としてもすごく嬉しい。彼らが来てくれなかったら今の小値賀はないだろう。しかし、あまり大きな目標を掲げられると島民がついて行けていない所もあるという。1ターン組みと島民の間での問題が尽

きないとツーリズムのスタッフが言っていた意味が、民泊をする事でいい事も悪い事も生の声を聞いて少し垣間見えた。

野崎島は、廃屋など強烈なインパクトがあり、どこを見てもすごく興味深かった。それを管理していく側には、大変な苦勞があると思うが、これからも頑張って保存して、島の事を伝えて行って欲しいと思い、早速県外に住む友人にも是非見に行くように進めた。

長崎には、まだまだたくさんの宝が埋まっていると思う。それを活かすも殺すも人の力だと今回の訪問でつくづく感じた。長崎市は、友人に教えたくないような観光地なのだろうか？長崎の良いところと悪いところ、県外の人の意見を聞いてみたいと思った。

(高野繭子)

《12月1日(土)》

- 移動時間(交通手段)について
県営バス長崎ターミナル(8:00)→佐世保バスセンター(9:25)まで約1時間30分
佐世保港(10:35)→おぢか港(13:50)まで約3時間の合計4時間30分という長時間の移動になかなか行けない特別な場所であり、こんな不便な場所に人が集まるのはなぜか？疑問を抱きました。
- おぢかアイランドツーリズムの説明
本土と遠く離れた小さな島だけに仕事場がなく、若い世代が流出し、過疎高齢化がすすむ町をどうするか？全国で起きている現象を島そのものの良さを観光にしようという働きはどこにでもある話のようにも聞こえます。
ではなぜ、小値賀は脚光を浴びているのか？説明を聞くと、H7に観光協会、H12

に自然学校、H18に民泊組織が発足。そして3つの組織が合併し、『NPO法人おぢかアイランドツーリズム協会』となったことで、①窓口の一本化②責任の明確化③民間経営とサービス向上が実った効果と言われていました。町づくりが行政任せでなく、企業・住民も一緒に動くことの大切さを感じました。

- 民泊を体験して
民泊は初体験であり、普通のおじちゃん・おばちゃんの家泊まることのどこに魅力があるのか？正直、疑問がありましたが、経験してみると・・・、しっかり裏切ってもらえました。①プロでなく、島民だから②宿泊でなく体験だから③商売でなく、人が好きだからと泊まった人に喜んでもらいたいという純粋な気持ちがピンピン伝わり、素直に嬉しかったです。

《12月2日(日)》

- 無人島を体験して
人がいない静けさと、きれいな景色。ゆっくりと歴史を聞きながらの散策は、便利になることの良さと問題点を考えさせられました。この島でのキャンプは、夜を迎えるとどんな思いになるのだろうと想像しました。こんな体験は、子供の教育にも魅力的だなと思いました。
- 古民家レストラン
古民家好きの自分にとって、建物の雰囲気は居心地がよく食事も一味違うものとなり、夫婦でゆっくり出来たら良いなと思いました。
- お別れ
フェリーは、別れを演出するのに最高の乗り物だな～と感じました。

《最後に》

この研修を体験して本当に良かったと思います。ありがとうございました。町づくりは行政だけでなく、住民も一緒に形をすることで『ブランド化』し、それを継続することで『つながり』ができ、皆が楽しんでいました。また、皆が純粋な『おもてなし』ができるから、その魅力にリピーターが広がるとおもいました。そんな便利なサービスでなく、不便さ（アナログ）も気持ちが伝わるからこそ、凄いサービスになるのだと気付かされた研修でした。（奈良崎博一）

私は今回の研修旅行で「民泊体験」と「野崎島巡り」が印象に残りました。まず、「民泊体験」では宇戸さんという漁師さんのお宅に泊まりました。新鮮なお魚や家の畑で採れた無農薬のお野菜を使って、お母さんとお話ししながら食事の用意をしたのがとても楽しく、最近では日常に追われてこういうことができないうなあと思いました。その後の食事でも、お母さんからは昔インドに旅行に行った話や小値賀に来るきっかけなど、スタッフの歌野さんからは小値賀に対する熱い思いや日々の葛藤などを伺うことができ、運営する方たちの生の声が聴けて本当に良かったです。

次に「野崎島巡り」では前田さんの分かりやすい説明を受け、珍しい植物や鹿などを見ながら島内を回りました。島の人たちが生活費を節約して 2,000 万という大金を作って建造した教会の話が強く心に残っています。最後にテレビでよく見るテープを使ったお見送りもできて、本当に名残惜しく、また是非小値賀に足を運びたいと思いました。

（森山美代）

船酔いの心配、そして民泊という未知の体験への不安があったため、今回の研修にはあまり乗り気ではなかったものの、行って正解でした。

民泊先のブーさんとミホさんの優しい笑顔、おいしい料理にすぐに体も心もほぐれ、楽しい時間を過ごすことができました。リピーターが多いのも納得できます。

ブーさんと話してみても少し意外だったのが、民泊はあまり儲からないということ。時間的な拘束時間等も長く、料理の材料を購入したりするとお金はほとんど手元に残らないので、人とのふれあい、小値賀が好きじゃないとやっていけないということでした。地域の活性化には、人の心が大事と何度か研修で聞いたことがありますが、現場で生の声を聴くことでよかったです。

また、小値賀は野崎島、昔ながらの生活体験など今あるものを磨いて地域活性化のツールとして徐々に成長してきたが、すべての住民が賛成しているわけではなく、そういうものに反対した町長が選挙に当選したというのも意外でした。確かに反対派住民がいるとは思っていましたが、まさか反対派が町長になるとは。小値賀という小さい島でも住民の意見を一つにすることはできないという現実を目の当たりにし、『まちづくり』はすべての住民を一気に巻き込んでいくことはできないため、一步一步地道に進んでいくことが大事だなあと実感した研修でした。（吉岡利章）

ファシリテーター養成講座活動記録

日 時	場 所	内 容
平成 24 年		
4 月 21 日(土)	長崎市社会福祉会館 4 階	第 1 回 前年度の振り返り
6 月 2 日(土)	長崎市社会福祉会館 4 階	第 2 回 自主研修
7 月 1 日(日)	長崎市社会福祉会館 4 階	第 3 回 自主研修
8 月 11 日(土)	長崎市社会福祉会館 4 階	第 4 回 自主研修
9 月 2 日(日)	長崎市社会福祉会館 4 階	第 5 回 プログラムの発表とフィードバック
10 月 20 日(土)	メルカつきまちホール	第 6 回 ランタナワクワク大会議
11 月 11 日(日)	長崎市社会福祉会館 4 階	第 7 回 振り返り 職場、地域での実践に向けて
12 月 1 日(土) ～2 日(日)	小値賀町	先進地視察研修 「グリーンツーリズムによるまちおこし」
平成 25 年		
1 月 29 日(火)	ランタナ	修了式 今後の活動について
3 月 18 日(月)	ランタナ	伝習所まつり展示打合せ会 ・展示、演習、配置計画確認
3 月 20 日 (水・祝)	ベルナード観光通り	長崎伝習所まつり ・パネルの展示、演習実施

ファシリテーター養成講座

講師	堀 公俊				
1	相川 真里香	21	山口 雅也		
2	荒木 智佳子	22	吉岡 利章		
3	生駒 太一				
4	井上 馨				
5	今里 佳重				
6	岡本 勇一				
7	小川 真結美				
8	角野 悠				
9	木村 敏穂				
10	小林 央幸				
11	貞住 史華				
12	関根 志朗				
13	高野 繭子				
14	中村 雅博				
15	奈良崎 博一				
16	原田 宏子				
17	平山 由美				
18	松本 俊一				
19	森内 好子				
20	森山 美代				

自分新化講座の概要

広く市民の皆さんに対して、様々な分野においてわが国のトップクラスの方々と接する機会を設けることにより視野を広め、長崎の活性化に向けて行動するきっかけづくりとし、併せて市内外への長崎伝習所の認知度を高めようと平成23年度から開催しています。

平成24年度は、さだまさし氏(歌手・作家)にプロデュースをお願いし、その交友関係の中から、バラエティに富んだ講師陣をご紹介いただき、「さだまさしの仲間たち」と題して全6回で開催しました。

概要

開催回数：平成24年8月から平成25年2月までの間に6回開催

会場：長崎ブリックホール国際会議場

対象：一般・学生(高校生・大学生)

聴講料：前売券4,000円(全6回分)、

当日券：一般1,000円/回、

当日券：学生500円/回

前売券販売開始：7月9日(月)

前売券販売場所：長崎市役所(生協売店)、
長崎市市民活動センター(長崎伝習所事務局)、
長崎ブリックホール(カッタカッタ)、
浜屋プレイガイド、ナガサキピースミュージアム



田上総長のあいさつ



長崎伝習所の取り組みも紹介



講演会前は講師紹介のDVDなどを放映



毎回多くの聴講者で賑わいました

第1回

日 時：平成 24 年 8 月 17 日(金)

19:00~21:00

講 師：西高辻信良氏(太宰府天満宮 宮司)

テーマ：「過去から未来へ
～1100年のバトン～」

入場者数：312人



西高辻信良氏



「長いスパンで未来を考えよう」



多くの聴講者が引き込まれました

第2回

日 時：平成 24 年 10 月 2 日(火)

19:00~21:00

講 師：原田泰治氏

(画家・グラフィックデザイナー)

テーマ：「一本の道」

入場者数：305人



原田泰治氏



「故郷の色々なものを大事にしてほしい」



ご自身の人生から家族の絆について話されました

第3回

日 時：平成 24 年 11 月 24 日(土)
14:00~16:00

講 師：中嶋千尋氏(プロゴルファー)

テーマ：「不可能を可能にする思考力」

入場者数：210 人



中嶋千尋氏



「ピンチの時ほど面白いがること」



実体験に基づく教訓に聴講者も納得

第4回

日 時：平成 24 年 12 月 26 日(水)
19:00~21:00

講 師：佐伯司朗氏(宮内庁文書専門員)

テーマ：「宮内庁文書専門員として」
「今、私が考えている”書”について」

入場者数：215 人



佐伯司朗氏



「新たな一面を持つことで、人間は大きくなる」



作品がラウンジスペースに展示されました

第5回

日 時：平成 25 年 1 月 18 日(金)

19:00~21:00

講 師：吉田潤喜氏(ヨシダソース創業者・
ヨシダグループ会長)

テーマ：「人生も商売も、出る杭うたれて何ぼ
やで。～金儲けでなく人儲けや!～」

入場者数：252 人



吉田潤喜氏



「100%の情熱を持つことが大切」



講師の迫りに圧倒されました

第6回

日 時：平成 25 年 2 月 18 日(月)

19:00~21:00

講 師：さだまさし氏(歌手・作家)

テーマ：「最終章」

入場者数：450 人



さだまさし氏



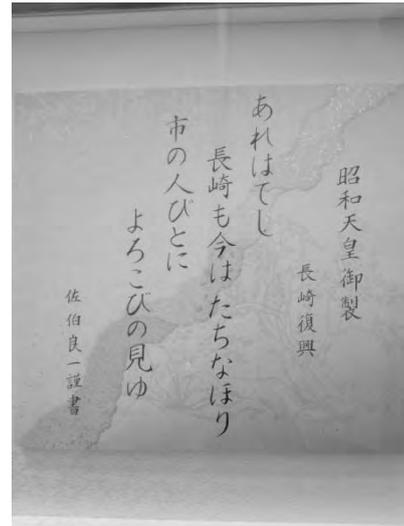
「初期化して考えよう」



田上総長から花束贈呈後、講座を締めくくりました



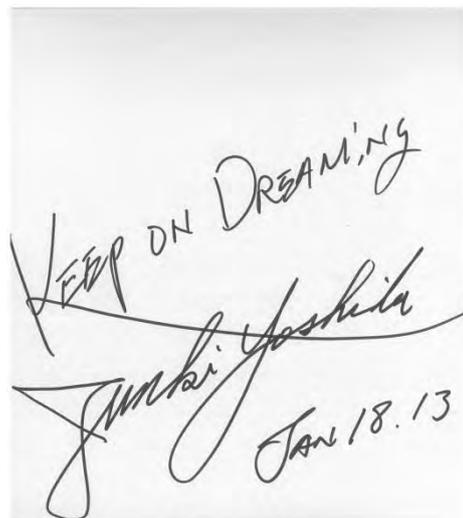
西高辻信良氏



佐伯司朗氏



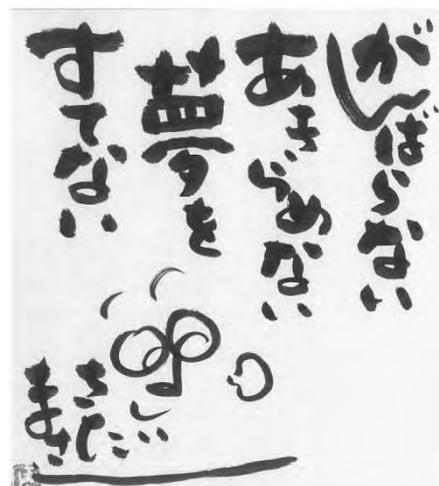
原田泰治氏



吉田潤喜氏



中嶋千尋氏



さだまさし氏



資 料 編

塾卒業者数の変遷

〔ハイテク塾・長崎伝習所〕

昭和61年度	塾長	卒業生数	男性	女性
海洋開発塾	黒瀬 正行	23名	23名	一名
流通塾	宮原 泰治郎	24名	21名	3名
バイオ塾	鴨川 秀俊	31名	31名	一名
工業システム開発塾	高岡 則彦	22名	21名	1名
メカトロニクス塾	平田 泰郎	21名	20名	1名
海洋システム塾	利光 一紀	23名	23名	一名
都市デザイン塾	岡林 隆敏	26名	24名	2名
観光開発塾	岩永 明士	21名	20名	1名
建築塾	鉄川 進	20名	20名	一名
基礎講座塾	伝習所事務局	33名	26名	7名
総 数	10塾	244名	229名	15名

昭和62年度	塾長	卒業生数	男性	女性
海洋開発塾	高橋 和雄	17名	17名	一名
AI塾	谷口 良輔	15名	13名	2名
マイコン制御塾	小笹 裕	12名	12名	一名
建築塾	池田 賢一	18名	15名	3名
ニュービジネス研究塾	久保 一雄	27名	27名	一名
都市デザイン塾	浜永 孝雄	32名	27名	5名
イベント研究塾	田上 俊一	25名	25名	一名
来庵交流塾	ブライアン・パークガフニ	27名	12名	15名
'87紅塾	竹中 晴美	23名	一名	23名
長崎食文化塾	本田 時夫	21名	8名	13名
総 数	10塾	217名	156名	61名

昭和63年度	塾長	卒業生数	男性	女性
ニュービジネス研究塾	下山 重次	28名	24名	4名
長崎グランドデザイン塾	黒瀬 正行	17名	17名	一名
ニューメディア研究塾	木室 和孝	14名	13名	1名
長崎都市探検塾	吉岡 宣孝	23名	13名	10名
シティーリニューアル塾	大草 一俊	22名	17名	5名
来庵交流塾	林 敏幸	20名	9名	11名
'88紅塾	竹中 晴美	24名	一名	24名
長崎CM塾	中村 聡	14名	10名	4名
塾「花集」	北郷 雅子	15名	7名	8名
伝習所おまかせ塾	伝習所事務局	一名	一名	一名
総 数	10塾	177名	110名	67名

平成元年度	塾長	卒業生数	男性	女性
カード研究塾	山下 国広	22名	19名	3名
経営活性塾	前田 慎一郎	20名	15名	5名
造船塾	坂本 伸慈	17名	17名	一名
都市演出研究塾	大草 一俊	46名	32名	14名
長崎工芸塾	竹田 克人	19名	14名	5名
風力発電研究塾	平井 隆市	25名	20名	5名
“まちづくりと商店街”塾	佐藤 秀人	27名	15名	12名
総 数	7塾	176名	132名	44名

平成2年度	塾長	卒業生数	男性	女性
風力発電研究塾	平井 隆市	26名	22名	4名
長崎・サウンドデザイン塾	吉岡 宣孝	19名	10名	9名
都市夢塾	林 一馬	46名	30名	16名
長崎工芸塾	浜脇 昌盛	17名	11名	6名
長崎観光・物産塾	下山 重次	21名	18名	3名
港元気塾	平山 敏	28名	25名	3名
三重トピア塾	田川 茂	16名	16名	一名
総 数	7塾	173名	132名	41名

〔長崎伝習所〕

平成3年度	塾長	卒業生数	男性	女性
長崎・サウンドデザイン塾	吉岡 宣孝	23名	12名	11名
商店GUYSクリエイティブ・ネットワーク塾	山下 国広	20名	20名	一名
こどもたちの夢広場塾	猪山 勝利	32名	25名	7名
都市夢塾Ⅱ	渡部 雅弘	56名	43名	13名
来庵交流塾	岡部 道夫	25名	16名	9名
リサイクル文化研究塾	糸山 景大	45名	31名	14名
稲佐山元気塾	松原 一成	16名	14名	2名
総 数	7塾	217名	161名	56名

平成4年度	塾長	卒業生数	男性	女性
リサイクル文化研究塾	糸山 景大	37名	28名	9名
サウンドデザイン塾	吉岡 宣孝	18名	10名	8名
こどもたちの夢広場塾	猪山 勝利	46名	30名	16名
長崎都市夢塾	上野 皓士	46名	32名	14名
国際交流塾	牛嶋 洋一郎	82名	47名	35名
居留地未来塾	西 武宏	47名	39名	8名
港再生塾	浦川 貴隆	29名	26名	3名
総 数	7塾	305名	212名	93名

平成5年度	塾長	卒業生数	男性	女性
長崎都市夢塾	宮原 和明	53名	38名	15名
リサイクル文化研究塾	糸山 景大	38名	31名	7名
居留地未来塾	黒崎 邦博	41名	31名	10名
国際交流塾	牛嶋 洋一郎	100名	33名	67名
エコ・デザイン研究塾	渡部 雅弘	37名	27名	10名
遊びデザイン塾	藍葉 忠之	18名	12名	6名
文化・地域活性化塾	猪山 勝利	25名	13名	12名
ふれあい福祉21塾	牛津 信忠	35名	13名	22名
総 数	8塾	347名	198名	149名

平成6年度	塾長	卒業生数	男性	女性
国際交流塾	牛嶋 洋一郎	110名	43名	67名
おんな達の素朴な？塾	磯田 朋子	36名	一名	36名
NG発見塾	有馬 一郎	26名	23名	3名
よか・余暇・環境デザイン塾	前田 卓郎	19名	9名	10名
長崎表現塾	横田 嗣	18名	15名	3名
いのち・くらし・共育塾	山本 いま子	31名	14名	17名
都夢創野塾	藍葉 忠之	15名	9名	6名
文化ニューウェイブ塾	猪山 勝利	23名	10名	13名
エコ・デザイン塾	渡部 雅弘	27名	20名	7名
リサイクル文化研究塾	糸山 景大	33名	21名	12名
居留地未来塾	宮本 博文	41名	35名	6名
都市夢塾	野田 茂	32名	20名	12名
総 数	12塾	411名	219名	192名

平成7年度	塾長	卒業生数	男性	女性
都市夢塾	阿野 史子	40名	21名	19名
エコ・デザイン研究塾	渡部 雅弘	22名	17名	5名
国際交流塾	牛嶋 洋一郎	166名	59名	107名
出島ルネッサンス塾	松原 一成	17名	12名	5名
ソフトエネルギー研究塾	平井 隆市	27名	21名	6名
フィールド自遊塾	前田 卓郎	28名	16名	12名
NG発見塾	有馬 一郎	25名	20名	5名
上海塾	藍葉 忠之	28名	19名	9名
おんな達の素朴な？塾	二宮 節子	32名	一名	32名
平成の海援隊塾	柴田 恵司	30名	21名	9名
都夢創野塾	浜田 勇	34名	19名	15名
いのち・くらし・共育塾	山本 いま子	22名	10名	12名
リサイクル文化研究塾	糸山 景大	21名	14名	7名
総 数	13塾	492名	249名	243名

平成8年度	塾長	卒業生数	男性	女性
都市夢塾	山口 美智子	39名	25名	14名
リサイクル文化研究塾	糸山 景大	23名	14名	9名
国際交流塾	牛嶋 洋一郎	263名	98名	165名
エコ・デザイン研究塾	杉山 和一	22名	17名	5名
いのち・くらし・共育塾	山本 いま子	41名	17名	24名
フィールド自遊塾	前田 卓郎	25名	13名	12名
おんな達の素朴な？塾	森 郁子	40名	一名	40名
都夢創野塾	柴田 貞志	15名	7名	8名
出島ルネッサンス塾	松原 一成	24名	17名	7名
平成の海援隊塾	早田 猛	29名	17名	12名
21世紀長崎産品塾	徳勝 盛敏	19名	14名	5名
ドリーム&エンジョイライブラリー塾	川口 綾子	58名	13名	45名
総 数	12塾	598名	252名	346名

平成9年度	塾長	卒業生数	男性	女性
都市夢塾	中山 千賀子	35名	25名	10名
リサイクル文化研究塾	糸山 景大	32名	12名	20名
エコ・デザイン研究塾	杉山 和一	22名	15名	7名
国際交流塾	牛嶋 洋一郎	290名	112名	178名
出島ルネッサンス塾	松原 一成	22名	17名	5名
ドリーム&エンジョイライブラリー塾	川口 綾子	64名	44名	20名
NAGASAKIキラメキ☆シネマ塾	溝口 昌喜	18名	6名	12名
なんでんかんでん都市(まち)のデジタル探検隊塾	小久保 徳子	55名	36名	19名
総 数	8塾	538名	267名	271名

平成10年度	塾長	卒業生数	男性	女性
坂のまちなんでんかんでん研究塾	栗原 正紀	60名	41名	19名
平成の紅塾	竹中 晴美	16名	一名	16名
コーポラティブ住まい塾	塩田 真由美	21名	13名	8名
NAGASAKIキラメキ☆シネマ塾	溝口 昌喜	18名	12名	6名
ネットワークコミュニティ「都市のデジタル探検隊塾」	小久保 徳子	38名	24名	14名
夢いっぱい!としょかん塾	尾崎 寿美	34名	8名	26名
出島ルネッサンス塾	松原 一成	19名	13名	6名
国際交流塾	牛嶋 洋一郎	295名	127名	168名
総 数	8塾	501名	238名	263名

平成11年度	塾長	卒業生数	男性	女性
ごみとくらし研究塾	山本 幸代	46名	19名	27名
長崎くんち塾	安達 征治	87名	80名	7名
記憶の中の長崎案内塾	太田 恭子	29名	18名	11名
坂のまちなんでんかんでん研究塾	栗原 正紀	56名	37名	19名
NAGASAKIキラメキ☆シネマ塾	溝口 昌喜	17名	10名	7名
ネットワークコミュニティ「インターネット探検塾」	小久保 徳子	52名	30名	22名
夢いっぱい!としょかん塾	尾崎 寿美	48名	12名	36名
出島ルネッサンス塾	松原 一成	18名	11名	7名
総 数	8塾	353名	217名	136名

平成12年度		塾長	卒業生数	男性	女性
長崎ぶらぶら踊り塾	「行」	宗 保孝	78名	24名	54名
バグパイプ塾	「行」	廣高 信彦	26名	10名	16名
ヤンコ踊り塾	「行」	陳 東華	53名	7名	46名
歩いて楽しむ長崎まちづくり塾	「市」	矢川 正男	29名	20名	9名
エコシティ研究塾	「市」	宮原 和明	33名	24名	9名
ごみとくらし研究塾	「市」	山本 幸代	41名	12名	29名
記憶の中の長崎案内塾	「市」	藤城 薫	22名	14名	8名
総 数		7塾	282名	111名	171名

※平成12年度から従来の「市民提案型」の塾に、「行政提案型」の塾を加え、市民と行政が協働による、魅力あるまちづくり事業を展開している。
「市民提案型」を「市」、「行政提案型」を「行」と表記している。

平成13年度		塾長	卒業生数	男性	女性
観光長崎バリアフリー創造塾	「市」	後藤 恵之輔	26名	23名	3名
わが町の達人・名人さがし塾	「市」	入枝 一男	21名	14名	7名
エコシティ研究塾	「市」	宮原 和明	33名	26名	7名
歩いて楽しむ長崎まちづくり塾	「市」	矢川 正男	32名	23名	9名
出島事始め塾	「行」	宮川 雅一	19名	11名	8名
<small>にいまるまるいち</small> 2001女性塾	「行」	脇山 順子	18名	一名	18名
<small>げんき</small> 長崎源木発見塾	「行」	赤瀬 憲市	32名	25名	7名
くらしと環境研究塾	「行」	木村 一生	53名	22名	31名
長崎ぶらぶら踊り塾	「行」	宗 保孝	116名	13名	103名
ヤンコ踊り塾	「行」	陳 東華	80名	7名	73名
バグパイプ塾	「行」	廣高 信彦	20名	8名	12名
総 数		11塾	450名	172名	278名

平成14年度		塾長	卒業生数	男性	女性
2002長崎サウンドデザイン塾	「市」	吉岡 宣孝	14名	5名	9名
命とからだ探検隊塾	「市」	安日 泰子	61名	4名	57名
エコな街づくり研究塾	「市」	李 桓	35名	27名	8名
観光長崎バリアフリー創造塾	「市」	後藤 恵之輔	28名	25名	3名
わが町の達人・名人さがし塾	「市」	入枝 一男	25名	12名	13名
「長崎刺繍」再発見塾	「行」	嘉勢 路子	19名	一名	19名
長崎の染塾	「行」	砂崎 素子	28名	1名	27名
長崎やけんステンドグラス塾	「行」	橋口 都	17名	3名	14名
河川環境研究塾	「行」	富工 妙子	45名	27名	18名
ごみ夢中塾	「行」	矢野 博巳	32名	10名	22名
出島事始め塾	「行」	宮川 雅一	33名	17名	16名
<small>にいまるまるいち</small> 2001女性塾	「行」	脇山 順子	15名	一名	15名
<small>げんき</small> 長崎源木発見塾	「行」	赤瀬 憲市	45名	25名	20名
長崎ぶらぶら踊り塾	「行」	宗 保孝	77名	8名	69名
ヤンコ踊り塾	「行」	陳 東華	84名	9名	75名
バグパイプ塾	「行」	廣高 信彦	28名	12名	16名
総 数		16塾	586名	185名	401名

平成15年度		塾長	卒業生数	男性	女性
生き生き園芸長崎塾	「市」	井石 八千代	44名	11名	33名
No!ドメスティック・バイオレンス塾	「市」	悦 晴美	32名	4名	28名
長崎まちづくり事業化研究塾	「市」	増倉 康久	25名	7名	18名
長崎ビジネス活性化塾	「市」	大崎 孝徳	34名	8名	26名
環境ネットワークながさき塾	「市」	宮原 和明	41名	24名	17名
長崎銀細工研究塾	「行」	酒井 美枝	20名	3名	17名
長崎陶芸復興塾	「行」	藤原 清一	33名	7名	26名
「長崎刺繍」再発見塾	「行」	嘉勢 路子	27名	一名	27名
長崎の染塾	「行」	平田 素子	33名	一名	33名
長崎やけんステンドグラス塾	「行」	小笹 悦二	16名	3名	13名
新・竹取物語塾	「行」	森 昇	26名	16名	10名
生ごみシェイパーズ塾(生ごみ減らし隊)	「行」	山口 八重子	22名	6名	16名
河川環境研究塾	「行」	富工 妙子	45名	28名	17名
出島事始め塾	「行」	宮川 雅一	31名	17名	14名
総 数		14塾	429名	134名	295名

平成16年度		塾長	卒業生数	男性	女性
長崎チェス塾	「市」	牛嶋 洋一郎	31名	24名	7名
「いつも青春」塾	「市」	田口 育子	14名	4名	10名
長崎の歴史再発見塾	「市」	小嶺 昭典	38名	23名	15名
No!ドメスティック・バイオレンス塾	「市」	悦 晴美	28名	5名	23名
長崎まちづくり事業化研究塾	「市」	矢川 正男	30名	24名	6名
環境ネットワークながさき塾	「市」	宮原 和明	45名	25名	20名
長崎の食 探検塾	「行」	宍戸 直嗣	19名	3名	16名
生きもの再生塾	「行」	引地 秀司	44名	26名	18名
新・竹取物語塾	「行」	森 昇	28名	20名	8名
生ごみシェイパーズ塾(生ごみ減らし隊)	「行」	山口 八重子	63名	19名	44名
総 数		10塾	340名	173名	167名

平成17年度		塾長	卒業生数	男性	女性
長崎の産業文化今昔物語塾	「市」	余語 保博	25名	23名	2名
長崎弁研究塾	「市」	田川 文夫	41名	19名	22名
メディエーション(対話術)研究塾	「市」	梅枝 眞一郎	22名	16名	6名
長崎チェス塾	「市」	牛嶋 洋一郎	25名	16名	9名
長崎の歴史再発見塾	「市」	小嶺 昭典	37名	24名	13名
オブジェ塾	「行」	川西 庄次	17名	16名	1名
長崎の食 探検塾	「行」	宍戸 直嗣	31名	3名	28名
生きもの再生塾	「行」	引地 秀司	36名	21名	15名
生ごみシェイパーズ塾(生ごみ減らし隊)	「行」	山口 八重子	73名	20名	53名
総 数		9塾	307名	158名	149名

平成18年度		塾長	卒業生数	男性	女性
ちよいわる団塊世代の面白発見塾	「市」	新田 照夫	17名	10名	7名
長崎)月の文化研究塾	「市」	山崎 讓	16名	4名	12名
舞台裏おじゃま塾	「市」	栢田 尚子	13名	4名	9名
長崎の産業文化今昔物語塾	「市」	余語 保博	23名	16名	7名
長崎弁研究塾	「市」	田川 文夫	42名	18名	24名
メディエーション研究塾(対話による問題解決術)	「市」	梅枝 眞一郎	33名	19名	14名
市民オブジェ塾	「行」	川西 庄次	17名	17名	一名
パートナーシップ塾	「行」	西岡 由香	13名	2名	11名
長崎出島楽坊塾	「行」	林 弘美	43名	6名	37名
総 数		9塾	217名	96名	121名

平成19年度		塾長	卒業生数	男性	女性
長崎うんすんかるた塾	「市」	大場 勝彦	31名	16名	15名
新長崎市の史跡探訪塾	「市」	田端 光男	54名	37名	17名
長崎ステーキホルダー会議塾	「市」	杉山 和一	41名	23名	18名
CM伝塾	「市」	吉光 正絵	25名	5名	20名
ながさき・ぶらんど創新(イノベーション)塾	「市」	谷口 竜一	42名	30名	12名
残しておきたい長崎ポートレート塾	「市」	矢川 正男	26名	23名	3名
長崎2月の文化研究塾	「市」	山崎 譲	12名	2名	10名
舞台裏おじゃま塾	「市」	柘田 尚子	12名	5名	7名
メディエーション研究塾～紛争解決から学ぶ快適コミュニケーション術～	「市」	梅枝 眞一郎	25名	12名	13名
市民オブジェ塾	「行」	川西 庄次	16名	10名	6名
パートナーシップ塾	「行」	西岡 由香	17名	3名	14名
長崎出島楽坊塾	「行」	西崎 寛弘	46名	7名	39名
総 数		12塾	347名	173名	174名

平成20年度		塾長	卒業生数	男性	女性
発見！実現！体験学習塾	「市」	吉田 伸吾	46名	27名	19名
おはなし音楽塾～親子で楽しむ音楽ものがたり～	「市」	池田 祐希	18名	2名	16名
「エコ名人を探せ！」塾	「市」	佐藤 恵	23名	6名	17名
長崎うんすんかるた塾	「市」	大場 勝彦	38名	17名	21名
新長崎市の史跡探訪塾	「市」	田端 光男	56名	37名	19名
長崎ESTステーキホルダー会議塾	「市」	杉山 和一	33名	23名	10名
ながさき・ぶらんど物語(イノベーション)塾	「市」	谷口 竜一	24名	16名	8名
CM伝塾	「市」	吉光 正絵	32名	4名	28名
総 数		8塾	270名	132名	138名

平成21年度		塾長	卒業生数	男性	女性
川さるく森・川・里・海塾	「市」	兵働 馨	36名	18名	18名
長崎洋館音楽舞踏塾	「市」	榎山 智子	24名	11名	13名
発見！ながさき遺産塾	「市」	川瀬 智子	18名	10名	8名
発見！実現！体験学習塾	「市」	吉田 伸吾	53名	32名	21名
「エコ名人を探せ！」塾	「市」	佐藤 恵	26名	11名	15名
「龍馬伝と幕末人物」塾	「行」	三丸 正紀	59名	41名	18名
在京長崎応援団塾～長崎を外から見る～	「行」	深野 浩平	30名	24名	6名
総 数		7塾	246名	147名	99名

平成22年度		塾長	卒業生数	男性	女性
「ながさきポルトガル」知る知る塾	「市」	山口 克己	39名	18名	21名
長崎ビューポイント探訪塾	「市」	村田 明久	29名	19名	10名
川さるく 森川里海塾	「市」	兵働 馨	21名	12名	9名
長崎洋館音楽舞蹈塾	「市」	槇山 智子	26名	16名	10名
発見！ながさき遺産塾	「市」	川瀬 智子	27名	18名	9名
「龍馬伝と幕末人物」塾	「行」	三丸 正紀	54名	35名	19名
在京長崎うまかもん塾	「行」	片山 六郎	49名	37名	12名
総 数		7塾	245名	155名	90名

平成23年度		塾長	卒業生数	男性	女性
ナガサキポルトガルシルシル塾	「市」	山口 克己	27名	11名	16名
長崎ビューポイント探訪塾	「市」	村田 明久	21名	13名	8名
坂のまち長崎なのに自転車塾	「市」	村里 静則	60名	49名	11名
孫文・梅屋庄吉と明治大正長崎事情塾	「市」	村崎 春樹	41名	24名	17名
長崎の町ねこ調査隊塾	「市」	中島 由美子	30名	9名	21名
在京長崎うまかもん塾	「行」	片山 六郎	25名	19名	6名
総 数		6塾	204名	125名	79名

平成24年度		塾長	卒業生数	男性	女性
長崎の町ねこ調査隊塾	「市」	中島 由美子	31名	11名	20名
孫文・梅屋庄吉と明治大正長崎事情塾	「市」	村崎 春樹	33名	18名	15名
ながさきで物語をつくろう塾	「市」	重野 裕美	15名	7名	8名
東京出島塾	「行」	大瀬良 亮	29名	17名	12名
在京長崎・感・考・塾	「行」	田尾 正行	19名	14名	5名
総 数		5塾	127名	67名	60名
卒業塾・卒業生数総計		248塾	8,799名	4,600名	4,199名

フォローアップ塾の概要

目的：市民のまちづくりに関する研究、実践活動の振興を図り、もって長崎伝習所事業の目的である市民と行政のネットワークの形成に寄与するため、まちづくり市民団体に対し、長崎伝習所フォローアップ補助金(以下「補助金」という。)を交付する

概要：長崎伝習所「塾」事業において過去に採択されたテーマについて研究、実践活動を行うことを規約等に定めた団体で、かつ次の各号の全部に該当する団体をいう。

(1)その構成員が10名以上であるもの

(2)年間を通して定期的な活動をする見込みのあるもの

(3)その活動が公益的かつ人材育成に寄与するもの

沿革：平成6年度に制度を創設「長崎伝習所まちづくり市民団体活動費補助金」、平成20年度に補助率などを改定し、名称も「長崎伝習所フォローアップ補助金」とした。

審査：運営委員会において、審査を行い、適切と認められたものに対して補助金を交付している。

名称	長崎伝習所フォローアップ補助金
補助金額	1団体1回目20万円を限度
	1団体2回目10万円を限度
	補助対象経費から当該事業に係る収入を差し引いたものの4/5以内
補助制限	1団体2回限り

【交付実績】

年度	塾名
H8	居留地未来塾
H8	上海塾
H8	NG倶楽部
H8	ソフトエネルギー研究センター
H9	NG倶楽部
H9	ソフトエネルギー研究センター
H9	平成の海援隊塾
H9	都夢創野塾
H10	平成の海援隊塾
H10	リサイクル文化研究塾
H11	国際交流塾
H12	国際交流塾
H12	長崎くんち塾
H12	NAGASAKI キラメキ☆シネマ塾
H12	夢いっぱい！図書館塾
H12	出島ルネッサンス塾
H13	長崎くんち塾
H13	夢いっぱい！図書館塾
H13	出島ルネッサンス塾
H14	ごみとくらし研究塾
H14	くらしと環境研究塾
H14	歩いて楽しめまちづくり塾
H15	ごみとくらし研究塾
H15	くらしと環境研究塾
H15	観光長崎ハリアフリ-創造塾
H15	わが町の達人・名人探し塾
H15	長崎ぶらぶら踊り塾
H15	ヤンコ踊り塾
H15	バグパイプ塾
H16	観光長崎ハリアフリ-創造塾
H16	わが町の達人・名人探し塾
H16	ヤンコ踊り塾

H16	河川環境研究塾
H16	出島事始め塾
H17	河川環境研究塾
H17	出島事始め塾
H17	No!ドメスティク・ハイレンス塾
H17	長崎まちづくり事業家研究塾
H17	環境ながさきネットワーク塾
H17	長崎節木塾
H18	No!ドメスティク・ハイレンス塾
H18	長崎まちづくり事業家研究塾
H18	環境ながさきネットワーク塾
H18	長崎節木塾
H18	長崎チェス塾
H18	長崎の歴史再発見塾
H18	長崎の食 探検塾
H18	生きもの再生塾
H18	生ごみシェイパーズ塾
H19	長崎チェス塾
H19	長崎の食 探検塾
H19	生ごみシェイパーズ塾
H19	ちょいわる団塊世代の面白発見塾
H19	長崎弁研究塾
H20	残しておきたい長崎ポर्टレート塾
H20	舞台裏おじゃま塾
H20	メディエーション研究塾
H21	残しておきたい長崎ポर्टレート塾
H21	長崎うんすんかるた塾
H21	長崎 EST ステークホルダー会議塾
H21	長崎イノベーション塾
H21	CM伝塾
H21	おはなし音楽塾
H22	長崎 EST ステークホルダー会議塾
H22	長崎イノベーション塾
H22	おはなし音楽塾
H22	「エコ名人を探せ！」塾

H23	川さるく森川里海塾
H23	長崎洋館音楽舞踏塾
H23	「エコ名人を探せ！」塾
H24	ナガサキポルトガルシルシル塾
H24	長崎ビューポイント探訪塾



フォローアップ補助金審査会 (H24. 4. 24)

九州創発塾の概要

九州創発塾とは、九州に根ざす7新聞社において、自立した地域づくり推進のため、平成5年に「九州平成義塾」、平成12年から「九州発見塾」、平成19年から「九州創発塾～7つのシナジーが切り拓く未来へ」を開催しています。

県境を越えた地域連携・人材交流をととして地域が抱える課題を共有し、ともに行動する機会を提供。塾生間の自主的ネットワーク構築など、その意義を内外に広く顕示しています。

「創発」とは、「複数の部分が融合することで、単純な総和にとどまらない新しい高度な秩序やシステムが生まれること」を意味し、個性豊かな九州の7県が連携することで、及びもつかなかったシナジーが生み出され、豊かで活力に溢れた未来が切り開かれるような願いが込められています。

第6回・宮崎大会は、「新・九州力 食が育む地域の魅力」をテーマに、九州各地から約300名が塾生として集い、九州7県による地域連携や九州の将来について議論を交わしました。

長崎伝習所からも、塾生のネットワークを広げるため、また、スキルアップを目的に6人が参加しました。

宮崎大会概要

テーマ：新・九州力 食が育む地域の魅力
会期：平成24年9月21日(金)～22日(土)
会場：フェニックス・シーガイア・リゾート
主催：九州新聞社7社
共催：九州経済連合会、
中小企業基盤整備機構九州支部

【日 程】

9月21日(金)

10:00	開会式
10:25	宮崎大会趣旨説明 茂木健一郎氏(脳科学者)
11:00	基調講演 「世界の構造転換と日本の進路」 寺島実郎氏(日本総合研究所理事長)
13:05	クロストーク 「九州発!『食』のパワー～家庭からアジアまで～」 茂木健一郎氏 山本謙治氏(農産物流通コンサルタント) 宮田理恵氏(ハトリ-経営企画部長)
14:30	中小企業基盤整備機構「事例に学ぶ!『食』を活用した地域の活性化」 鳥丸聡氏、花堂伸樹氏、渡邊春一氏、中村利雄氏
15:45	旭化成提供講座「宮崎で広がる日本一の“弁当の日”」 水永正憲氏、古川秀幸氏、宮崎県立宮崎農業高等学校「園芸流通部」の生徒達
16:55	特別講演 「食事と脳」 茂木健一郎氏
18:20	塾生交流会 *宮崎日向ひよっこと夏祭りの踊り



大会の様子

9月22日(土)

8:00	分科会 A: 加工が生み出す新たな付加価値 講師: 吉田周司氏 (JA フーズ みやざき取 締役工場長) 内田秀信氏 (ミヤヅ加工品部部长) B: 宮崎を国内最大のキャビア生産 地へ～チョウザメ養殖から 30 年 講師: 毛良明夫氏 (宮崎県水産試験場 小林分場長) C: IT を駆使した農業の産業化～新 福式 6 次産業の現場から～ 講師: 新福秀秋氏 (新福青果社長) D: 「あるもの探し」から一大イベ ントへ～鍋合戦がまちに吹かせた 新風～ 講師: 河野英樹氏 (川南町健康福祉課 課長補佐)、関谷友紀氏 (高鍋商工会 議所中小企業相談所所長)
13:10	ディスカッション
13:40	成果報告会
14:10	大会総括 茂木健一郎氏
14:50	閉会式



分科会 D



参加したメンバー



分科会 A

参加者報告

2012 九州創発塾に参加して

孫文・梅屋庄吉と明治大正長崎事情塾

平山 次男

宮崎県の特産品、地域に根ざした町おこしの事例が取り上げられ、この中で私が一番印象に残った事例は、宮崎農業高校の女子生徒による「弁当の日」の設定を日本全国の中で一番目に提唱して、取り組んだ事にびっくり。小学生、中学生も月に一度手作りの弁当を学校へ持ち寄っていただく活動を演劇にて紹介した事が非常に印象的に思えた。

1日目の講座終了後は、参加者による懇親会が開催されるが、何と宮崎日向ひよっこ夏祭りの踊りが披露されると、会場は一段と盛り上がり1日目を終了する。

分科会は、宮崎県産品による加工が生み出す新たな付加価値のコースを牛肉、豚肉の加工工場及び、野菜の加工工場を回り、皆さん元気に頑張っている様子が良く理解できたこの2日間でした。関係各位の努力によって、私自身この大会に参加できた事は、深く感謝しております。ありがとうございました。

2012 九州創発塾に参加して

孫文・梅屋庄吉と明治大正長崎事情塾

村崎 春樹

この塾の冒頭、脳科学者「茂木健一郎」氏は、あいさつの中で、九州及び日本の自然の原点は、里山であり、里山は人が手を入れていかないと、その機能を維持する事は困難、日本の自然は、人との共存が前提となっている。食はネットワークであり単独食材のみではなく他の食材とパッケージで、おいしくなる。社会保障も、人と人とのネットワークを考えるべきで、金を支給すれば済む話とか、

自己責任論では解決出来ない。人と人とのネットワークが大切との大きなヒントを得た思いでした。

更に、寺島実郎氏の基調講演では、今、世界の構造は大きく変わり、特に中国はアフリカ諸国への経済援助をテコに、中国国営放送である CCTV を使用して「中国プロパガンダ」を展開して、アフリカ諸国を始め、発展途上国の勢力圏を増大させつつあり、大中華圏を築こうとしている。

国内的には原発ゼロの機運が多く発信されているが、九州においては、国内の原発を止めても、中国、韓国の九州側には、100基近い原発がある。これらが日本の原発より安全なのか、日本は、情緒的な考えて、冷静になってベストミックスを目指すべきとの指摘があり、国内的な視点のみではなく世界の日本としての見方で、物事を考えるべきと大変参考になった。

その後のクロストークでは、黒にんにくの製造についてのアイデアを韓国に流用され、ある地区の特産となっている事例もあり、日本、九州から世界へ、特に中国、韓国輸出については十分な検討を要すると感じた。

その他、「宮崎」の食について、農産物の付加価値を高める施設を見学したが、全てJA 関連施設並びに企業で、「本当に海外産の農産物に競走で勝てるのか？」の感じを持った。本当の意味での企業の参入出来る事が必要と感じた。

懇親会においては、各県の参加者と話が出来て良かったが、2日目の自由討議(意見発表)時に、創発塾に連続して参加されている方々が、出会だけでなく、なにか九州全体で活動(行動)を起すべき、その旗振りを各新聞社(事務局)に求めたのには、大変残念な思い

を持った。自からが行動すべきと感じさせられた。

結論としては、参加出来てよかった。色々な意味で自らが行動する事の大切さ、人脈を得る機会が出来れば、それを活用して行動することにより、結果、成果が出せる事を感じた事が参加しての大きな成果でした。

九州創発塾 2012 に参加して

ながさきで物語をつくろう塾

大串 美咲

今大会は「新・九州力 食が育む地域の魅力」をテーマに、講演会やクロストーク、ディスカッション、分科会などで構成された充実した内容でした。総合コーディネーターは脳科学者の茂木健一郎氏、基調講演は日本総合研究所理事長の寺島実郎氏という豪華さ。九州各県から塾生として約 300 人が参加しました。私自身ちょうど「食」の大事さを感じていたので、「オール九州で考えれば食材は全て揃う。」というマクロな視点や、企業と食育活動の実践報告など興味深く聞かせて頂きました。

茂木健一郎氏は、最後に「幸せは豊かで多様な人間関係から感じるもの。今困難な時代だからこそ、毛づくろいをしませんか？」とまとめ、参加者がすぐに行動に移せるように背中を押してくれた気がします。

ネットワーク作りの大事さを実感し、これからの行動を少し変えていく勇気をもたらした大会でした。在籍する「物語塾」の活動にも活かしていきたいと思います。参加させて頂いて、本当にありがとうございました。

九州創発塾で得たもの

長崎の町ねこ調査隊塾

大庭 三慶

・大会前夜の懇談会

7 県揃い踏みでの会は、活気にあふれ、鹿児島県の元気の良さ、宮崎県の人なつっこさ、大分県の愉快さが特徴的で、塾生が充実している感じだった。私も塾活動にもっと積極的にかわり、知恵と勇気でもりあげていきたい。

大会は茂木先生の総合司会だったので随所に素晴らしい話が聞けた。

特に「猿の毛づくろい」のように相手を信頼し、常に相手の立場を考える事によって幸せは到来し、時代に応じた価値観で物事を促せる事が大事だと講義された。更に一步を進める機会だと思った。

分科会ではキャビア生産地を目指す水産試験場の業者の方々の並々ならぬ御苦労に、このパワフルとポジティブこそ宮崎の底力だと思った。長崎でも改めて、その土台を作っていこうと思ひ有意義な三日間に感謝しました。

参加者名簿

所 属	氏 名	分科会
孫文・梅屋庄吉と 明治大正長崎事情塾	平山 次男	A
	村崎 春樹	A
長崎の町ねこ調査隊塾	大庭 三慶	B
ながさきで物語を つくろう塾	大串 美咲	A
	宮野 貴代	A
事務局	平井 敬晃	D

長 崎 伝 習 所 要 綱

(目的)

第 1 条 この要綱は、長崎伝習所（以下「伝習所」という。）を設け、市民と行政の有機的連携を強化することにより、人材の育成と政策を生み出す活動を行い、もって長崎の再生と創造に寄与することを目的とする。

(事業)

第 2 条 伝習所の事業は、おおむね次のとおりとする。

- (1)長崎伝習所「塾」に関すること。
- (2)その他伝習所の目的を達成するために必要と認められる事業

(組織)

第 3 条 伝習所は、総長及び前条に規定する伝習所の事業を実施する者（以下「実施者」という。）で組織する。

- 2 総長は、長崎市長をもって充てる。
- 3 実施者は、総長が指名する者をもって充てる。

(総長)

第 4 条 総長は、伝習所の事業を総理し、伝習所を代表する。

- 2 総長に事故があるときは、あらかじめ、その指名する実施者がその職務を代理する。

(運営委員会)

第 5 条 伝習所に助言機関として運営委員会を置き、その組織、会議等については、別に定める。

- 2 運営委員は、総長が指名する者をもって充てる。
- 3 運営委員会は、伝習所の事業について助言することができる。

(資金)

第 6 条 伝習所の資金は、長崎市からの補助金、寄付金及びその他のものをもって充てる。

- 2 資金は、安全かつ確実な方法により管理するとともに、適正な執行に務めなければならない。

(事業年度)

第 7 条 伝習所の事業年度は、毎年 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終わる。

(決算)

第8条 伝習所は、毎事業年度の決算を翌年度の5月31日までに完結しなければならない。

(事務局)

第9条 伝習所の事務局を総務局企画財政部市民協働推進室内に置く。

(委任)

第10条 この要綱に定めるものを除くほか、必要な事項は別に定める。

附 則

この要綱は、平成3年5月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成3年8月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成23年8月1日から施行する。

長崎伝習所フォローアップ補助金交付要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、予算の定めるところにより、市民のまちづくりに関する研究、実践活動の振興を図り、もって長崎伝習所事業の目的である市民と行政のネットワークの形成に寄与するため、まちづくり市民団体に対し、長崎伝習所フォローアップ補助金（以下「補助金」という。）を交付することについて必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 この要綱において「まちづくり市民団体」（以下「団体」という。）とは、長崎伝習所「塾」事業において過去に採択されたテーマについて研究、実践活動を行うことを規約等に定めた団体で、かつ次の各号の全部に該当する団体をいう。

- (1) その構成員が10名以上であるもの
- (2) 年間を通して定期的な活動をする見込みのあるもの
- (3) その活動が公益的かつ人材育成に寄与するもの

(補助金の額等)

第3条 補助金の額及び補助の対象となる経費は、別表のとおりとする。

(補助金の交付申請)

第4条 団体は、補助金の交付申請を行うものとする。

2 前項の規定により補助金の交付申請を行う団体は、次に掲げる書類を添えて総長に提出しなければならない。

- (1) 補助金交付申請書(第1号様式)
- (2) 事業計画書(第2号様式)
- (3) 事業収支予算書(第3号様式)
- (4) 団体の規約
- (5) 団体の構成員名簿
- (6) その他総長が必要と認める書類

(交付の決定)

第5条 総長は、補助金の交付申請があったとき、当該申請に係る書類等の審査により、適正であると認められた時は、補助金交付決定通知書(様式第4号)を交付するものとする。

(補助金の交付)

第6条 この補助金は、概算払により交付するものとする。

(実績報告)

第7条 実績報告は、補助対象事業が完了した日から起算して1月以内又はその翌年度の4月5日までのいずれか早い日までに提出しなければならない。

2 実績報告は、次に掲げる書類を添えて総長に提出しなければならない。

- (1) 事業実績報告書(第5号様式)
- (2) 事業完了報告書(第6号様式)

- (3) 事業収支決算書(第7号様式)
- (4) その他総長が必要と認めるもの
(長崎市補助金等交付規則の準用)

第8条 この要綱に定めるものを除くほか、補助金の交付等にかかる事項については、長崎市補助金等交付規則(昭和63年長崎市規則第21号)の規定を準用する。この場合において、同規則中「市長」とあるのは「総長」と読み替えるものとする。
(委任)

第9条 この要綱の施行に関し必要な事項は、総長が定める。

附 則

この要綱は、平成6年5月23日から施行し、平成6年度の補助金から適用する。

附 則

この要綱は、平成20年6月10日から施行し、平成20年度の補助金から適用する。

別表(第3条関係)

種別	長崎伝習所フォローアップ補助金
補助金額	1団体1回目20万円を限度 1団体2回目10万円を限度
	補助対象経費から当該事業に係る収入を差し引いたものの4/5以内
補助制限	1団体2回限り
対象経費	報償費(外部の講師・専門家等への謝礼、調査・研究等にかかる報償費) 旅 費(外部講師の移動等にかかる運賃・宿泊費等、視察研修費) 需用費(教材費、文具等の消耗品費、パンフレット・チラシ等の印刷製本費) 役務費(通信運搬費、手数料、保険料等) 使用料・賃借料(会場使用料、車両・器具等の賃借料) その他の経費(その他総長が認めるもの)
対象外経費	団体の構成員による会合の飲食費 団体の構成員に対する人件費、謝礼等 団体の構成員に対する交通費、ガソリン代、駐車場代

備考 補助金額において、1,000円未満の端数があるときは、その端数を切り捨てるものとする。

■ PRグッズ ■

● まいにち denden シール



▲ 円形シール：直径 2.5cm(1 シート 20 枚)

● denden ストラップ



▲ 円形本体：直径 2.7cm(磁器)

● denden バックバナーパネル



▲ バナー：タテ 230×ヨコ 230 cm



「長崎伝習所」平成24年度研究成果報告書

発行：平成25年4月

編集：〒850-0022

長崎市馬町21-1 長崎市市民活動センター内

長崎伝習所事務局(長崎市総務局企画財政部市民協働推進室内)

TEL 095-829-1125 FAX 095-829-2925

E-mail denshusho@city.nagasaki.nagasaki.jp

ホームページ <http://www1.city.nagasaki.nagasaki.jp/denshusho/>

資料室HP <http://www.denshusho.com/>

